岩手県文化財調査報告書 第152集

岩手県内遺跡発掘調査報告書

（平成28年度 復興関係）

平成30年３月

岩 手 県 教 育 委 員 会

岩手県内遺跡発掘調査報告書

（平成28年度 復興関係）

岩 手 県 教 育 委 員 会

序

平成23年３月11日、甚大な被害をもたらした東日本大震災津波の発災から７年が経過しました。震災後に「復興道路」の一つとして位置づけられた、三陸沿岸道路の建設が順調に進捗しており、平成29年度内に山田宮古道路と田老岩泉道路の全線、及び宮古田老道路の一部が、震災後に事業着手された区間としては初めて開通する運びとなりました。また、高台・集団移転地の造成も概ね完成し、大規模開発や個人住宅、企業店舗・施設の再建等、民間開発事業も着実に進められています。

当教育委員会では、埋蔵文化財の保護と復興事業の推進を両立させるため、平成24年度から文化庁の調整により、他道府県から専門職員を平成28年度までの５年間で延べ41名を派遣していただき、震災対応で増員された岩手県職員とともに、沿岸市町村教育委員会への調査支援を含む、膨大な埋蔵文化財調査に対応してまいりました。

本書は、当教育委員会が平成28年度に実施した諸調査の記録をまとめたものです。本書が広く活用され、埋蔵文化財保護に役立てば幸いです。

最後になりましたが、調査及び報告書作成に御指導と御協力をいただきました関係機関・各位に厚く感謝申し上げます。

平成30年３月

岩手県教育委員会
教育長　高　橋　嘉　行

目　　次

序
例言
岩手県沿岸市町村位置図 …… 1
岩手県内復興道路・復興支援道路全体図 …… 2
調査位置図 …… 3
試掘調査
【三陸沿岸道路】
1　サンニヤⅠ遺跡（範囲拡大：洋野町）……11
2　サンニヤⅢ遺跡（新規発見 旧可能性あり11：洋野町）……13
3　荒津内遺跡（新規発見 旧可能性あり15：洋野町）……17
4　木戸場遺跡（久慈市）……19
5　和野新墾神社遺跡（範囲拡大 旧可能性あり２・ICアクセス道路：田野畑村）……21
6　山口駒込Ⅰ遺跡（流末整備：宮古市）……23
【東北横断自動車道釜石秋田線（遠野道路）】
7　栃洞Ⅳ遺跡（新規発見 旧可能性あり30：遠野市）……25
発掘調査
【三陸沿岸道路】
8　南川尻遺跡（範囲拡大：洋野町）……29
9　サンニヤⅠ遺跡（範囲拡大 工事用道路：洋野町）……43
10　サンニヤⅢ遺跡（追加調査：洋野町）……51
11　桑畑Ⅶ遺跡（範囲拡大：久慈市）……59
12　向新田XX遺跡（レベルバンク設置：宮古市）……75
【宮古盛岡横断道路】
13　腹帯Ⅳ遺跡（宮古市）……77
平成28年度 派遣専門職員 ……87
分布・試掘・発掘・工事立会・市町村支援 調査一覧
1　分布調査一覧 ……91
2　試掘調査一覧 ……91
3　発掘調査一覧 ……92
4　工事立会一覧 ……92
5　市町村支援 調査一覧 ……92
報告書抄録

例　　言

1　本書は岩手県教育委員会が平成28年度に実施した県内遺跡発掘調査事業（復興関係）に係る調査成果の概要報告である。

2　本事業は岩手県教育委員会が調査主体となり、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。野外調査・室内整理及び報告書作成・編集は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課埋蔵文化財担当（復興事業担当）が行った。

3　遺跡位置図は、国土交通省国土地理院長承認（承認番号平28情使 第169号）の下、国土地理院発行の1/50,000地形図（数値地図画像）を使用し、一部加筆・改変したものである。

4　調査区の位置図等は、各事業者から提供された工事図面等を原図として作成した。

5　本書では試掘調査により発掘調査対応となった、事業予定箇所の成果概要について記載した。なお、試掘調査のうえ当課による発掘調査を行った箇所については、調査の結果を収録した。

6　遺構・遺物実測図の掲載はページごとに縮尺を記載し、特徴的な表現については図版ごとに注釈を付した。

7　遺構・遺物写真は、主な遺構・遺物を選択して遺跡ごとに掲載した。

8　平成28年度は、復興事業に伴う埋蔵文化財調査の増加が予想されたことから、文化庁による調整の下、当教育委員会では３県から各１名、計３名の専門職員の派遣を受けた。当該年度の埋蔵文化財担当は計12名で、調査体制は以下のとおりである。

＜埋蔵文化財担当＞　文化財専門員 佐藤淳一（総括）

＜予算・経理担当＞　主事 須川翼

＜復興事業担当＞　文化財専門員 半澤武彦　文化財調査員 長屋敷淳史・久保賢治

【他県教育委員会からの派遣専門職員】

上席文化財専門員 伴瀬宗一（埼玉県）文化財専門員 小竹森直子（滋賀県）・大谷宏治（静岡県）

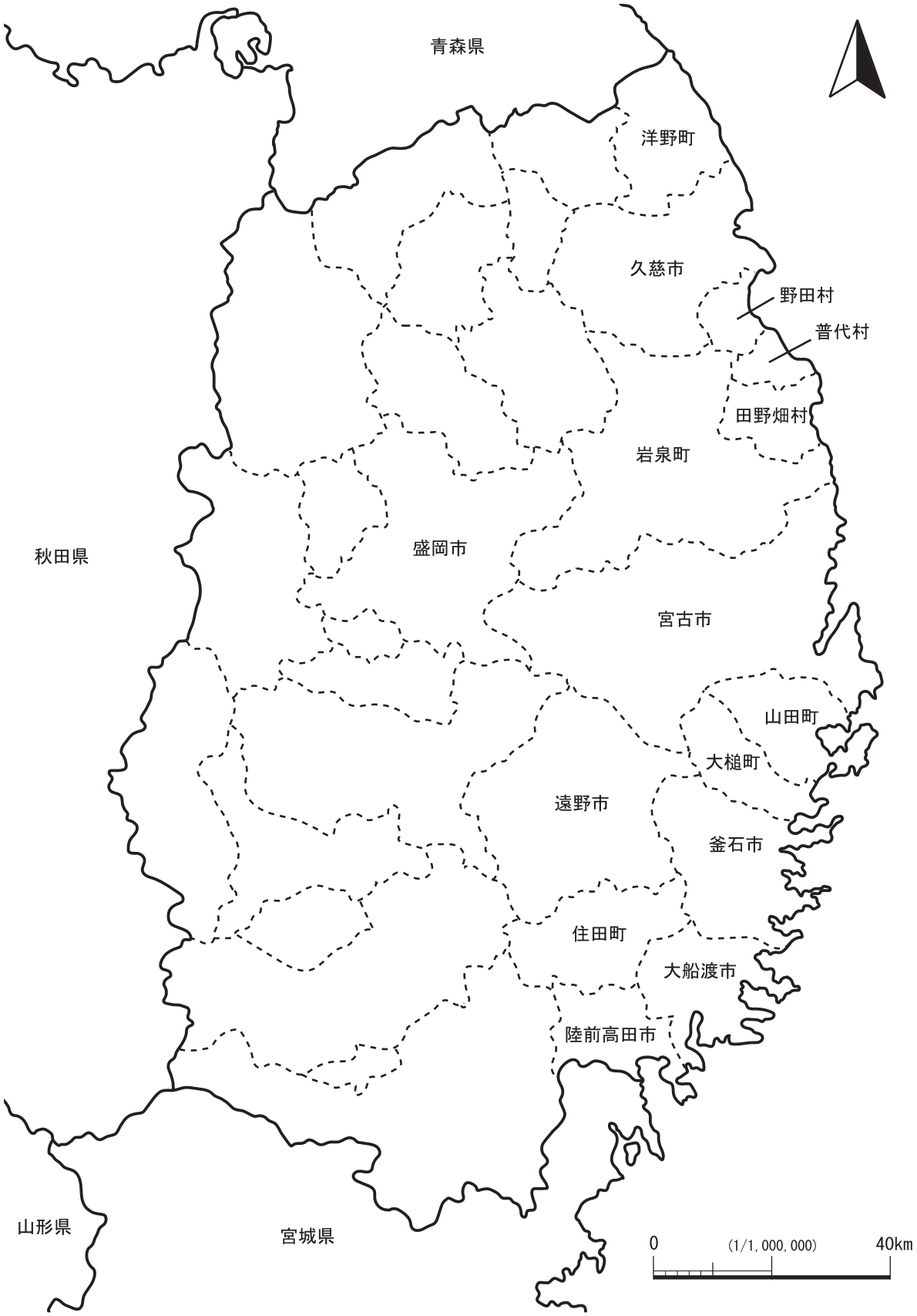
＜通常事業担当＞ 文化財専門員 鳥居達人・佐々木務・大関真人　文化財調査員 高橋祐

9　本書における各遺跡の調査報告文末には、執筆者名を記した。

10　本書は復興事業関係の調査を収録し、編集は半澤と久保が担当した。なお、通常事業関係の調査については、第151集として別途刊行している。

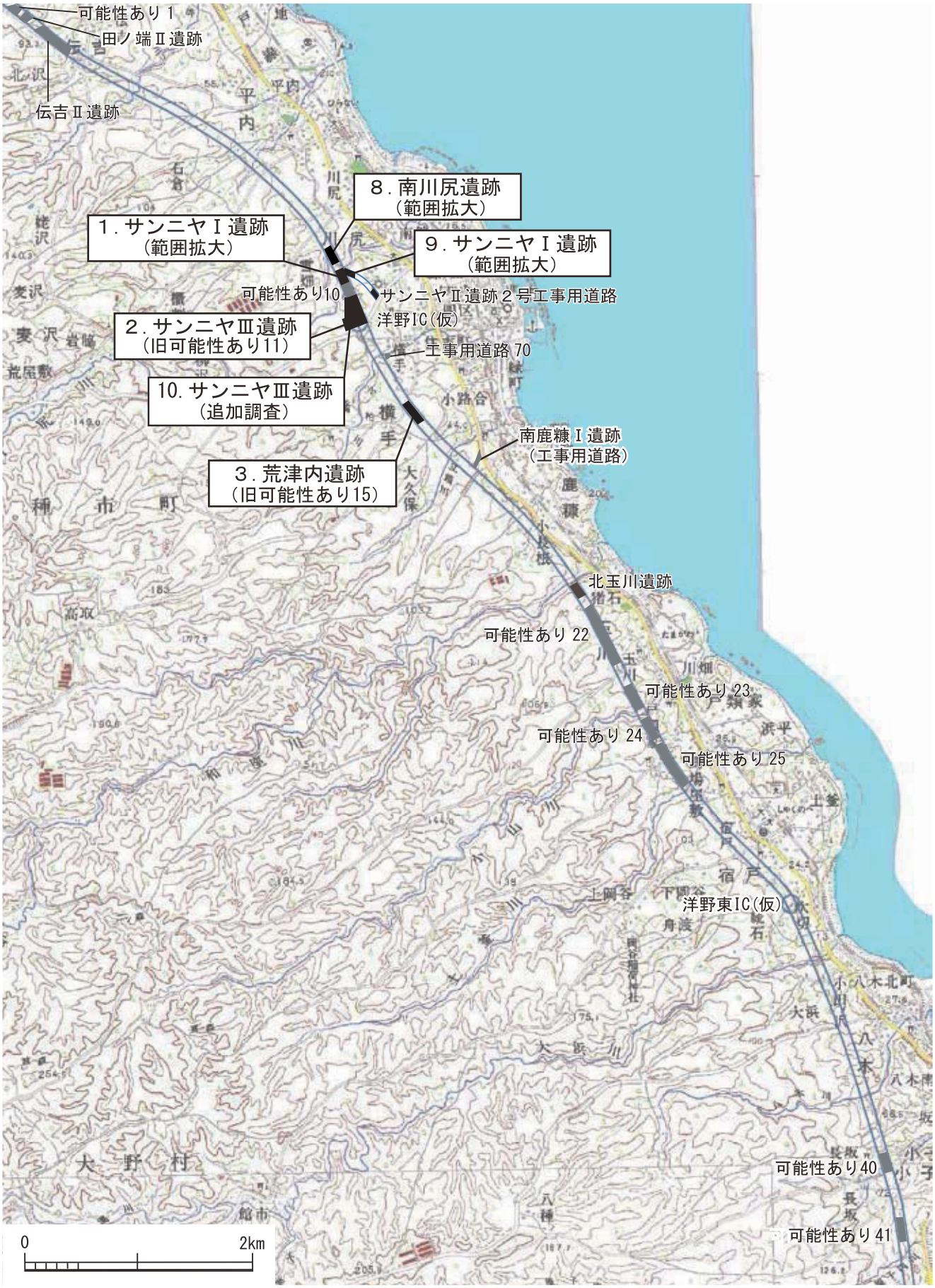
11　本事業の調査記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課（現 生涯学習文化財課）が保管している。

岩手県沿岸市町村位置図



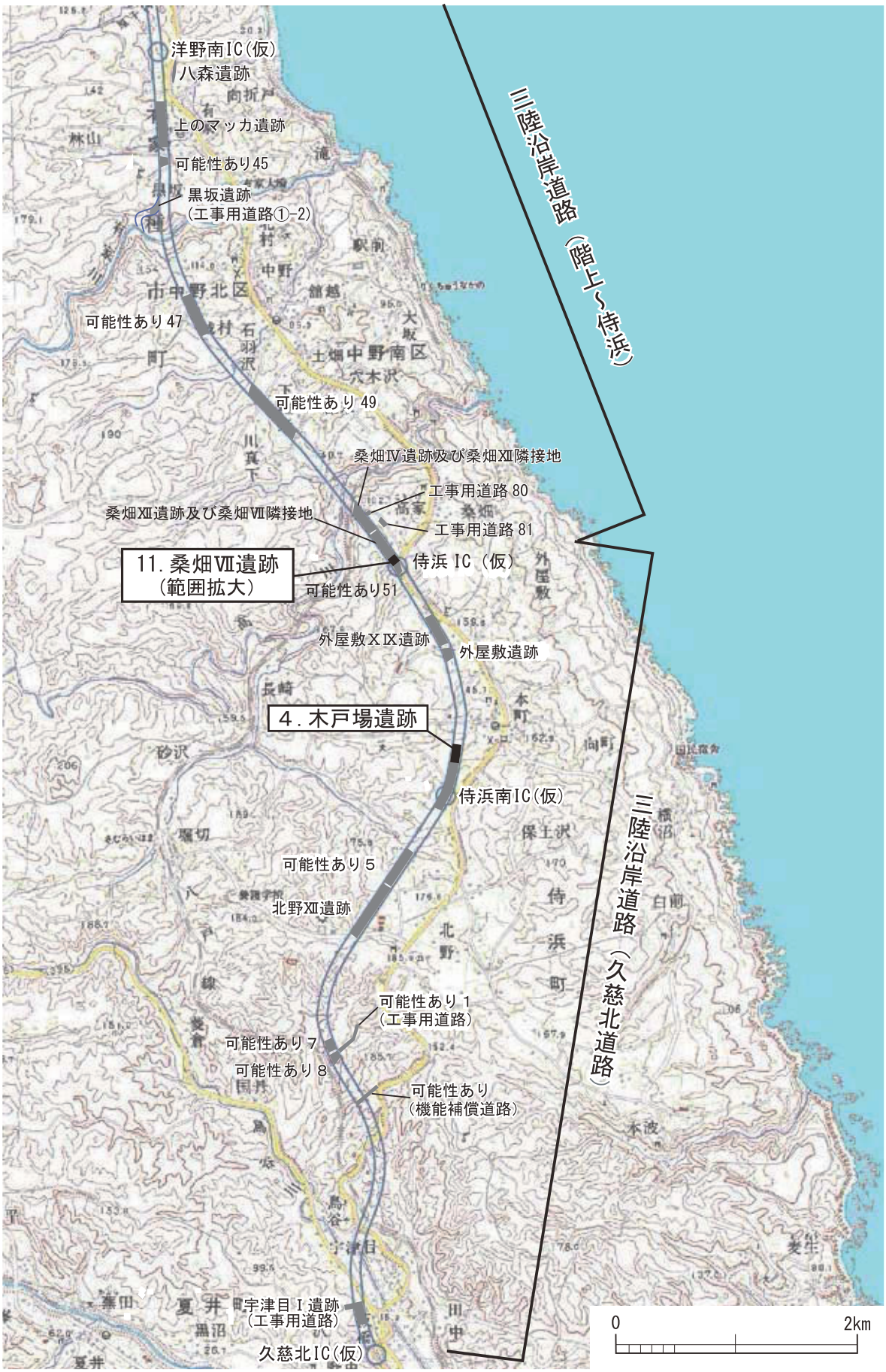
国土交通省三陸国道事務所HPより引用、一部加筆（H29年度末現在）

岩手県内　復興道路・復興支援道路全体図（国土交通省関係）



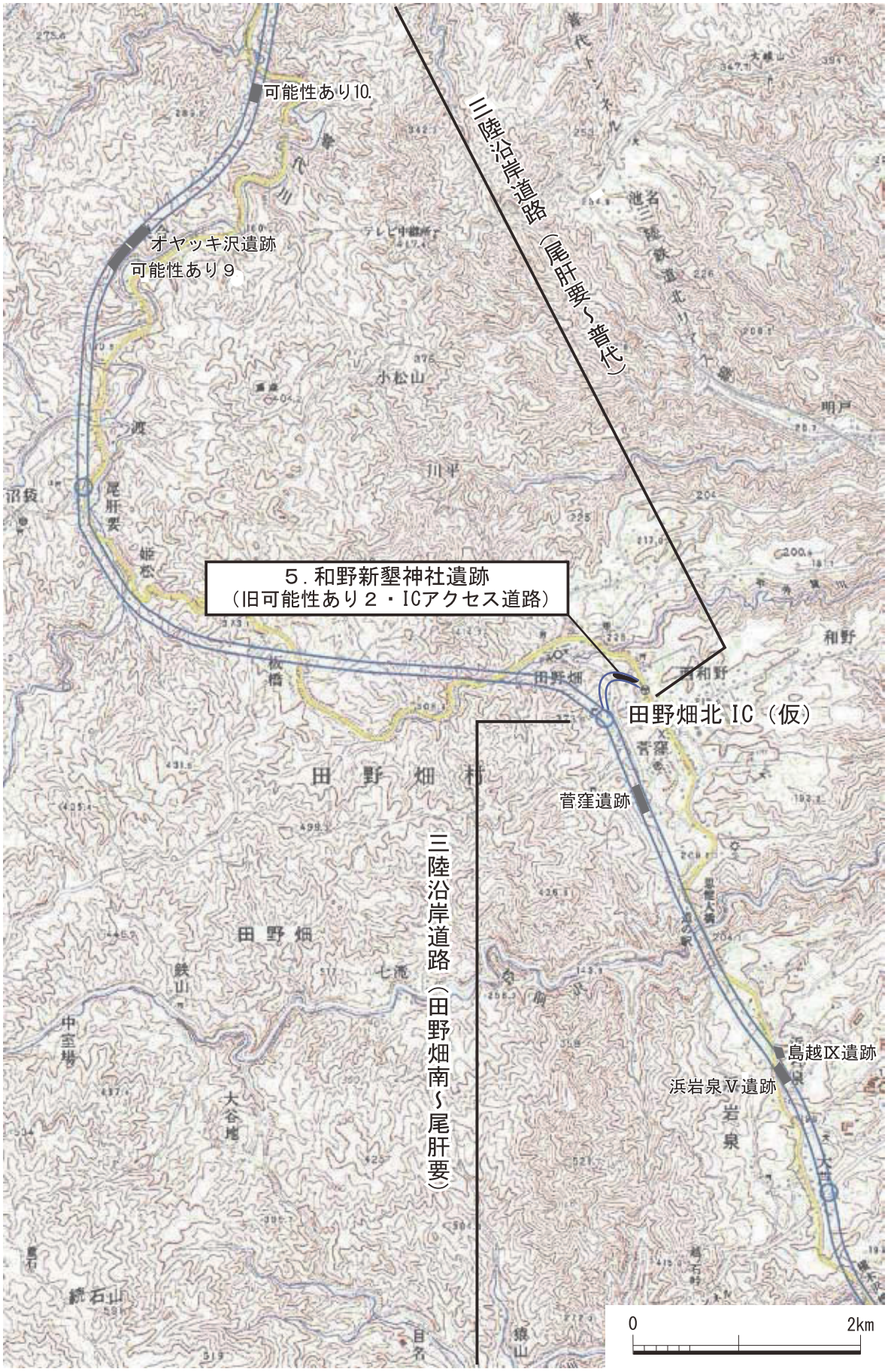
・□は掲載遺跡　・うすい網掛けは過去の調査遺跡

三陸沿岸道路（青森県階上～洋野）調査位置図１



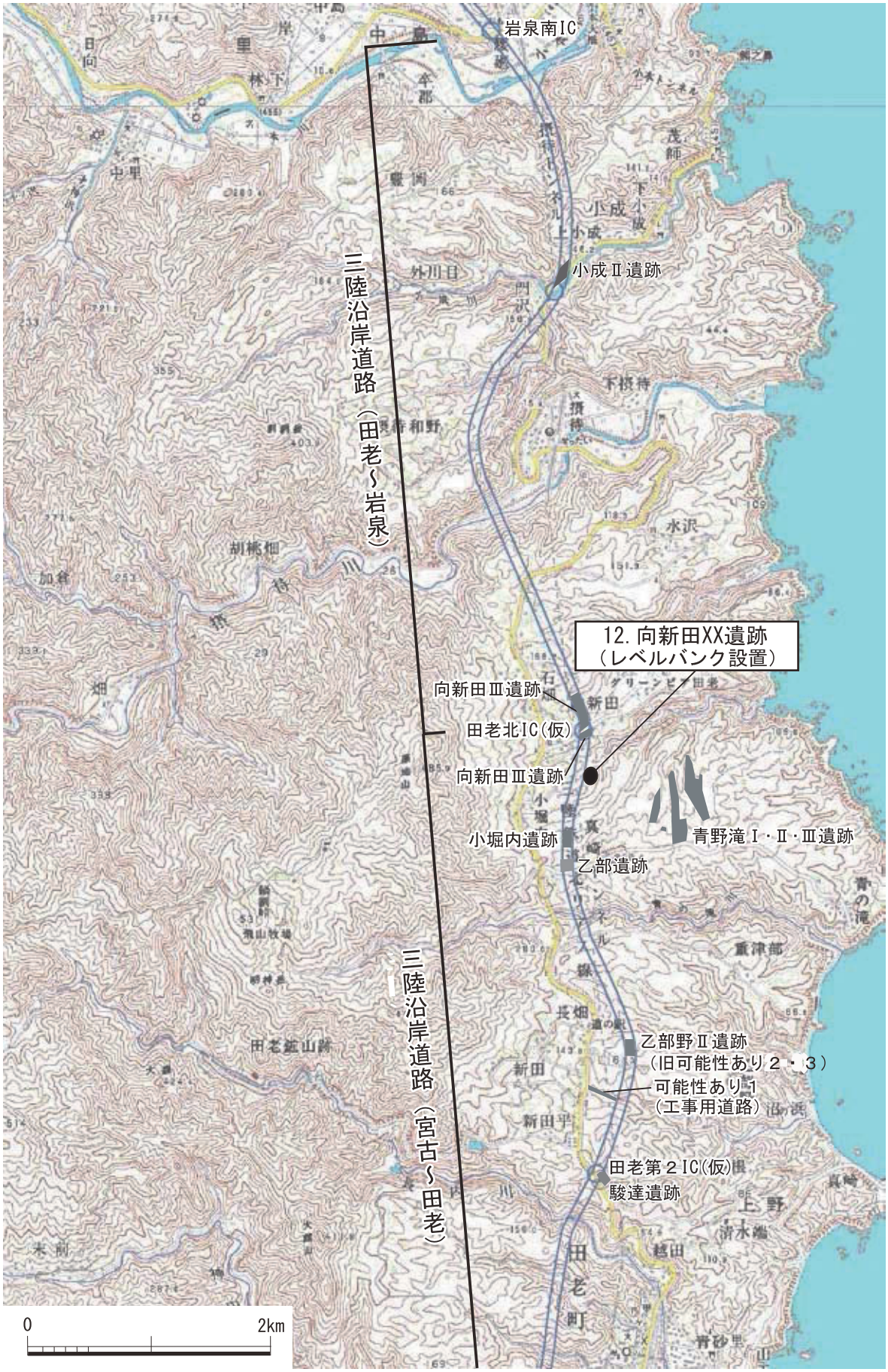
・□は掲載遺跡　・うすい網掛けは過去の調査遺跡

三陸沿岸道路（洋野～侍浜）調査位置図２



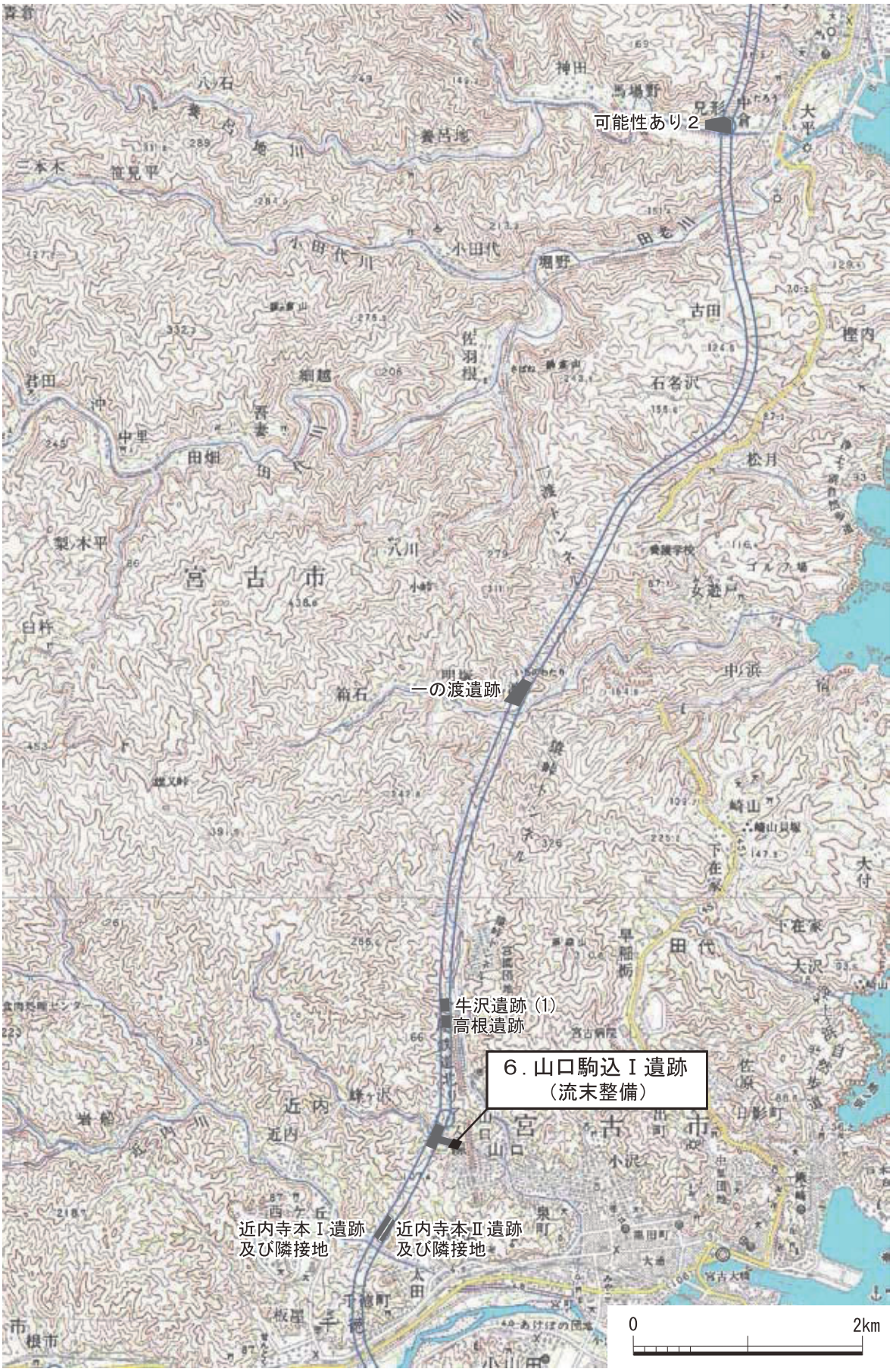
・□は掲載遺跡　・うすい網掛けは過去の調査遺跡

三陸沿岸道路（尾肝要～普代・田野畑南～尾肝要）調査位置図３



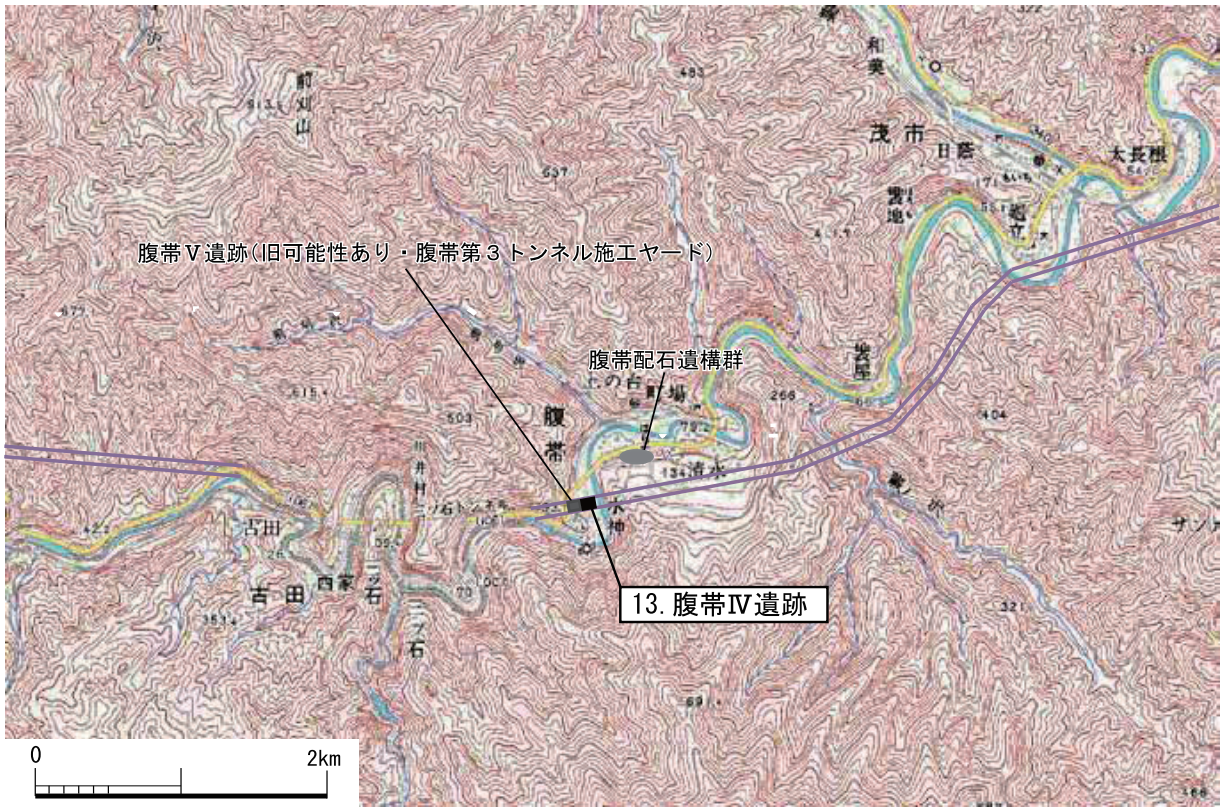
・□は掲載遺跡　・うすい網掛けは過去の調査遺跡

三陸沿岸道路（田老～岩泉・宮古～田老）調査位置図４

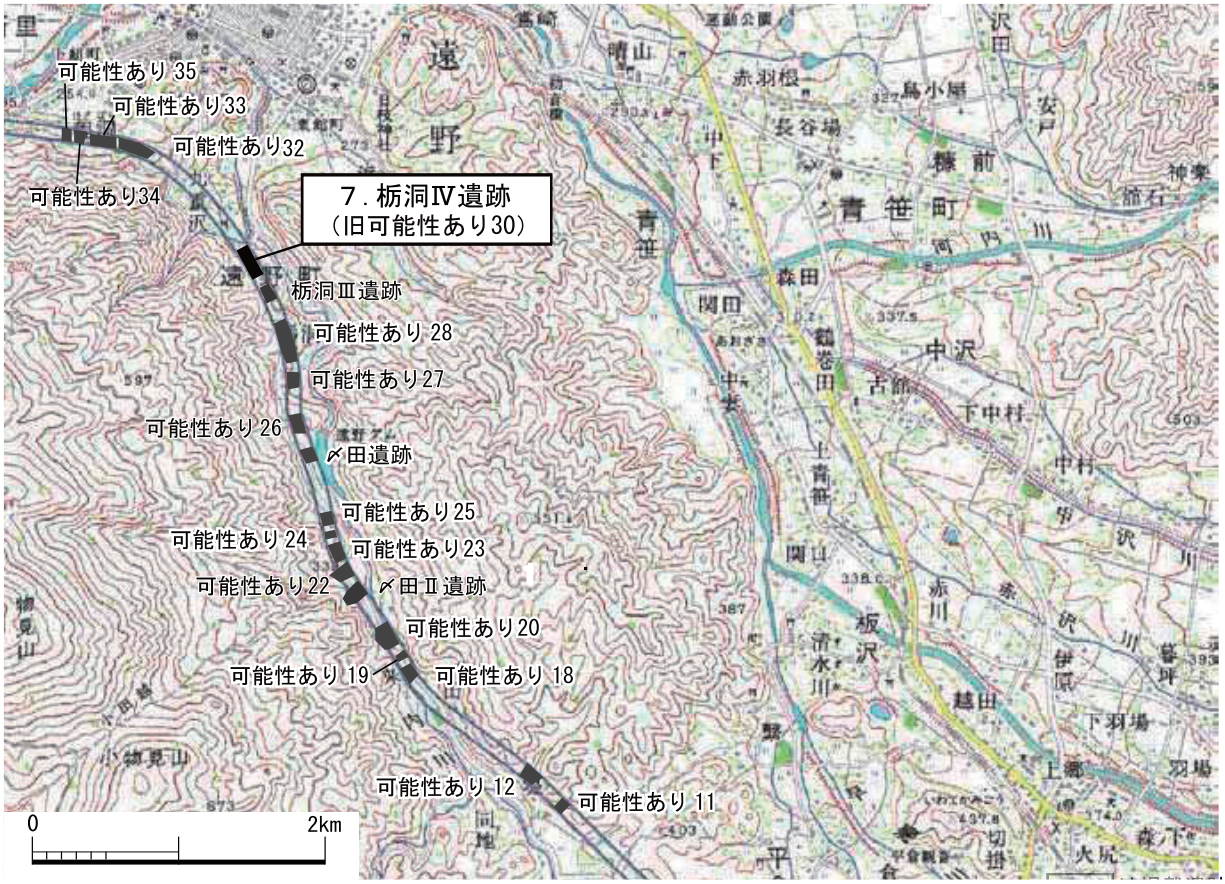


・□は掲載遺跡　・うすい網掛けは過去の調査遺跡

三陸沿岸道路（宮古～山田）調査位置図５



宮古盛岡横断道路（宮古箱石道路）調査位置図６



・□は掲載遺跡　・うすい網掛けは過去の調査遺跡

東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～遠野住田）調査位置図７

試　掘　調　査

1　三陸沿岸道路（洋野階上道路）

サンニヤⅠ遺跡（IF48-2128：範囲拡大）

【所 在 地】　九戸郡洋野町種市第25地割
33－１地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
三陸国道事務所

【調査期日】　平成28年５月17日（水）
～18日（木）

【調査面積】　3,160㎡

【調査結果】　調査地は、洋野町役場種市庁舎から西北西へ約1.5㎞、標高約30～50ｍを測るほぼ平坦な海岸段丘面と、東流する川尻川に突き出した舌状の緩斜面上に位置し、現況は山林や原野となっている。当該地については、平成25年度に実施された本線部分の試掘結果に基づいて、平成27年度に南側の本線平坦部（1,800㎡）を（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下本書内 県埋文センター で表記）が発掘調査を実施し、20基の陥し穴状土坑を検出している。

サンニヤⅠ遺跡 位置図

今回は、橋脚・橋台の施工に伴い、本線上を含めた広範囲に工事用仮設ヤードを整備する必要性が生じ、更なる遺跡の範囲拡大が予想されたことから、委託者と協議のうえ、追加の試掘調査を急遽実施したものである。仮設ヤードの施工に際し、仮盛土での対応が不可能でやむを得ず掘削を伴う範囲を中心に、計11箇所のトレンチ（Ｔ１～11）を設定した。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　黒色土　　層厚15～30㎝（表土・腐食土）

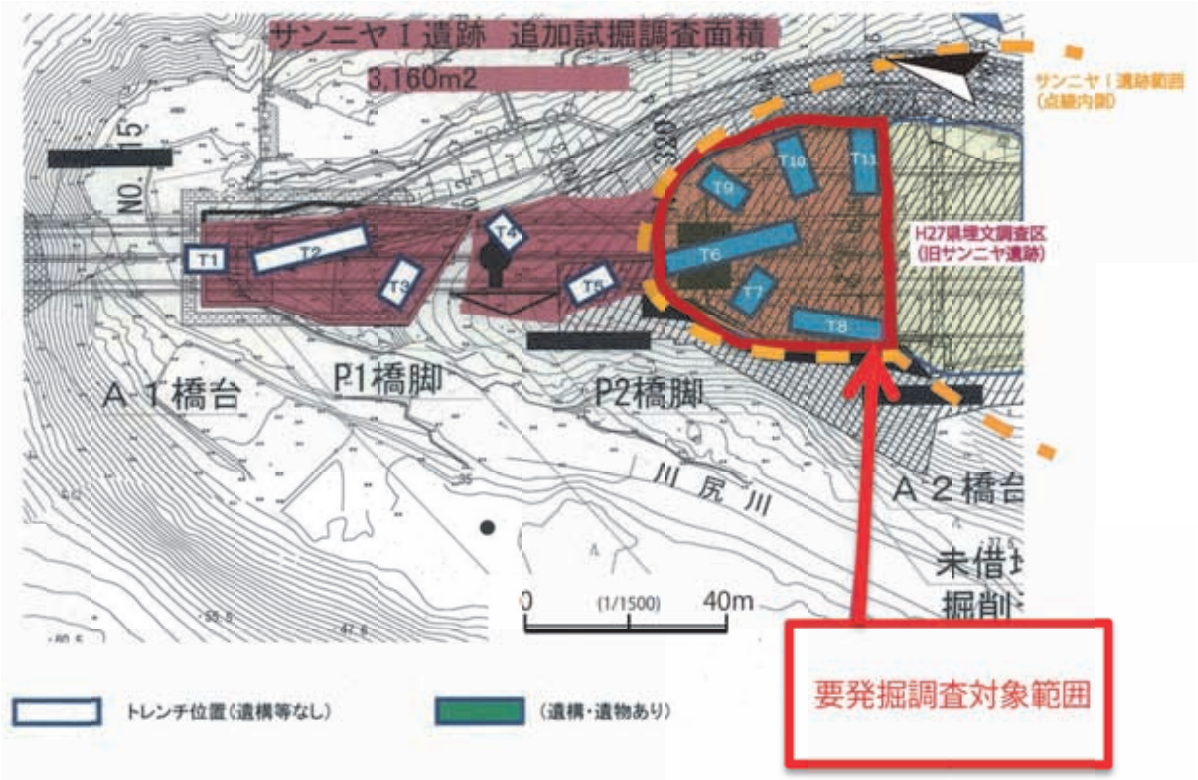
Ⅱ層　暗褐色土　　層厚15～60㎝

Ⅲ層　黄褐色土　　層厚不明（地山）

その結果、川尻川に近接するＴ１～２については、河川の運搬による厚い砂の堆積が確認され、遺構や遺物は一切確認できなかったが、段丘面の平坦部や縁にかけてのＴ６～11からは、陥し穴状土坑と思われる遺構や、石器、縄文土器等が出土した。

以上のことから、本線センター杭№320付近から南側の県埋文センター調査区境までの範囲には、遺構・遺物が連続して所在する可能性が高く、追加の発掘調査が必要と判断されたことから、平成28年度に県埋文センターによる調査が行われた。

なお当該地については、洋野町教育委員会とあらためて協議を行い、隣接する県埋文センター調査地（旧サンニヤ遺跡）の範囲を北側に拡大して、サンニヤⅠ遺跡に名称を変更することとした。（半澤）



サンニヤⅠ遺跡　トレンチ位置図

調査地遠景（南から）

Ｔ７　出土遺物

Ｔ８　出土遺物

出土遺物

２　三陸沿岸道路（洋野階上道路）

サンニヤⅢ遺跡

（IF48-2250：新規発見 旧可能性あり11）

【所 在 地】　九戸郡洋野町種市第25地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成28年６月24日（火）
　　～26日（木）
　　８月１日（月）
　　～５日（金）
　　平成29年２月27日（月）
　　～28日（火）

【調査面積】　32,110㎡

サンニヤⅢ遺跡 位置図

【調査結果】　調査地は、洋野町役場種市庁舎から西へ約２㎞、川尻川南側の丘陵地で、標高差が約25ｍある南向き斜面地と、その裾野に広がる平坦面に位置し、現況は山林や原野である。調査地の北側約200ｍに縄文時代の集落・狩猟場跡であるサンニヤⅠ遺跡、東側約200ｍに古代の集落跡であるサンニヤⅡ遺跡が所在する。

当該地については、本線部分を平成25年度に試掘調査を行い、工事着手可と判断されていたが、設計変更等により事業面積が大きく拡大したため、委託者と協議のうえ数回に分けての試掘調査を再度実施したものである。対象面積が広いことから、時期を分けて総数71箇所のトレンチを設定した。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　暗茶褐色土　　層厚５～20㎝（腐植土）

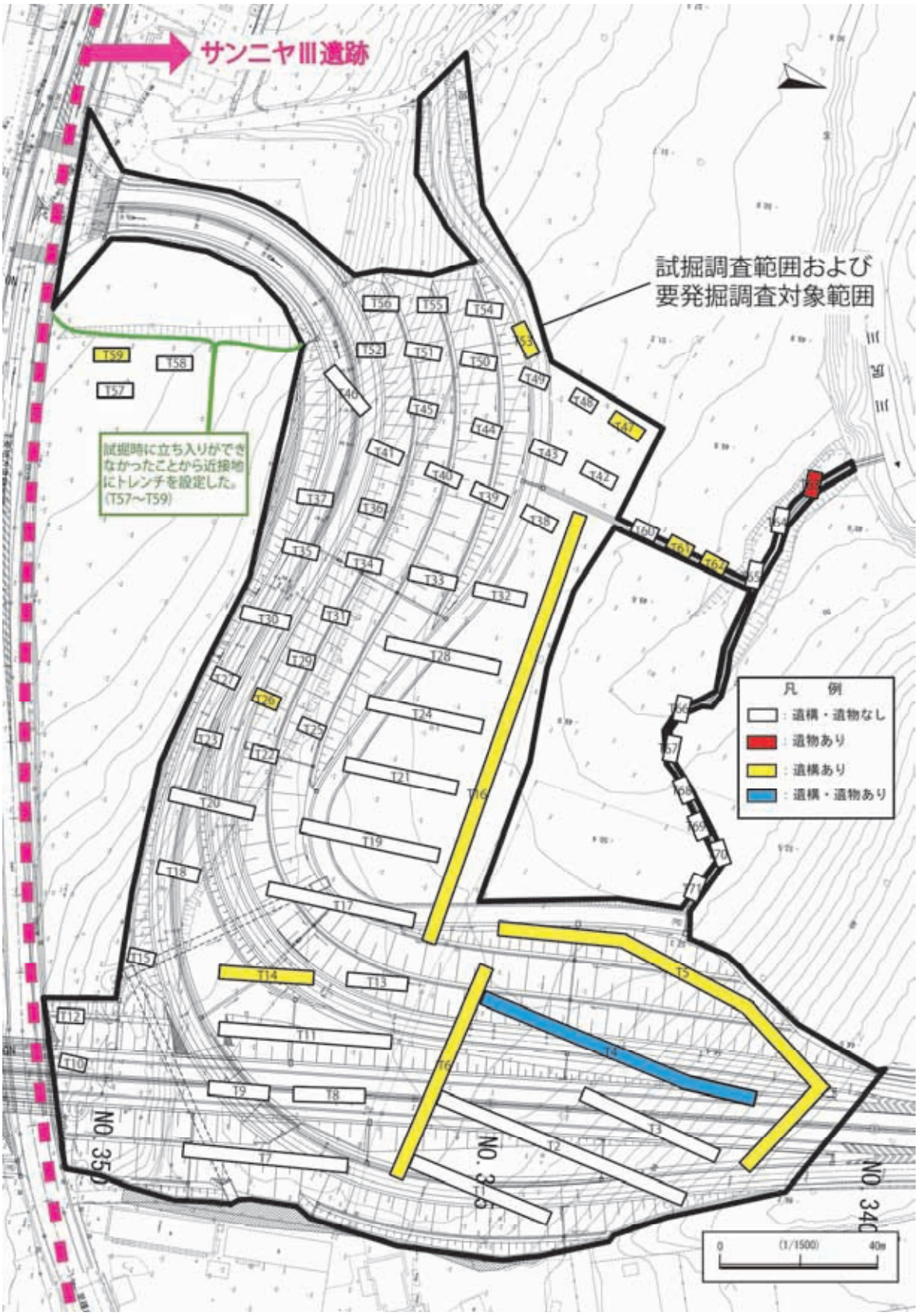
Ⅱ層　暗黄褐色土　　層厚10～60㎝

Ⅲ層　黒色土　　層厚20～120㎝

Ⅳ層　明黄褐色土　　層厚不明（基盤層）

その結果、陥し穴状土坑を29基検出し、Ｔ４では性格不明の遺構プランと少量の石器･縄文土器片、Ｔ５では直径50㎝程度の石積み、Ｔ16の東側から時期が不明の柱穴と考えられる遺構を７基確認した。また、東流する川尻川に近い調査区の北西端Ｔ63付近で、局所的な遺物包含層を確認し、縄文土器や磨石、独鈷石等が出土した。

以上のことから、全域にわたり発掘調査が必要と判断し、平成28～30年度に県埋文センターによる調査を実施することとなった。（久保）



サンニヤⅢ遺跡　トレンチ位置図

調査地全景（南東から）

調査地全景（北から）

Ｔ４　全景

Ｔ４　陥し穴状土坑

Ｔ４　石器検出状況

Ｔ６　陥し穴状土坑

Ｔ59　陥し穴状土坑

トレンチ設定状況（北側）

３　三陸沿岸道路（洋野階上道路）

荒津内遺跡

（IF58-0245：新規発見 旧可能性あり15）

【所 在 地】　九戸郡洋野町種市第20地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成28年５月24日（火）
　　～26日（木）

【調査面積】　12,800㎡

【調査結果】　調査地は、洋野町役場種市庁舎から南西へ約1.2km、オーシャンビュースタジアムの東側に隣接し、標高約60～70ｍの東側に向かってごく緩やかに傾斜した海岸段丘面上に位置する。現況は山林であり、調査対象範囲は本線部分にあたる。

荒津内遺跡 位置図

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　黒褐色土　　層厚15～20cm（表土）

Ⅱ層　黒色土　　層厚30～40cm

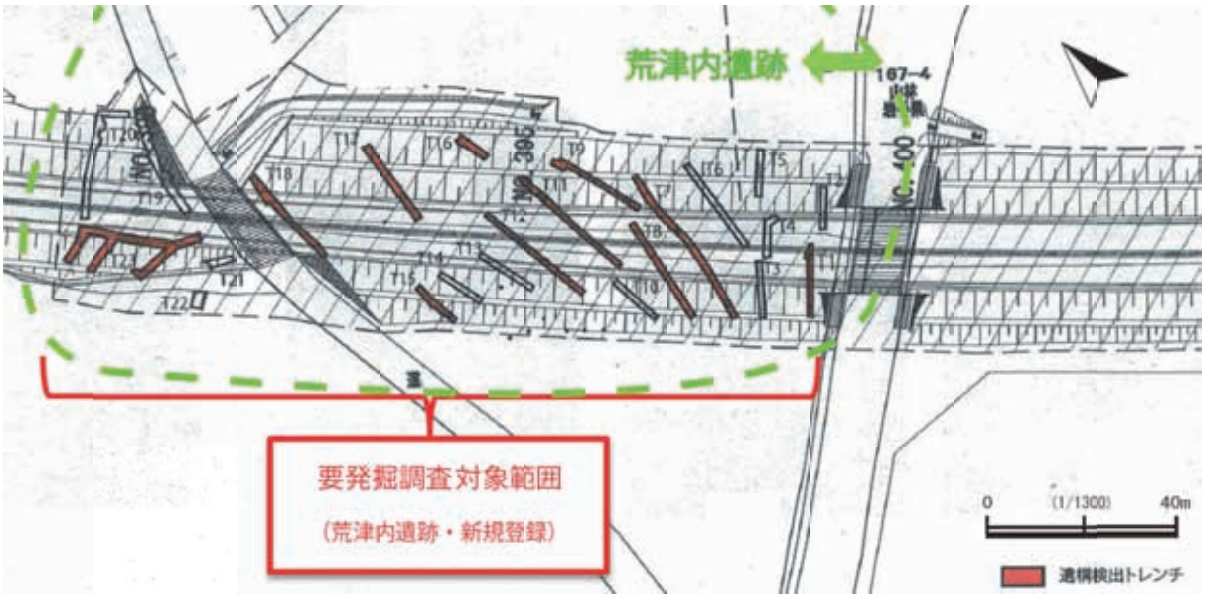
Ⅲ層　黄褐土　　層厚10～20cm（漸移層）

Ⅳ層　黄褐土　　層厚不明（地山）

調査では、23箇所のトレンチ（Ｔ１～23）を設定し、検出された遺構は土坑18基と焼土遺構１基である。内訳は陥し穴状土坑が６基（Ｔ１・７・11・15・18）、直径0.6～１ｍ程度の円形土坑が12基（Ｔ７～９・11・12・15～18）で、焼土遺構１基は調査範囲の北西端（Ｔ23）で検出された。出土遺物はＴ５の表土層から見つかった土師器片１片のみであった。

以上のように、調査範囲はほぼ平坦であるため、近年の植林に伴う造成が行われている可能性が考えられるものの、調査区全域にわたって遺構が分布していると推測できることから、全体の発掘調査が必要と判断した。

なお、当該地については、平成29年度に県埋文センターが発掘調査を実施することとなった。（久保）



荒津内遺跡　トレンチ位置図

Ｔ１　全景

Ｔ１　陥し穴状土坑

Ｔ７　全景

Ｔ７　陥し穴状土坑

４　三陸沿岸道路（久慈北道路）

木戸場（きどば）遺跡（JG00-0135）

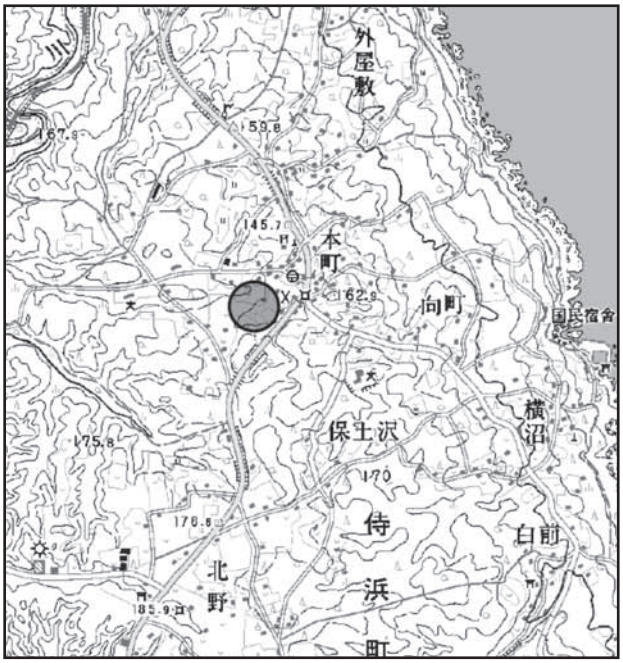
【所 在 地】　久慈市侍浜町本町第９地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成28年12月６日（火）

【調査面積】　1,100㎡

【調査結果】　調査地は、ＪＲ八戸線侍浜駅から東へ約2.5㎞、標高約180ｍの緩やかな起伏を伴う海岸段丘の尾根上に位置し、現況は山林や原野となっている。今回の調査に先立ち、平成25年度に北側緩斜面の試掘調査を実施したものの、遺構・遺物はなく工事着手可と判断されている。今回依頼のあった工事範囲については、木戸場遺跡の南端部及び遺跡の隣接地にあたり、残地の用地交渉が進展したことから追加の試掘調査を実施したものである。



木戸場遺跡 位置図

今回は調査未了地の約1,100㎡に３箇所のトレンチ（Ｔ１～３）を設定した。

基本層序は下記のとおりである。

Ⅰ層　黒褐色土　　層厚20～30㎝（表土）

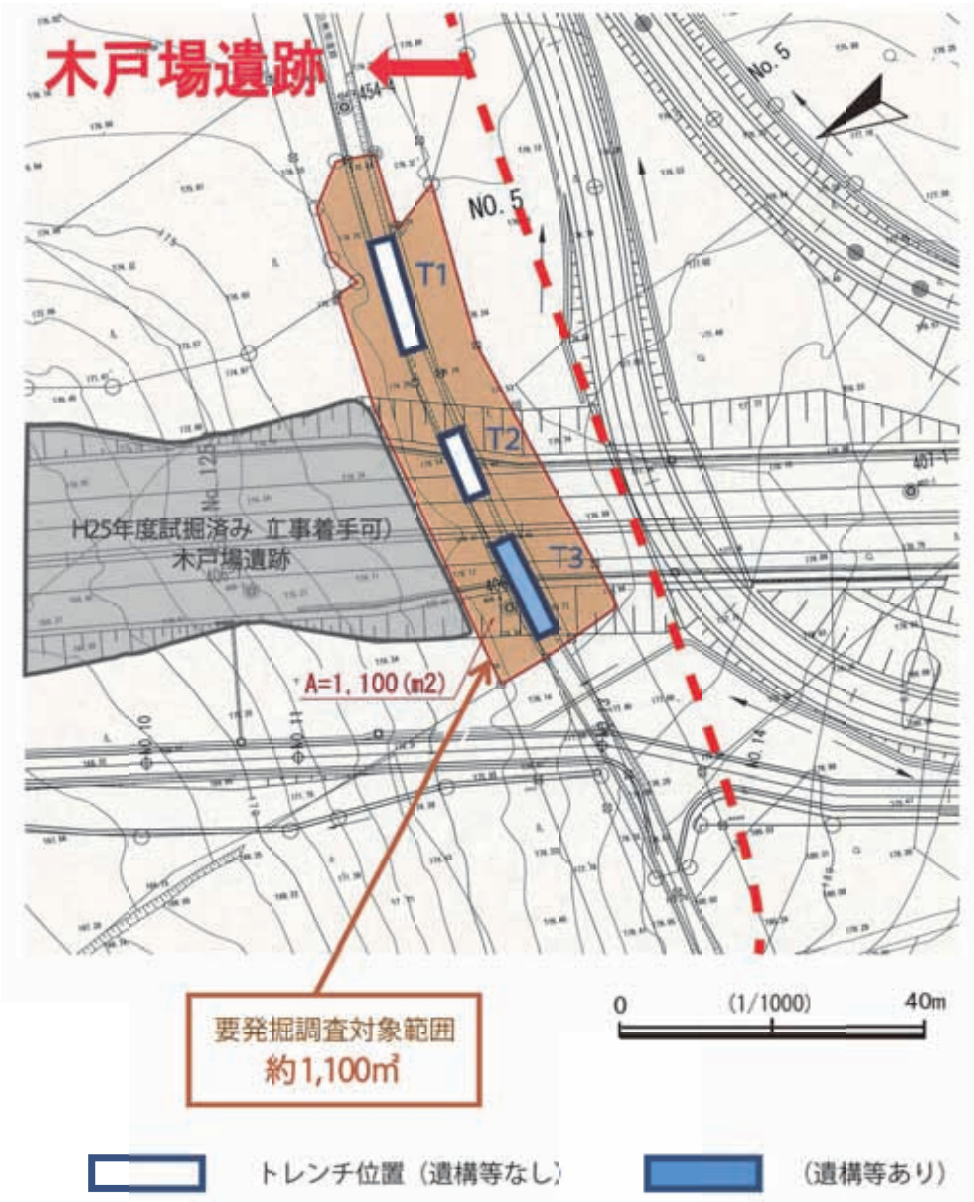
Ⅱ層　砂質礫　　層厚20～30㎝（小～中径の礫を全体に含む）

Ⅲ層　暗褐色土　　層厚40～50㎝

Ⅳ層　黄褐色土　　層厚不明（遺構検出面・地山）

このうちＴ３において、長軸約３ｍ、短軸約0.3ｍの陥し穴状土坑が１基検出された。表土から遺構検出面までの深度は約１ｍと大きいものの、検出された遺構の短軸が小さいことから、上部が大きく削平を受けている可能性が考えられる。出土遺物は一切確認できなかったが、当該工事範囲には、疎らな状態で陥し穴状土坑が分布している可能性が高く、発掘調査が必要と判断した。

なお、当該地については、平成29年度に県埋文センターが発掘調査を実施することとなった。（半澤）



木戸場遺跡　トレンチ位置図

調査地全景（南から）

Ｔ３　陥し穴状土坑

５　三陸沿岸道路（田野畑道路）

和野新墾神社遺跡

（KG22-1262：範囲拡大 旧可能性あり２）

【所 在 地】　下閉伊郡田野畑村菅窪地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成28年11月29日（火）

【調査面積】　2,900㎡

和野新墾神社遺跡 位置図

【調査結果】　調査地は、田野畑村役場から東南東へ約0.6㎞、国道45号線の西側丘陵地に位置し、標高約230ｍを測る。今回の工事範囲は、三陸沿岸道路の本線と国道45号線とを結ぶインターチェンジアクセス道路として整備されるもので、現況は山林や牧草地となっている。周辺には縄文時代から古代にかけての遺跡である和野新墾神社遺跡や菅窪長屋構Ⅰ遺跡が所在する。

調査では５本のトレンチ（Ｔ１～５）を、可能な限り等高線に直交した形で設定した。

基本層序は以下のとおりである。

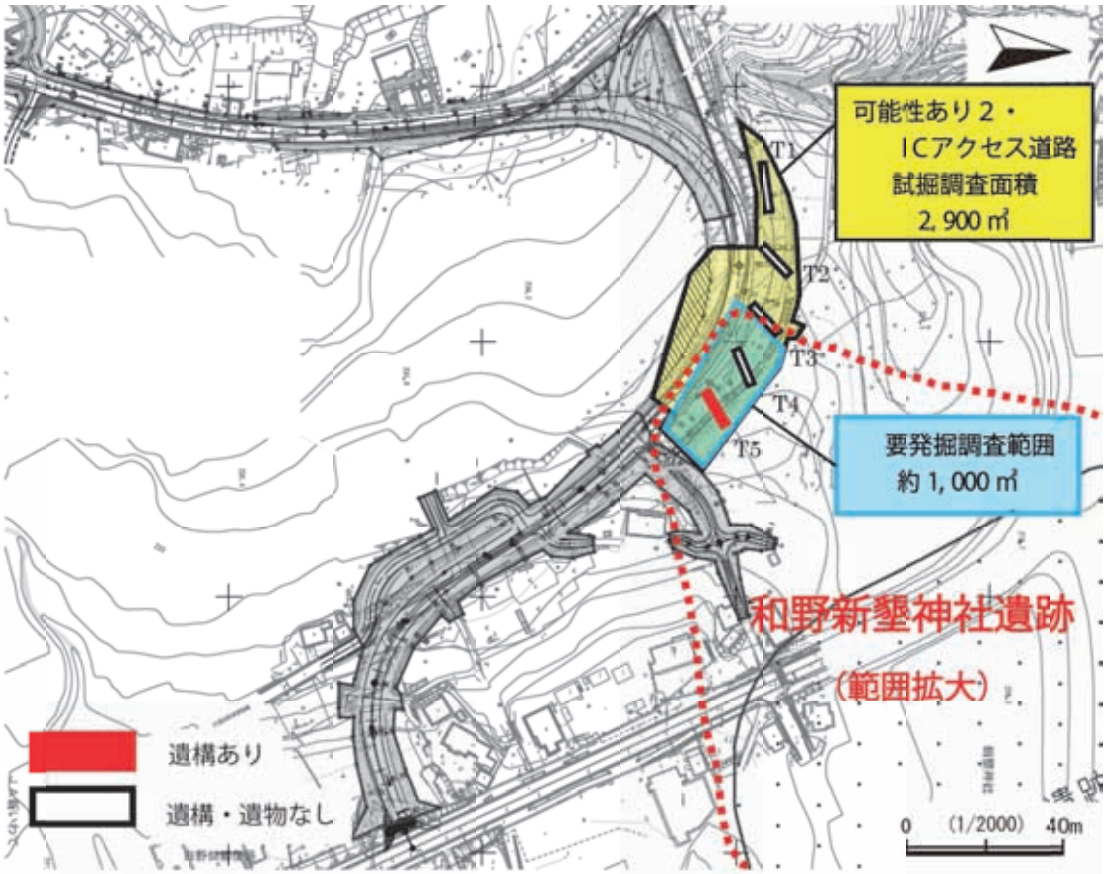
Ⅰ層	黒褐色土	層厚15～30㎝（表土）
Ⅱ層	黄褐色・黒褐色混合土	層厚0～30㎝
Ⅲ層	明黄褐土	層厚不明（地山）

重機により表土を除去し、人力による精査を行った結果、１本のトレンチ（Ｔ５）から遺構が検出された。遺構は直径約50㎝の円形土坑１基で、上部は過去の削平により失われてはいるものの、底部から約20㎝まで残存している。埋土には十和田火山起源と考えられる火山灰の二次堆積層が見られ、縄文時代前期以前のものと考えられる。

調査前は「可能性あり２・ＩＣアクセス道路」としていたが、当該試掘調査により遺構が確認されたことから、田野畑村教育委員会と協議のうえ、東側に隣接する和野新墾神社遺跡の範囲に含めて拡大することとした。

なお、当該地については、平成29年度に県埋文センターが発掘調査を実施することとなった。

（小竹森・久保）



和野新墾神社遺跡　トレンチ位置図

調査前風景（北側）

Ｔ５　土坑検出状況

６　三陸沿岸道路（宮古田老道路）

山口駒込（やまぐちこまごめ）Ⅰ遺跡（LG23-2244）

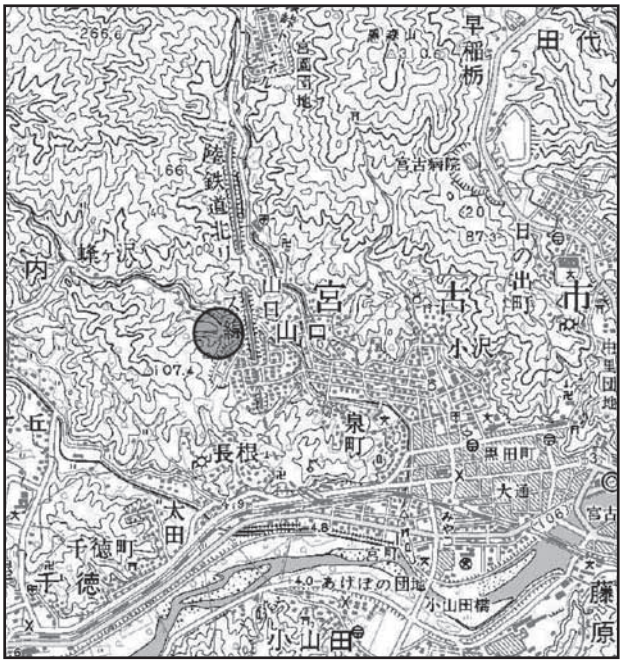
【所 在 地】　宮古市山口２丁目地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成28年10月20日（木）

【調査面積】　265㎡

【調査結果】　調査地は、三陸鉄道北リアス線山口団地駅から北北西へ約0.6㎞、標高30m前後を測る山稜緩斜面及び平坦面上に位置し、現況は畑地や原野、道路となっている。当該地については、平成27年度に県埋文センターによって発掘調査が行われ、縄文・古代の遺物や数多くの遺構が確認されている。



山口駒込Ⅰ遺跡 位置図

今回の追加調査については、本線工事の進捗に伴って集まった大量の雨水が近隣住宅地へ流入するようになったため、流末施設（排水溝）の設置が急遽計画されたことによるものである。試掘調査は排水溝の設置が予定される、県埋文センター調査区の縁から東側へ約20mと、三陸鉄道の築堤法尻に沿う約120mにおいて、樹木や小屋等の障害物や三陸鉄道の擁壁を避けながらトレンチを３箇所（Ｔ１～３）設定した。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　暗褐色土　　層厚20～30㎝（表土・腐食土）

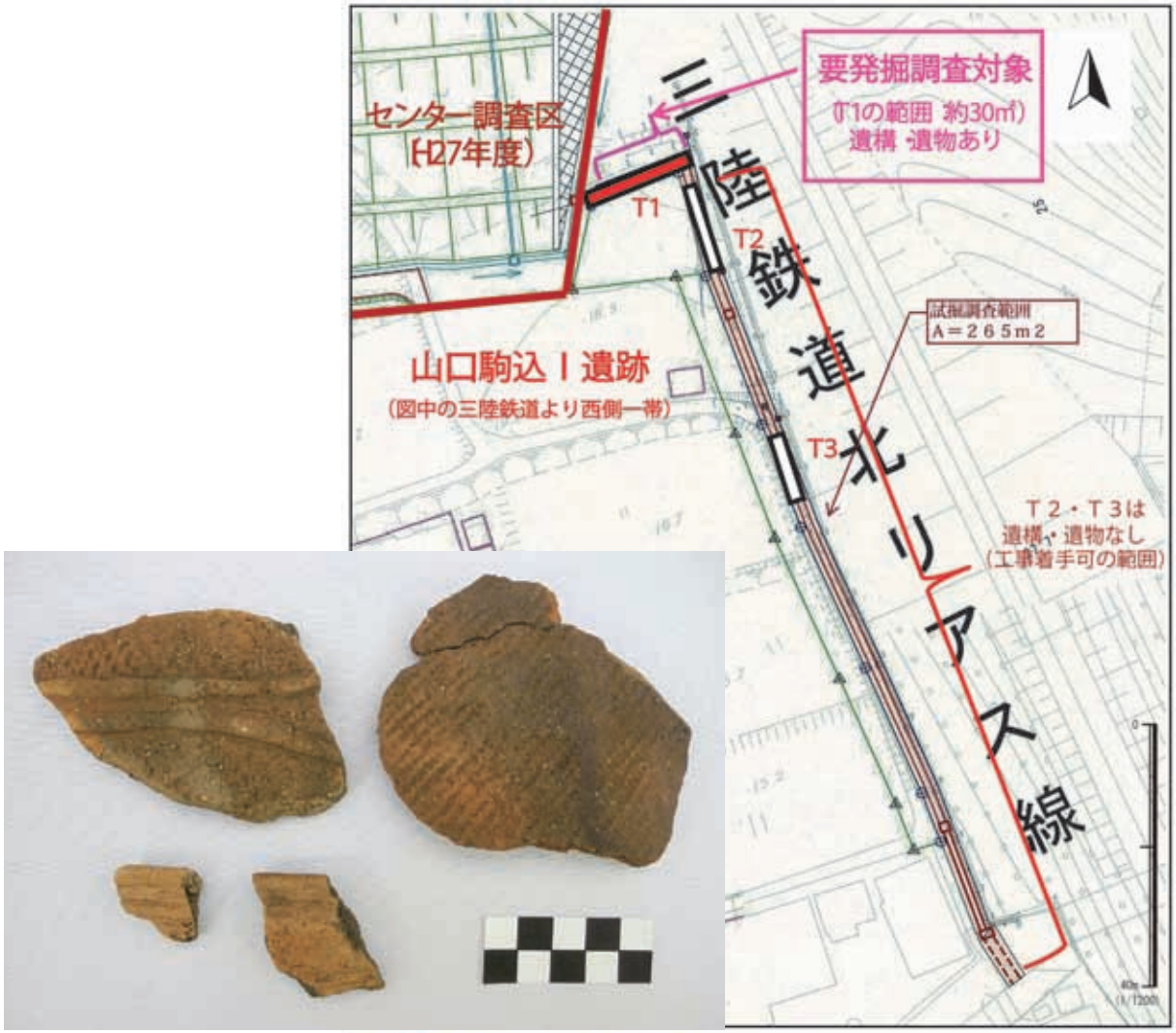
Ⅱ層　黒褐色土　　層厚70～80㎝（遺物包含層）

Ⅲ層　黄褐色土　　層厚不明（地山）

その結果、Ｔ１ではⅡ層において厚い遺物包含層（縄文土器）が確認され、西端付近で径20㎝程度の柱穴状土坑を検出した。一方、三陸鉄道の築堤縁に近接するＴ２～３では遺構や遺物が一切確認できず、三陸鉄道（旧国鉄宮古線）が建設された当時の攪乱等が随所で見られた。

以上のことから、東西方向に延びる流水溝予定地（Ｔ１）のみ発掘調査が必要と判断した。

なお、当該地については、工事工程上急を要することから、平成28年度に県埋文センターによる発掘調査を実施した。（半澤）



山口駒込Ⅰ遺跡　トレンチ位置図およびＴ１出土遺物写真

調査地遠景（北西から）

Ｔ１　柱穴状土坑

7　東北横断自動車道釜石秋田線（遠野道路）

栃洞（とちほら）Ⅳ遺跡

（MF55-0091：新規発見 旧可能性あり30）

【所 在 地】　遠野市遠野町第30地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　岩手河川国道事務所

【調査期日】　平成28年６月13日（月）
　　～15日（水）

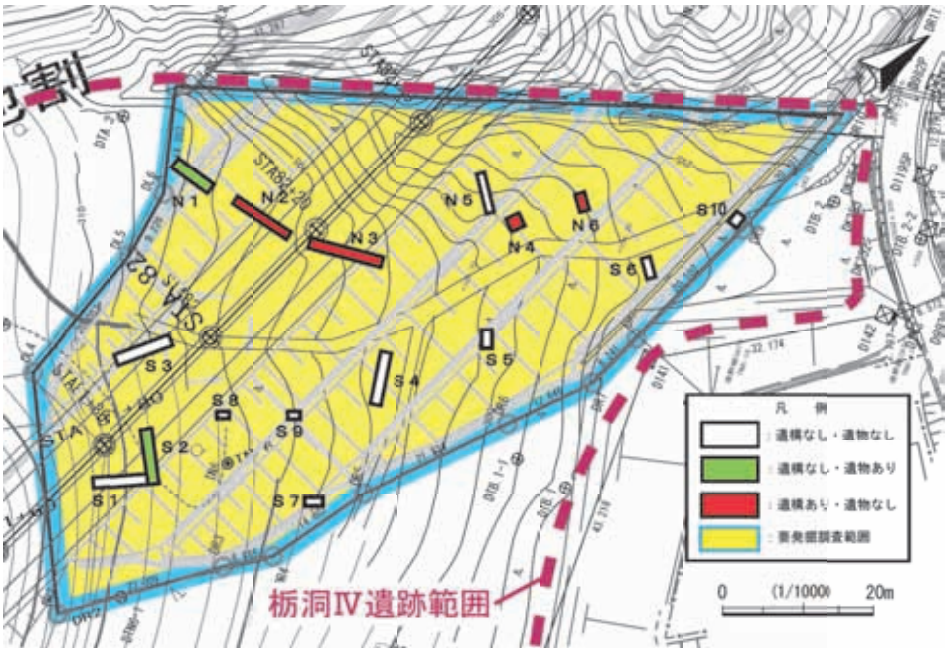
【調査面積】　4,300㎡

【調査結果】　調査地は、遠野市役所から南西へ約1.3kmに所在し、南西から北東方向にのびる尾根の先端付近にあたり、標高約295～310mを測る。当該地の南東に隣接する栃洞Ⅲ遺跡では、平成26年度に県埋文センターが実施した発掘調査により、縄文時代の陥し穴状土坑や竪穴住居跡を確認したほか、平安時代の遺物も出土している。

栃洞Ⅳ遺跡 位置図

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層	暗褐色腐植土	層厚5～15cm
Ⅱ層	黒ボク質土	層厚10～80cm
Ⅲ層	暗灰褐色・茶褐色混合土	層厚10～30cm（遺構掘込面）
Ⅳ層	明黄茶色土	層厚不明（遺構検出面）



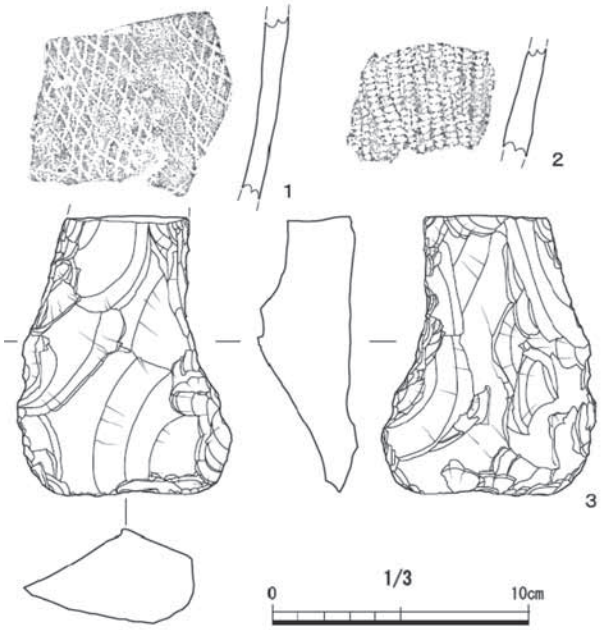
栃洞Ⅳ遺跡　トレンチ位置図

16箇所のトレンチ（北側調査区：Ｎ１～６・南側調査区：Ｓ１～10）を設定した結果、Ｎ２～４・６において、Ⅲ層上面から掘り込まれたほぼ円形を呈する土坑４基とピット１基を検出し、Ｎ１・Ｓ２のⅡ層とⅢ層の境目付近からは、摩耗のない縄文時代中期の土器片10点程度（出土遺物№１・２）、打製石斧の未成品と思われる石器１点（№３）が出土した。またＮ６から、竪穴住居跡と推測される遺構の一部を検出した。Ｓ１～10では明確な遺構は認められなかったが、Ⅲ層の広がりが認められることから、遺構が存在する可能性が高いと判断した。

なお、当該地については、工事工程上急を要することから、平成28年度に県埋文センターによる発掘調査を実施した。（小竹森）

Ｎ２　遺構検出状況

Ｎ３　遺構検出状況



遺構及び遺物写真・実測図

発　掘　調　査

８　三陸沿岸道路（洋野階上道路）

南川尻（みなみかわしり）遺跡（IF48-1197：範囲拡大）

【所 在 地】　九戸郡洋野町種市第28地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成28年４月18日（月）
　　～５月25日（水）

【調査面積】　1,320㎡

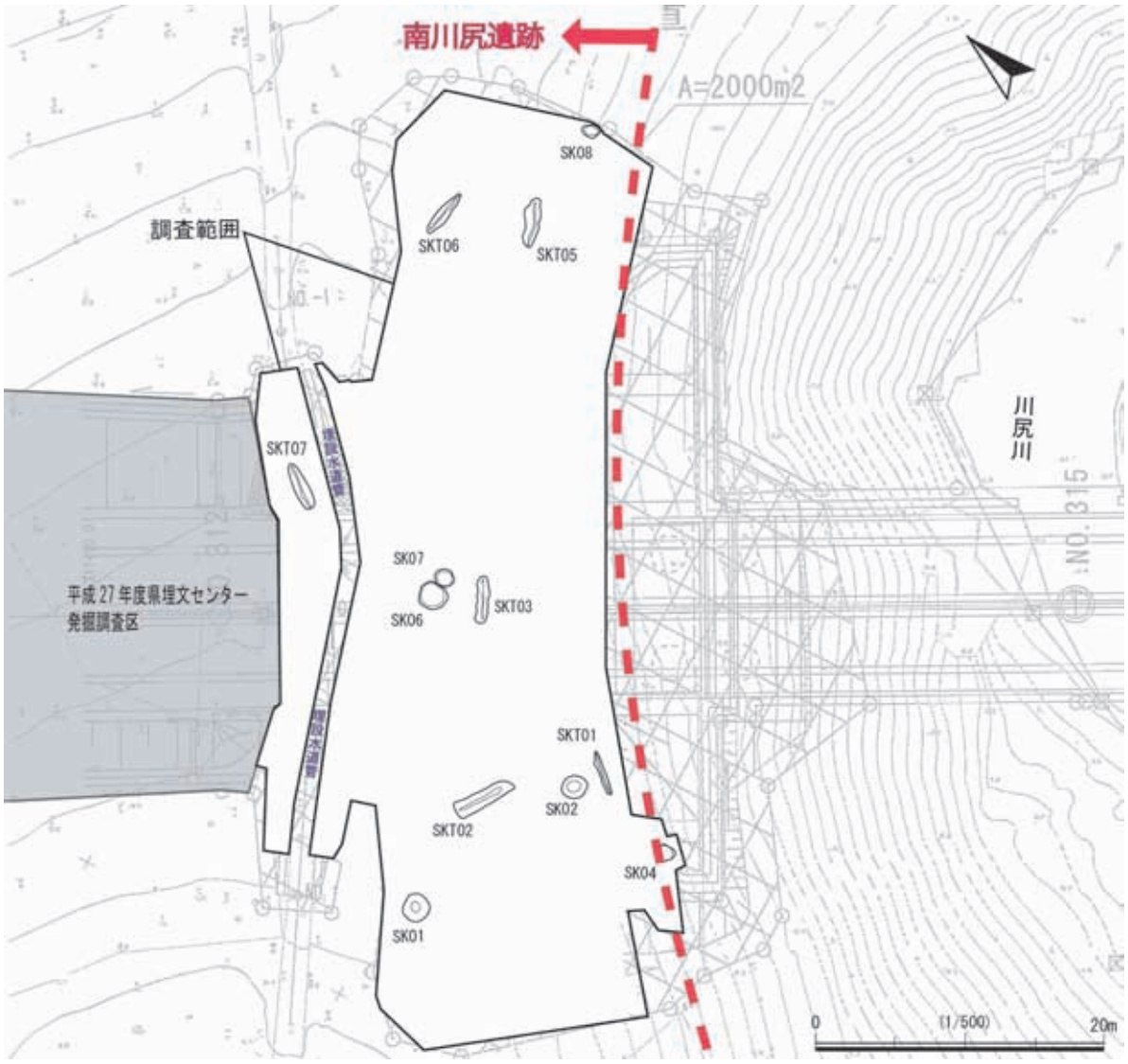
南川尻遺跡　位置図

【調査結果】　調査地は、洋野町役場種市庁舎の西北西約1.8㎞に所在し、蛇行する川尻川の左岸に沿って、北東方向に舌状にのびる丘陵上に位置し、標高は60m前後である。調査対象地の北西側隣接地において、平成27年度に県埋文センターが実施した発掘調査では、縄文時代後期の竪穴住居跡や陥し穴状土坑などが確認されている。今回の調査対象地は、工事工程上急を要する本線及び工事用ヤードの予定地であり、平成28年３月10日に実施した試掘調査で陥し穴状土坑や土坑等を検出したことから、当課による発掘調査を急遽実施することとなった。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層	暗茶褐色土	層厚５～10㎝（腐植土）
Ⅱ層	暗灰色土	層厚20～35㎝（黒ボク質土）
Ⅲ層	暗灰褐色・黄茶色混合土	層厚20～50㎝
Ⅳ層	黄茶色～暗茶色土	層厚20～55㎝
Ⅴ層	橙褐色土	層厚不明

遺構はⅢ層上面から掘り込まれているものの、遺構埋土との識別が不明確であることから、Ⅳ層上面で遺構検出・精査を行った。その結果、陥し穴状土坑６基・円形土坑６基を検出した。遺構名称は検出順に01から番号を振ったものを本文で用いていることから、のちに風倒木痕や樹根跡であることが判明したものは欠番としている。



南川尻遺跡　調査全体図

【陥し穴状土坑（略号：SKT）】

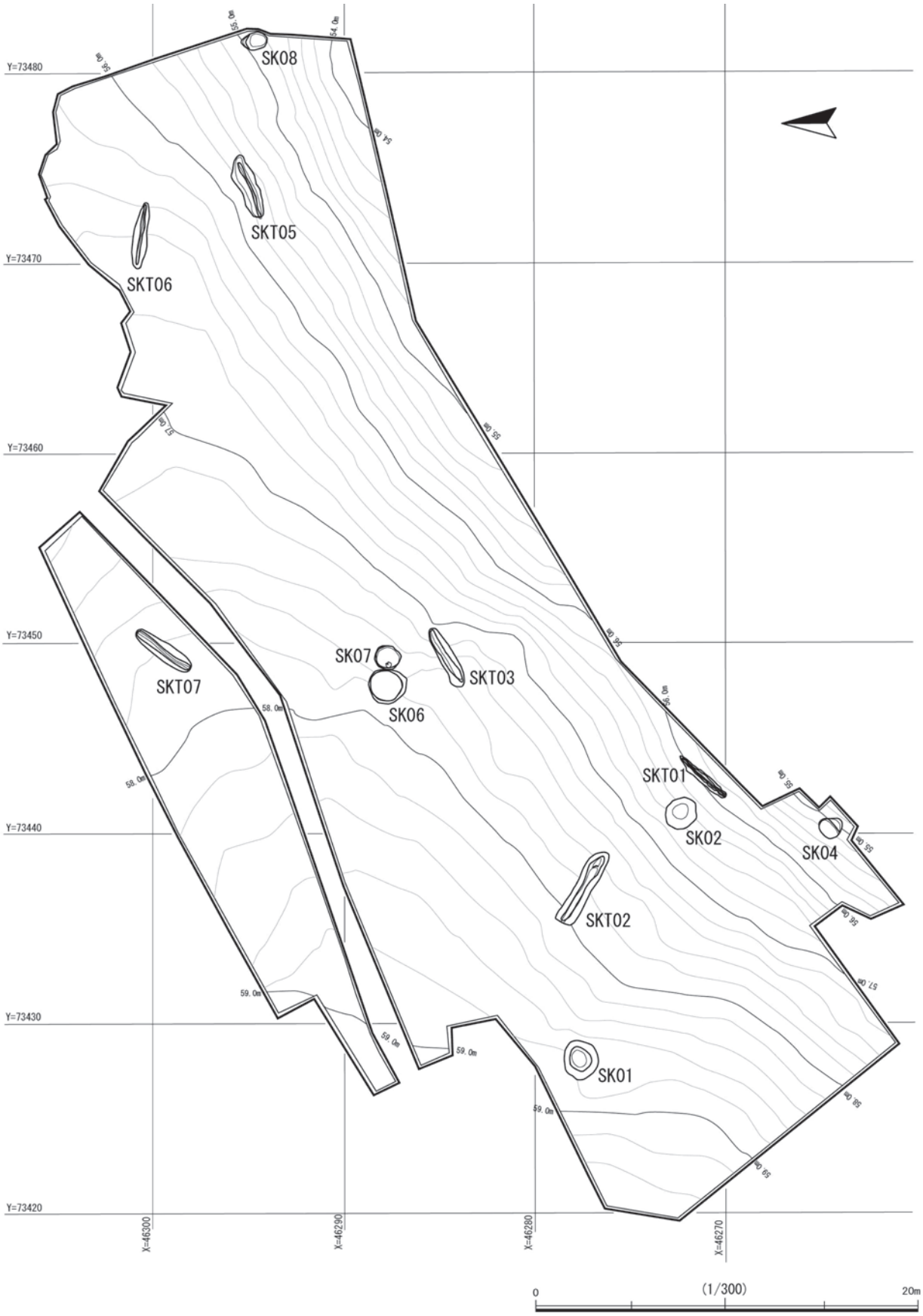
丘陵の南辺裾部を流下する川尻川に向かって落ち込む、傾斜変換点付近の標高56～58m付近に立地し、平面形が長楕円形、断面形がＹ字形となる土坑である。長さ3.5～4.5m・上幅0.5～１m・下幅0.1m・深さ１～1.6mを測り、比較的傾斜が緩やかな地点のSKT02・06・07は長軸が等高線に直交して、傾斜が強くなる地点のSKT02・03・05は等高線に平行して設けられている。埋土の堆積状況からは、いずれも短期間で埋没していることがうかがえる。

SKT01

標高56mの等高線にほぼ並行して長軸をとり、長さ3.2m・幅0.5m・深さ0.9mを測る。本来はより上層から掘り込まれていたものと考えられるが、斜面流出によって幅が狭くなった部分のみが残存している。

SKT02

SKT01の北西側に位置し、標高58mの等高線に直交する形で長軸をとり、長さ4.3m・幅１m・深


SK08
SKT05
SKT06
SKT07
SK07
SK06
SKT03
SKT01
SK02
SK04
SKT02
SK01
Y=73480
Y=73470
Y=73460
Y=73450
Y=73440
Y=73430
Y=73420
X=46300
X=46290
X=46280
X=46270
0
(1/300)
20m

南川尻遺跡　遺構配置図

さ1.6mを測る。標高が高くなる北西側の小口面は、オーバーハングしている。底面は、東側が約0.4m一段高く、階段状になっていること、長さが他よりも1.2倍程度大きいことから、２つの陥し穴状土坑が重複している可能性が高い。

SKT03

調査区ほぼ中央に位置し、長軸方位はほぼ東西方向になる。東側半分は試掘調査時に、本来の遺構掘り込み面よりも約0.4m掘り下げた位置で検出している。南辺側は樹根などによる攪乱を受けているものの、長さ3.4m・幅0.8m・深さ1.3mを測る。南側壁面は全体がオーバーハングしているが、底面は幅0.1mに満たない。６基の陥し穴状土坑の中では埋土の細分が可能な遺構で、黒ボク質土の３・４層と地山土質の５～10層に大別できる。

SKT05

調査区東寄りに位置する２つの陥し穴状土坑のうち、標高57mの等高線にほぼ並行して長軸をとり、長さ3.5m・幅0.9m・深さ0.8mを測る。平面形は樹根の影響もありやや不整形で、断面形はＹ字ではなく乳房状を呈する。

SKT06

SKT05の北側に位置し、標高56mの等高線に直交する形で長軸をとる。長さ3.4m・幅0.7m・深さ1.2mを測り、東半部の一部を試掘調査で確認している。底面から深さ0.5mほどは幅0.1mに満たないが、底面はほぼ平坦である。

SKT07

標高57m付近に位置し、長軸が見かけ上SKT03とほぼ並行する。長さ3.5m・幅0.9m・深さ1.1mを測り、両小口面はオーバーハングしている。幅0.1mの底面精査中に、直径数cm程度の円形ピットが約0.4m間隔で４基検出されたが、僅かな窪みであることから逆茂木痕ではなく、掘削時の凹凸と思われる。

【円形土坑（略号：SK）】

調査区西寄りで３基（SK01・02・04）、中央部で２基（SK06・07）、東端で１基（SK08）を検出し、中央部のSK07から縄文土器（出土遺物№１）が出土した以外に遺物は伴わない。

SK01

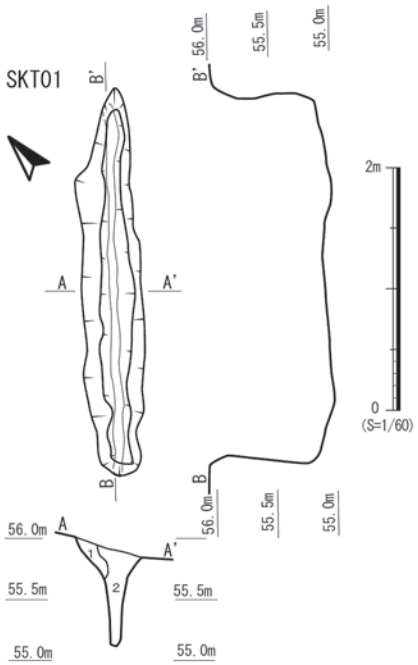
検出面では、直径1.8×1.9mのやや不整形な楕円形を呈し、深さ0.3m程度までは擂鉢状に落ち込むが、直径0.9mを測る底面までの深さ0.8m程度は、壁面がほぼ直立する。最下層埋土はほぼ水平に堆積しているが、壁面が直立する部分は、一気に埋め戻されている。上層の擂鉢状部分の中央付近には、十和田中掫火山灰の二次堆積が認められる。

SK02

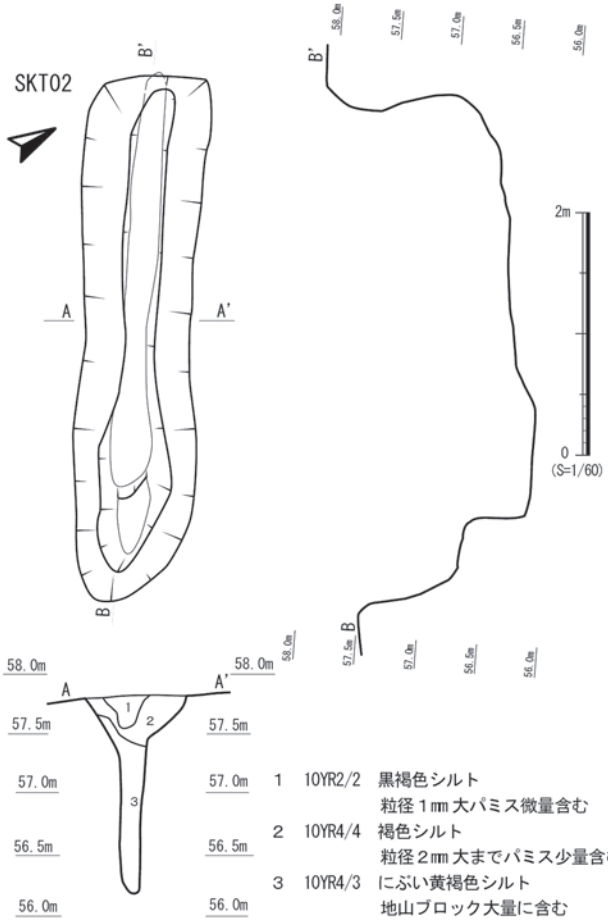
直径1.5×1.7m・深さ１mを測り、平面はやや不整な楕円形、断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。埋土は、遺構面より下層の基盤層由来である。

SK04

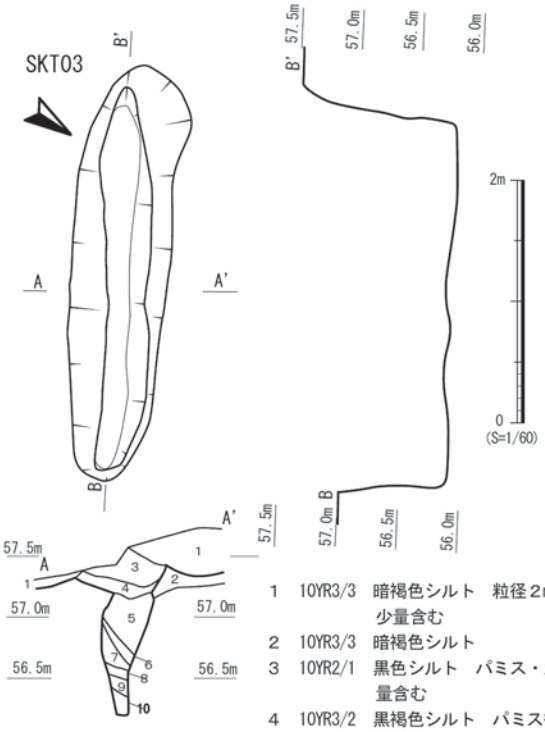
標高55m付近に位置し、直径1.2×1.4m・深さ0.9mを測り、南側は樹根による攪乱がある。断面観察では、



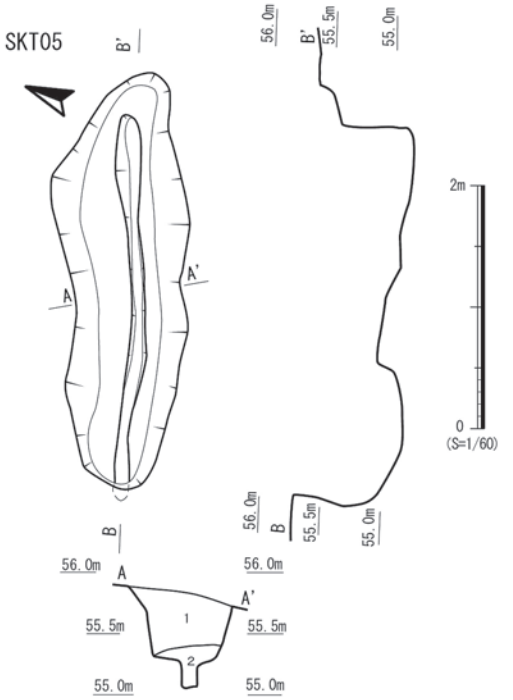
1　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
　　地山ブロック・粒径２㎜パミス微量含む
2　10YR4/4　褐色シルト
　　地山ブロック・粒径２㎜パミス微量含む



1　10YR2/2　黒褐色シルト
　　粒径１㎜大パミス微量含む
2　10YR4/4　褐色シルト
　　粒径２㎜大までパミス少量含む
3　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
　　地山ブロック大量に含む



1　10YR3/3　暗褐色シルト　粒径２㎜大パミス少量含む
2　10YR3/3　暗褐色シルト
3　10YR2/1　黒色シルト　パミス・土器細片微量含む
4　10YR3/2　黒褐色シルト　パミス微量含む
5　10YR2/3　黒褐色シルト　パミス微量・地山ブロック含む
6　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト７　地山ブロック多量に含む
7　10YR4/4　褐色シルト　パミス微量含む
8　10YR5/8　黄褐色シルト　地山ブロック含む
9　10YR3/3　暗褐色シルト　締りあり　パミス微量含む
10　10YR4/6　褐色シルト　地山ブロック多量に含む



1　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　地山ブロック・粒径２㎜パミス微量含む
2　10YR4/4　褐色シルト　地山ブロック・粒径２㎜パミス微量含む

南川尻遺跡　SKT01・02・03・05　平面・断面図

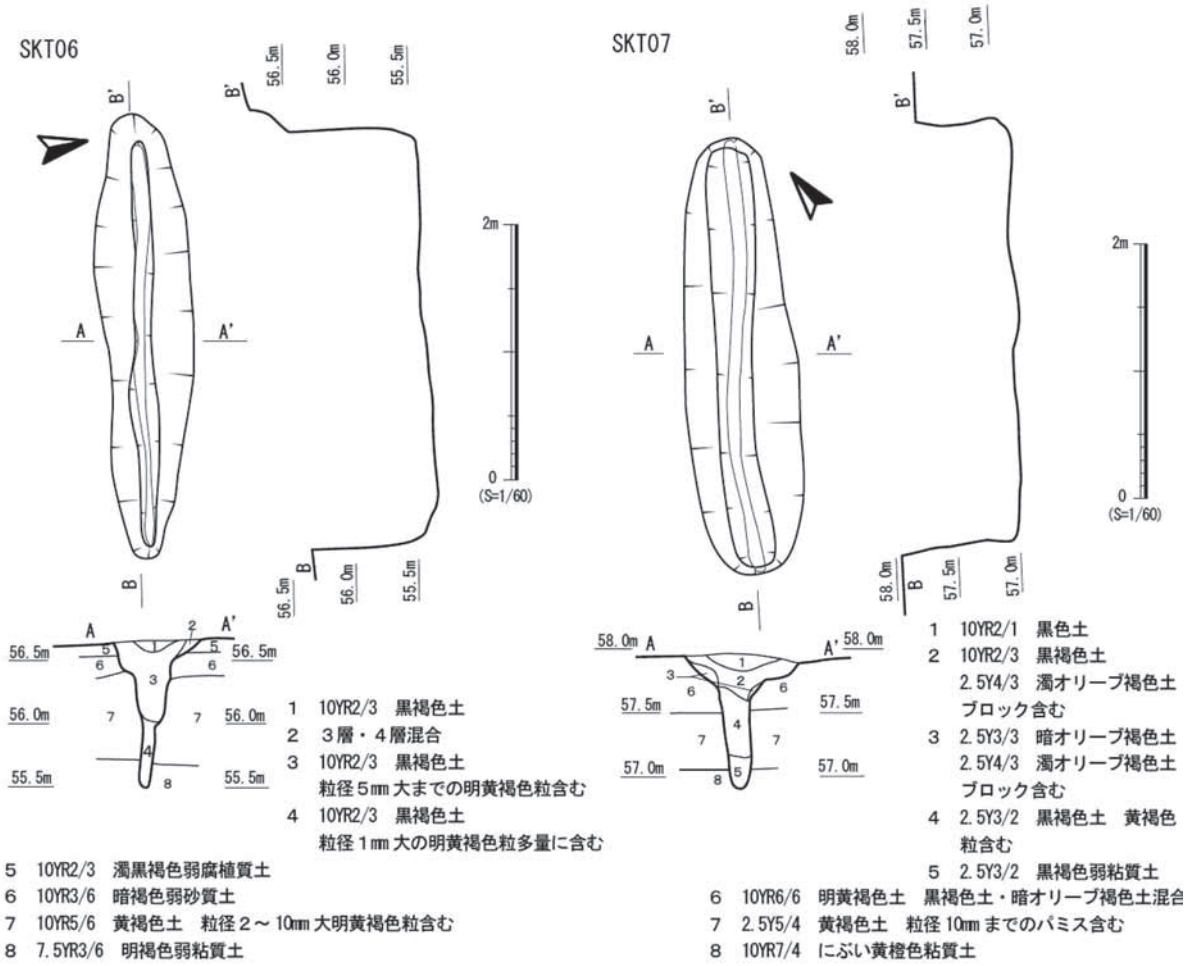
標高が高い北側で壁面が上端よりも内側に入り込んでいるが、明瞭なフラスコ状を呈してはいない。

SK06

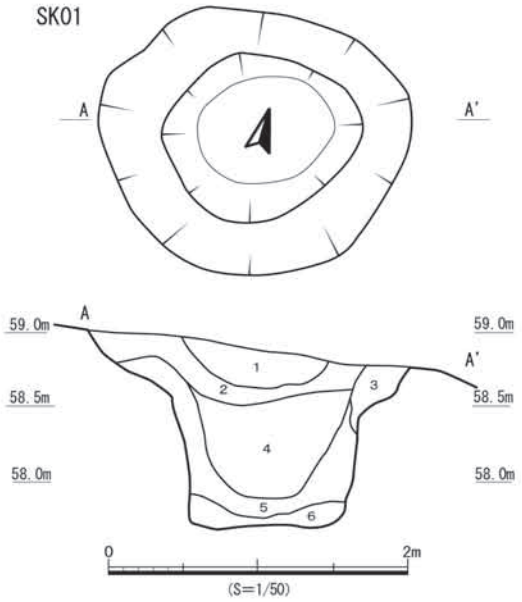
調査区のほぼ中央部で検出した隣接する２基の土坑のうち、西側に位置し、試掘調査時に確認した土坑である。直径1.9×2.1m・深さ0.9mを測る円形で、壁面は直立気味に立ち上がり、底面は平坦である。地山ブロックを含む埋土が主体となり、人為的に埋め戻した可能性が高い。埋土が極めて近似しており、SK07との切り合い関係は把握することができなかった。なお、試掘トレンチ壁面での断面観察により、陥し穴状土坑SKT03よりも１層上位から掘り込まれていることを確認している。

SK07

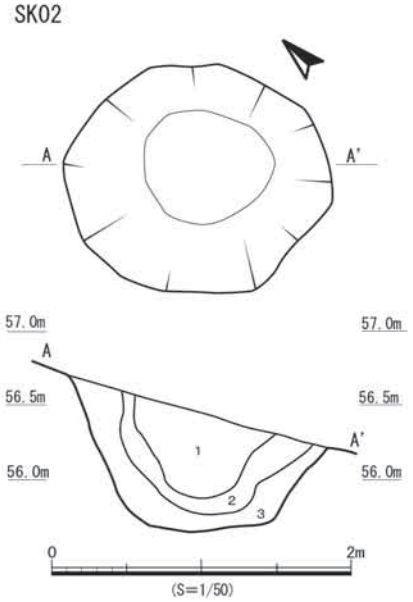
SK06の東側に隣接し、直径約1.3m・深さ約0.5mを測り、平面は円形を呈する。ほぼ直立する西側壁面際からは、深鉢（№１）が平坦な底面に正位で立てられた状況で１点出土した。土器の体部下半から底部は、破断部分がほぼ水平になるように打ち欠かれており、安定させるために土器の破片を土器下部に挟んで倒れないように噛ませている。土坑内や土器内から人骨は確認していないが、深鉢の人為的な加工・設置の在り方から墓である可能性が高い。



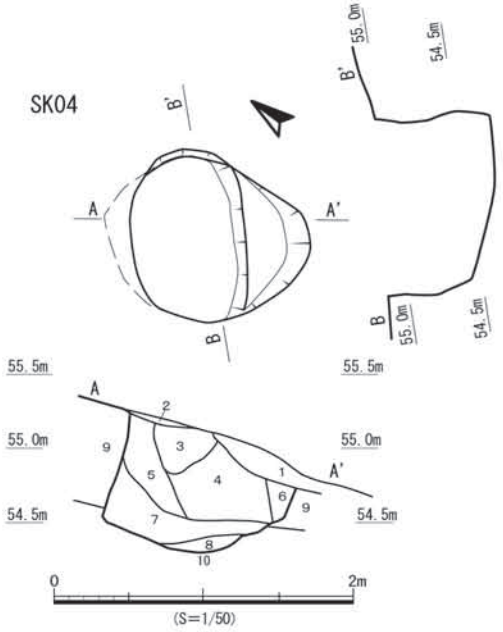
南川尻遺跡　SKT06・07　平面・断面図



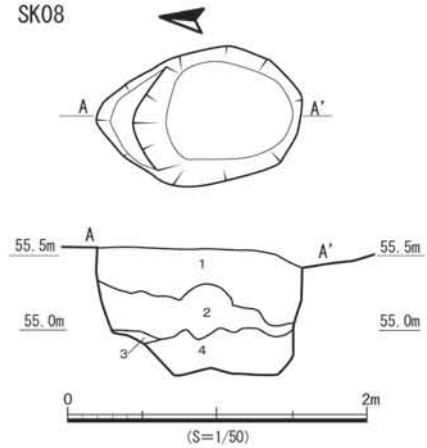
1　10YR3/2　黒褐色シルト　火山灰ブロック多量・粒径２㎜大パミス少量含む
2　10YR2/1　黒色シルト　粒径１㎜大パミス微量含む
3　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　粒径２㎜大パミス微量含む
4　10YR1.7/1　黒色シルト　粘性やや強い　粒径２㎜大パミス少量含む
5　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　地山ブロック・粒径２㎜大までのパミス含む
6　10YR1.7/1　黒色シルト　粘性やや弱い　締りやや弱い



1　10YR3/1　黒褐色シルト　粒径２㎜大までのパミス少量含む
2　10YR3/3　暗褐色シルト　粒径５㎜大軽石微量含む
3　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　地山ブロック多量に含む

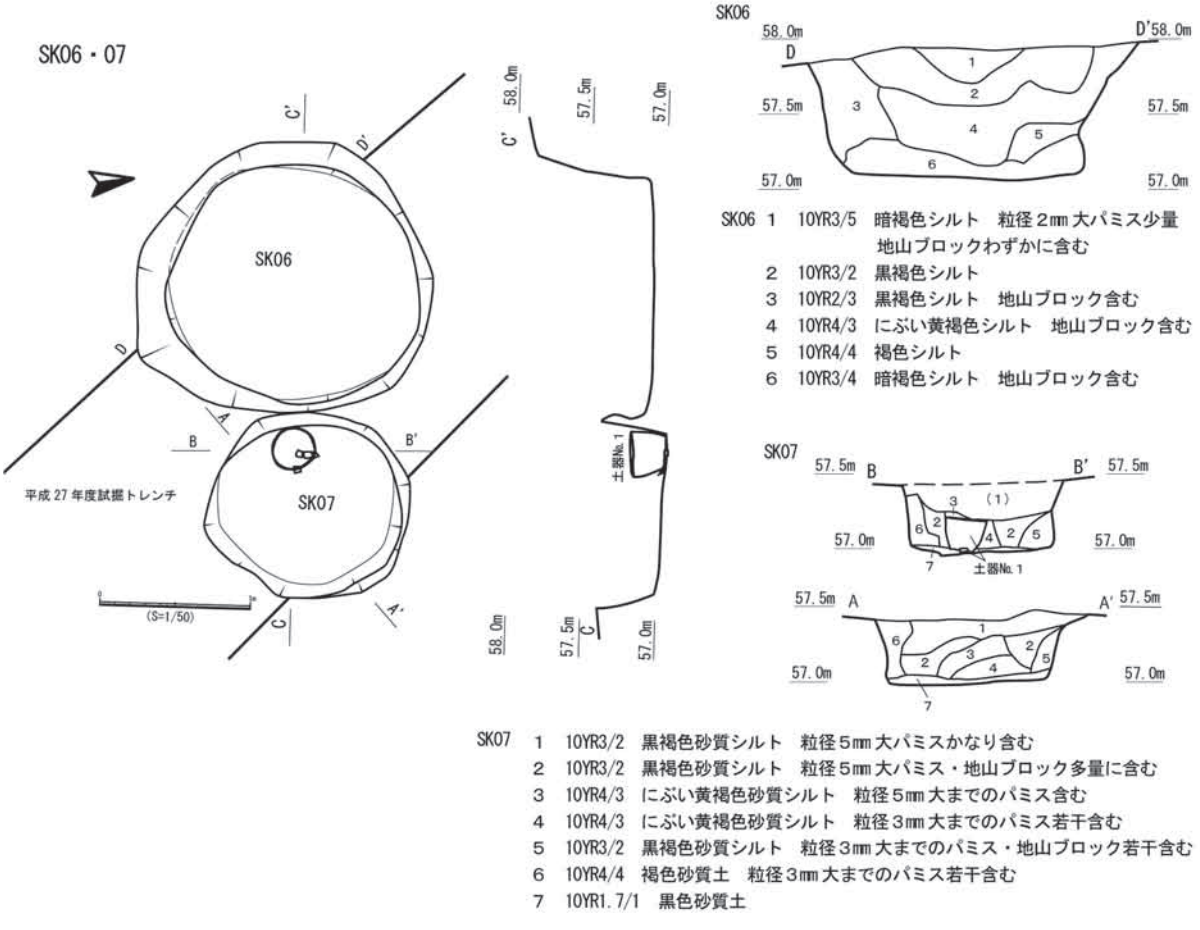


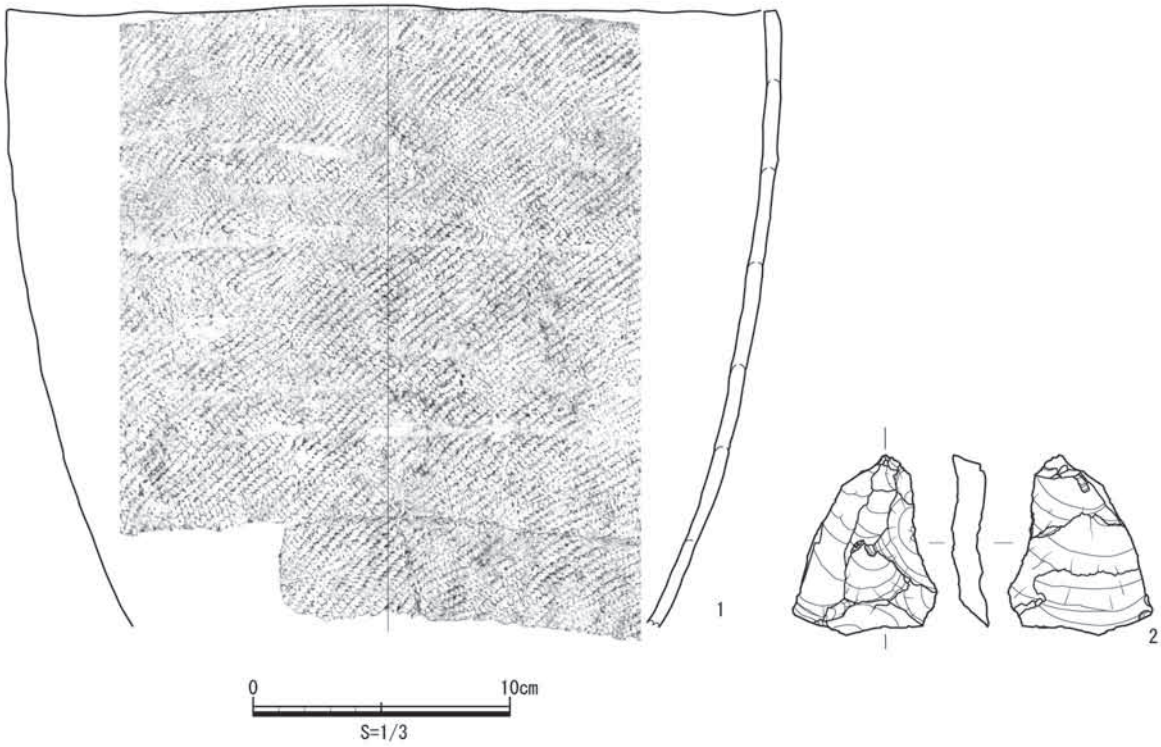
1　10YR2/2　黒褐色弱腐植質土
2　10YR4/2　灰黄褐色砂質土
3　10YR3/3　暗褐色土・２層混合
4　10YR1.7/1　黒色土　粘性ややあり　粒径１～５㎜大パミス含む
5　10YR3/2　黒褐色土・10YR4/6　褐色土混合
6　10YR3/4　暗褐色土・10YR4/2　灰黄褐色土混合
7　10YR4/1　褐色土・10YR4/6　褐色土混合
8　10YR3/2　黒褐色土　粒径10㎜大までのパミス含む
9　10YR4/6　褐色土に10YR4/1　褐灰色土わずかに混入
10　10YR5/6　黄褐色土　粒径５～10㎜大軽石かなり含む



1　10YR3/1　黒褐色土　粘性あり
2　10YR3/4　暗褐色土　地山粒少量含む
3　10YR7/8　黄褐色土　地山ブロック含む
4　10YR5/8　明褐色土　地山ブロック含む

南川尻遺跡　SK01・02・04・08　平面・断面図





南川尻遺跡　SK06・07　平面・断面・出土遺物実測図

出土遺物№１は、口径30.2cmを測る粗製の深鉢であり、残存器高は24cmではあるが、本来の器高は32cm程度になるものと思われる。口縁端部はほぼ水平で、外面の縄文は口縁端部直下まで施されている。また器面には、幅４cm程度の粘土輪積み痕が明瞭に認められる。同様の特徴を有する土器は、北側隣接地の県埋文センター調査区においても出土している。

SK08

調査区東壁際に位置し、長径1.3m・短径0.8m・深さ0.8mを測り、平面は卵形を呈する。底面はやや凹凸があり、ほぼ平行に堆積する埋土の上面にもやや乱れが認められる。

【その他の出土遺物】

明確な遺物包含層はないものの、SK06・SKT03西側では遺構検出面直上から縄文土器の小片が数点と、石器が１点（№２）出土している。№２は、長さ6.8cm・最大幅5.4cm・厚さ１cmを測る珪質頁岩製の剥片であり、表裏面ともに縦方向の剥離である。明確な使用痕は認められない。縄文土器は細片のため詳細は不明であるが、№１とほぼ同じである。いずれも、北側の住居域から流失した二次堆積であると判断される。

【まとめ】

今回の調査では、北側で確認されていた縄文時代後期の集落に隣接する狩場が、南側の川尻川に落ち込む急斜面まで連続することが確認できた。川尻川を挟んだ南側のサンニヤⅠ遺跡においても、同様な形態が見られるのをはじめ、近似した立地条件を対象とした三陸沿岸道路の発掘調査により、洋野町内では標高50～60mの丘陵上に、同様な時期の遺跡が連続することが明らかになりつつある。このことは、今後の埋蔵文化財包蔵地の把握において、大きな手がかりに成り得るものであり、活用されていくことを望む。（小竹森・長屋敷）

調査前風景（北東から）

調査前風景（南西から）

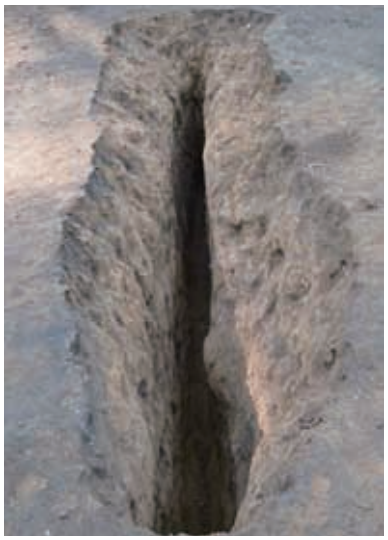
派遣職員の調査風景

派遣職員の調査風景

完掘全景（北東から）

完掘全景（南西から）

SKT01　完掘状況

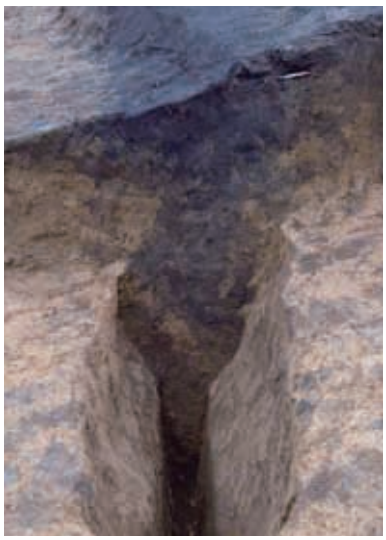


SKT02　完掘状況

SKT03　完掘状況

SKT01　断面

SKT02　断面



SKT03　断面

SK01　完掘状況

SK02　完掘状況

SKT05　完掘状況

SKT06　完掘状況

SKT07　完掘状況

SKT05　断面

SKT06　断面

SKT07　断面

SK04　完掘状況

SK08　完掘状況

SK06　完掘状況

SK07　土器周辺土層断面（南東から）

SK07　土器出土状況（東から）

SK07　土器出土状況（下部・東から）

SK07　出土遺物（№1：S=1/4）

包含層出土石器（№2：S=1/2）

９　三陸沿岸道路（洋野階上道路）

サンニヤⅠ遺跡

（IF48-2128：範囲拡大・工事用道路）

【所 在 地】　九戸郡洋野町種市第25地割
33-1地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
三陸国道事務所

【調査期日】　平成28年６月６日（月）
～23日（木）

【調査面積】　496㎡

サンニヤⅠ遺跡 位置図

【調査結果】　調査地は、洋野町役場種市庁舎から西北西へ約1.5㎞、標高約30～50ｍのほぼ平坦な海岸段丘面と、東流する川尻川に向って突き出した丘陵の緩斜面上に位置し、現況は山林や原野である。川尻川を挟んだ北側には縄文時代の集落・狩場遺跡である南川尻遺跡、南側には同じく縄文時代の狩場と想定されるサンニヤⅢ遺跡、平安時代の集落であるサンニヤⅡ遺跡等が所在する。

当該地は、平成27年度に県埋文センターが発掘調査を実施し、20基の陥し穴状土坑を検出している。今回の調査は、本線に付随する工事用道路の建設に伴うもので、工事工程上急を要することから、平成28年４月20日に先行した試掘調査に基づき、６月初めから当課による発掘調査を実施することとなった。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層	暗茶褐色土	層厚５～10㎝（腐植土）
Ⅱ層	暗褐色土	層厚20～35㎝
Ⅲ－１層	にぶい黄褐色土	層厚20～30㎝（八戸火山灰が多く混入する）
Ⅲ－２層	にぶい黄褐色土	層厚20～30㎝（八戸火山灰が少量混入する）
Ⅳ層	黄褐色土	層厚10～20㎝（基盤層）
Ⅴ層	褐色土	層厚10～20㎝
Ⅵ層	明黄褐色土	層厚不明

遺構はⅣ層（黄褐色土・基盤層）の上面で確認した。

【陥し穴状土坑（略号：SKT）】

陥し穴状土坑は７基確認した。個別の規模や状況については、別記一覧表にまとめた。調査区東側の、沢に臨む地形変換点付近に分布する。

遺構名	平面形	断面形	規模（上端）	規模（底部）	深さ	時期	備考
SKT01	溝状	Ｙ字形	3.65×0.75	3.9×0.15	1.2	縄文時代	
SKT02	溝状	Ｙ字形	4.4×1.4	4.65×0.15	1.7	縄文時代	
SKT03	溝状	Ｙ字形	3.85×0.8	4.25×0.2	1.4	縄文時代	
SKT04	溝状	Ｙ字形	3.3×0.85	3.1×0.15	1.2	縄文時代	逆茂木？１基
SKT05	溝状	Ｙ字形	3.35×0.45	3.6×0.1	1.15	縄文時代	
SKT06	溝状	Ｙ字形	3.2×0.75	3.5×0.15	1.3	縄文時代	
SKT07	溝状	Ｙ字形	3.3×1.05	3.3×0.1	1.5	縄文時代	

※規模は、全長（長軸）×幅（短軸）×深さで表記。　　規模（m）

サンニヤⅠ遺跡　陥し穴状土坑観察表

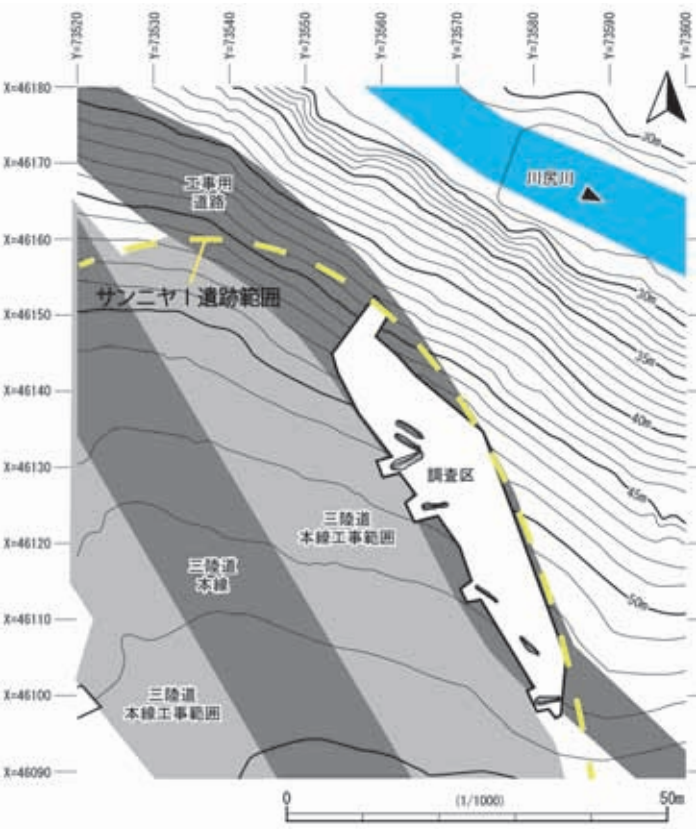
いずれも平面形状が長楕円形、または隅丸長方形の陥し穴状土坑と考えられ、縦断面の形状は、若干開口部よりも底部が長いものがある。上部は崩落等があるため不明確であるが、底部近くはオーバーハングするものが多い。横断面はＹ字形を呈する。現状で開口部の長さは3.2～4.4m、幅0.45～1.4m、深さは1.15～1.7mであるが、大半は上面を削平され、構築当初の平面規模・掘削深度は不明である。底面はほぼ平坦で、幅は10～20cmと非常に狭い。底面ではSKT04を除いて何らかの施設は確認できなかったが、SKT04では、南東隅角に小穴を１基確認した。逆茂木痕としては位置が隅に偏るため、性格は不明である。なお、７基の主軸方向は若干異なっているが、同時期に掘削され機能していたものかは判断できなかった。

陥し穴状土坑は、包含層・遺構ともに出土遺物がないため時期は不明であるが、周辺地の調査結果等から縄文時代のものと推測される。

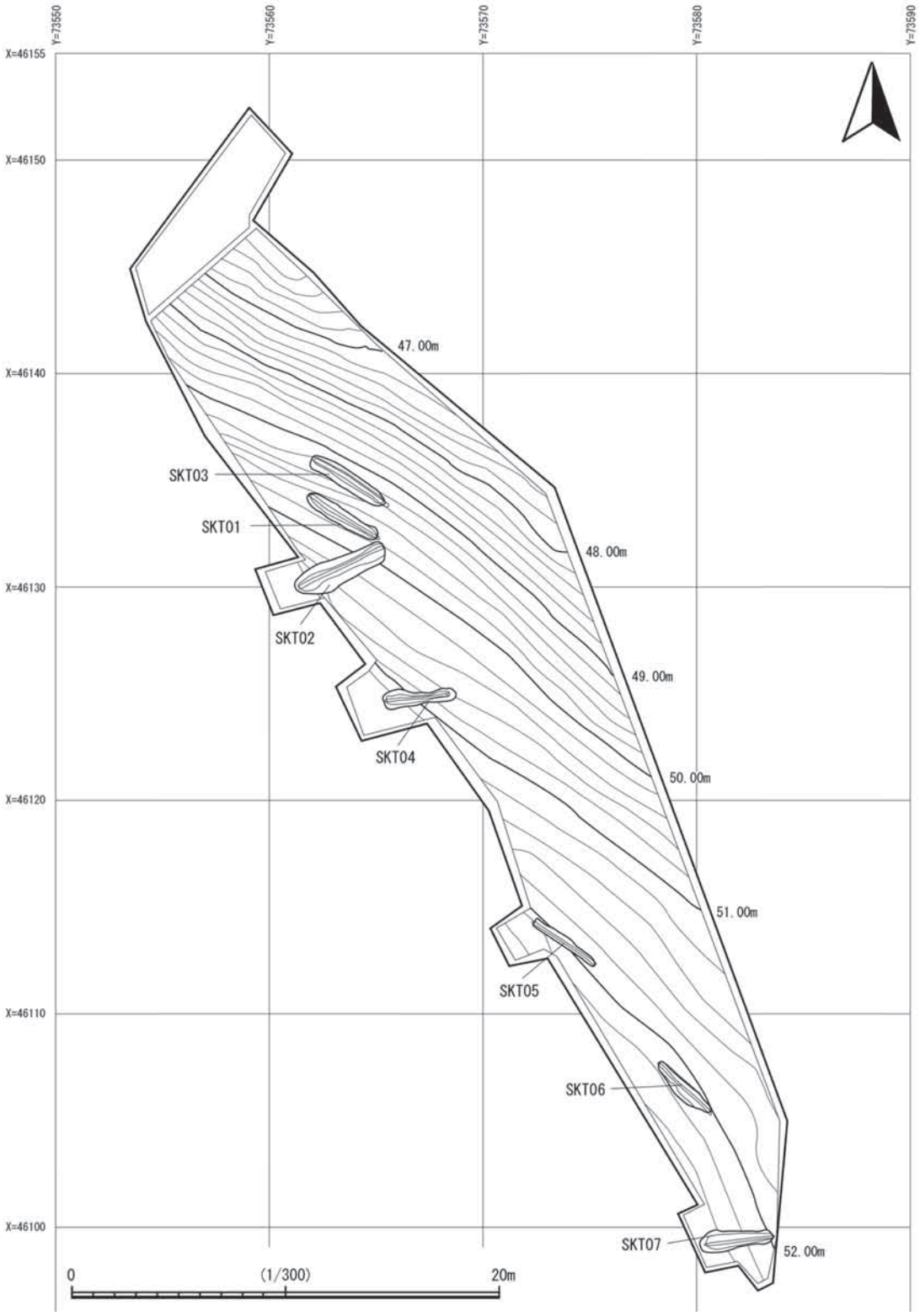
【まとめ】

今回の調査範囲は、縄文時代の狩猟場として利用されていたものと推測される。

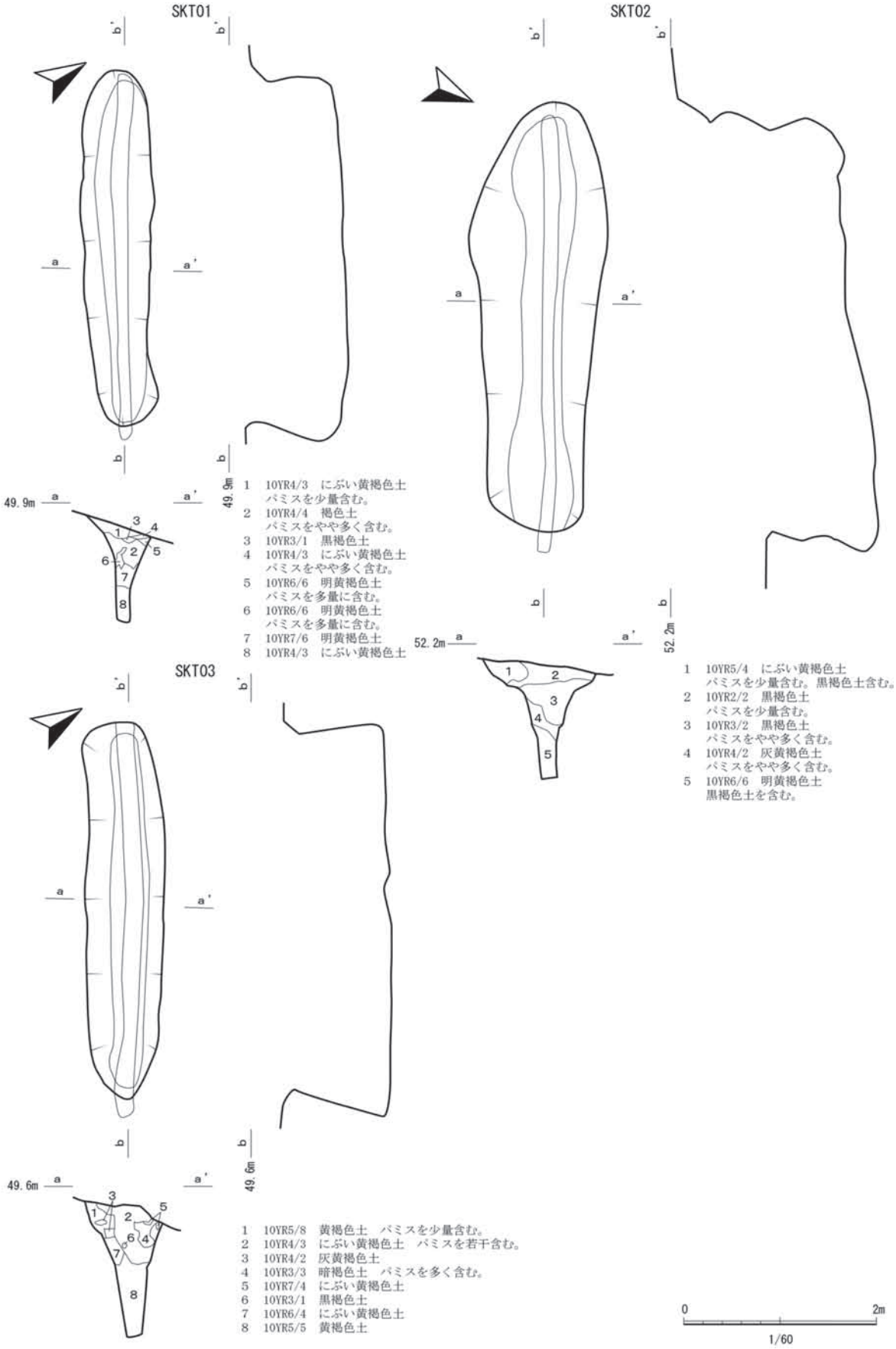
また、調査区西側の緩斜面地の試掘調査の結果（本書11～12頁）、土器や石器が出土しており、住居等が存在する可能性が高く、関連性の検討が必要である。（大谷・長屋敷）



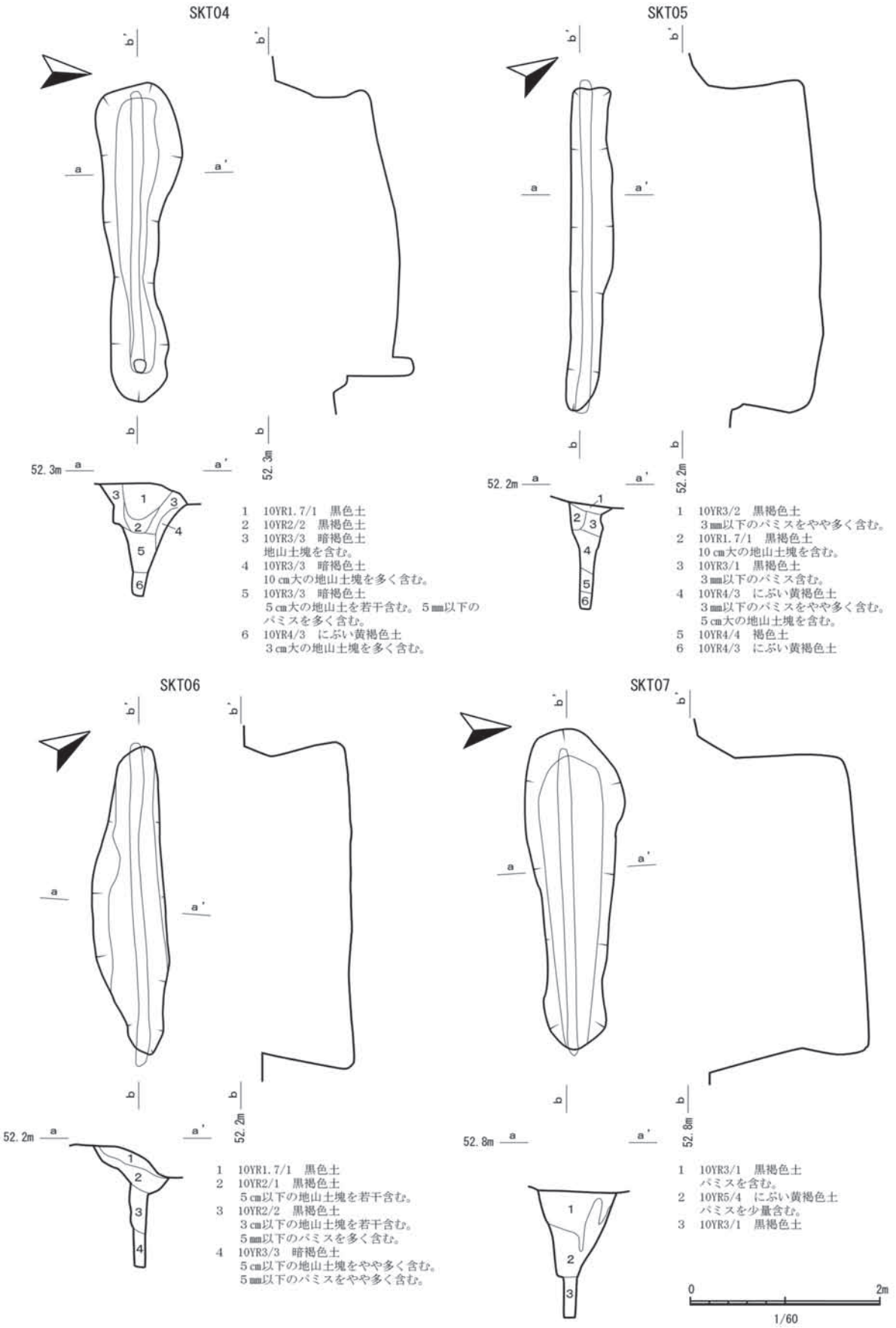
サンニヤⅠ遺跡　調査全体図



サンニヤⅠ遺跡　遺構配置図



サンニヤⅠ遺跡　陥し穴状土坑実測図（SKT01～03）



サンニヤⅠ遺跡　陥し穴状土坑実測図（SKT04～07）

調査区完掘全景（南東から）

調査区北側完掘全景（南東から）

SKT01　完掘状況

SKT02　完掘状況

SKT03　完掘状況

SKT01　断面

SKT02　断面

SKT03　断面

SKT04　完掘状況

SKT04　断面

SKT05　完掘状況

SKT06　完掘状況

SKT07　完掘状況

SKT05　断面

SKT06　断面

SKT07　断面

作業風景

10　三陸沿岸道路（洋野階上道路）

サンニヤⅢ遺跡（IF48-2250：追加調査）

【所 在 地】　九戸郡洋野町種市第25地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成29年２月６日（月）
　　～24日（金）

【調査面積】　885㎡

【調査結果】　調査地は、洋野町役場種市庁舎から西へ約1.4㎞、太平洋に向かって舌状に延びる丘陵の北側緩斜面上から谷底近くに位置し、標高は約50～60ｍを測り、現況は山林や原野である。遺跡の北側には、縄文時代の集落・狩場であるサンニヤⅠ遺跡や、東側には平安時代の集落であるサンニヤⅡ遺跡が所在する。

サンニヤⅢ遺跡 位置図

当該地は、平成28年度に当課が試掘調査を実施し、陥し穴状土坑や縄文土器・石器を確認したことから、洋野町教育委員会と協議のうえ新規に遺跡登録されたものである。平成28年９月から県埋文センターが発掘調査を行い、陥し穴状土坑などを確認した。

今回の調査については、本線部分を横切る管渠と作業ヤードの設置について、工事工程上急を要するとの要請があったことから、厳寒期に当課による緊急発掘調査を急遽実施したものである。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　暗茶褐色土　　層厚５～10㎝（腐植土・一部で廃棄物を含む厚い盛土あり）

Ⅱ層　暗黄褐色土　　層厚10～60㎝

Ⅲ層　黒色土　　層厚20～30㎝

Ⅳ層　明黄褐色土　　層厚不明（基盤層）

遺構はⅣ層（黄褐色土・基盤層）の上面で確認した。

【陥し穴状土坑（略号：SKT）】

陥し穴状土坑は８基確認した。個別の規模や状況については、別記一覧表にまとめた。

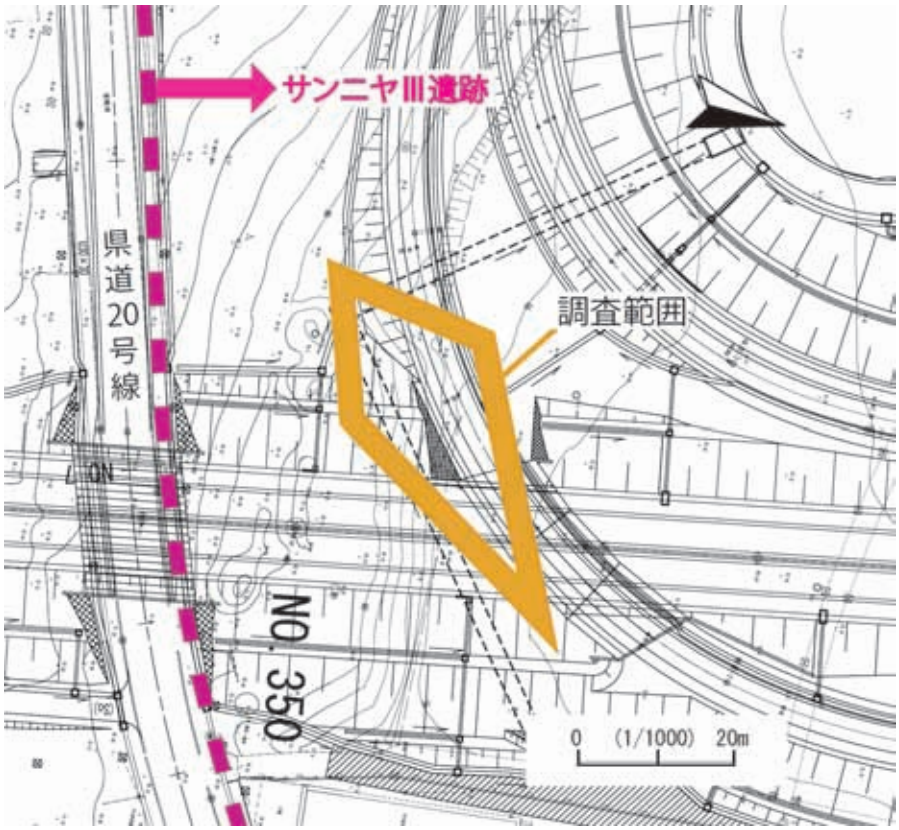
調査区北側の、沢に臨む丘陵の緩斜面上に分布している。いずれも開口部（上端）の平面形状が長楕円、または隅丸長方形の溝状土坑で「陥し穴」と考える。縦断面の形状は若干開口部よりも底部が広くオーバーハングするものと、開口部と底部がほぼ垂直でオーバーハングしないものがある。横断面はＹ字形を呈する。現状で開口部の長さは３～４ｍ、幅0.5～1.1ｍ、深さは0.8～1.2ｍであるが、大半は上面が削平され、構築当初の平面規模・掘削深度は不明である。底面はほぼ平坦で、長さはオー

バーハングするものは開口部よりもやや長く、しないものは若干短めである。底部幅は0.2.～0.45mであるが、幅が広いSKT01は底部近くまで壁面が崩落しており、SKT07は最も開口部が広い。平均値は0.2～0.25mであることから、掘削時は当該幅を意図して掘削された可能性が高い。なお平均的な幅は、近接するサンニヤⅠ遺跡のもの（0.1～0.2m、平均0.1～0.15m）と比較すると広いことから、掘削は容易であったと思われる。底面はSKT07を除き何らかの施設は確認できなかったが、SKT07では、底面に0.3～0.7mの間隔（概ね0.5m間隔）で円形の小穴を７基確認した。直径0.1m前後、深さ0.1m前後である。ほぼ均等に並ぶことから逆茂木の痕跡と判断した。

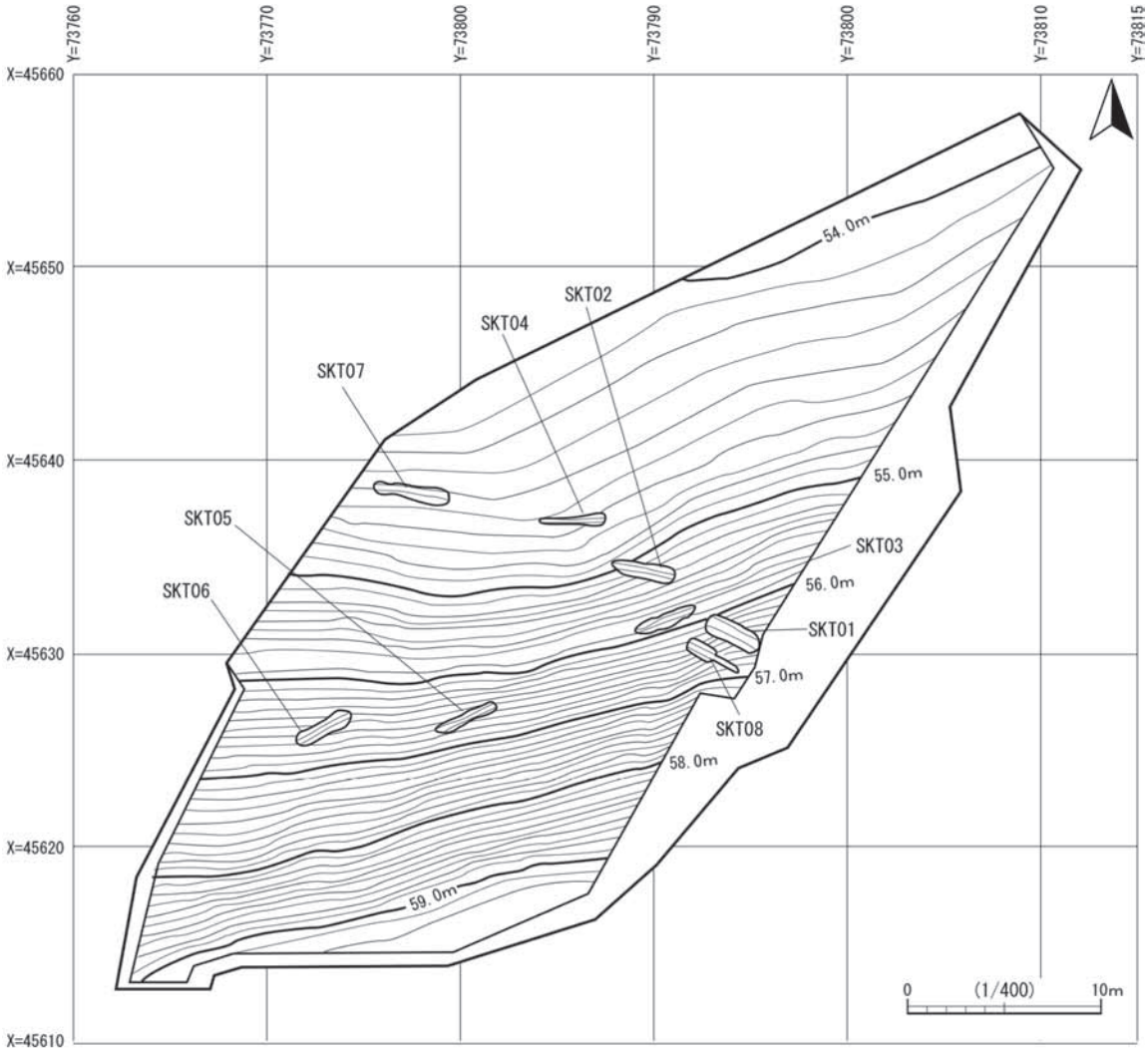
陥し穴状土坑は、包含層・遺構ともに出土遺物がないため時期は不明であるが、周辺地の調査結果等から縄文時代のものと推測される。

【まとめ】

発掘調査の結果、当該地は縄文時代の狩猟場と考えられる。（大谷・長屋敷）



サンニヤⅢ遺跡　調査位置図

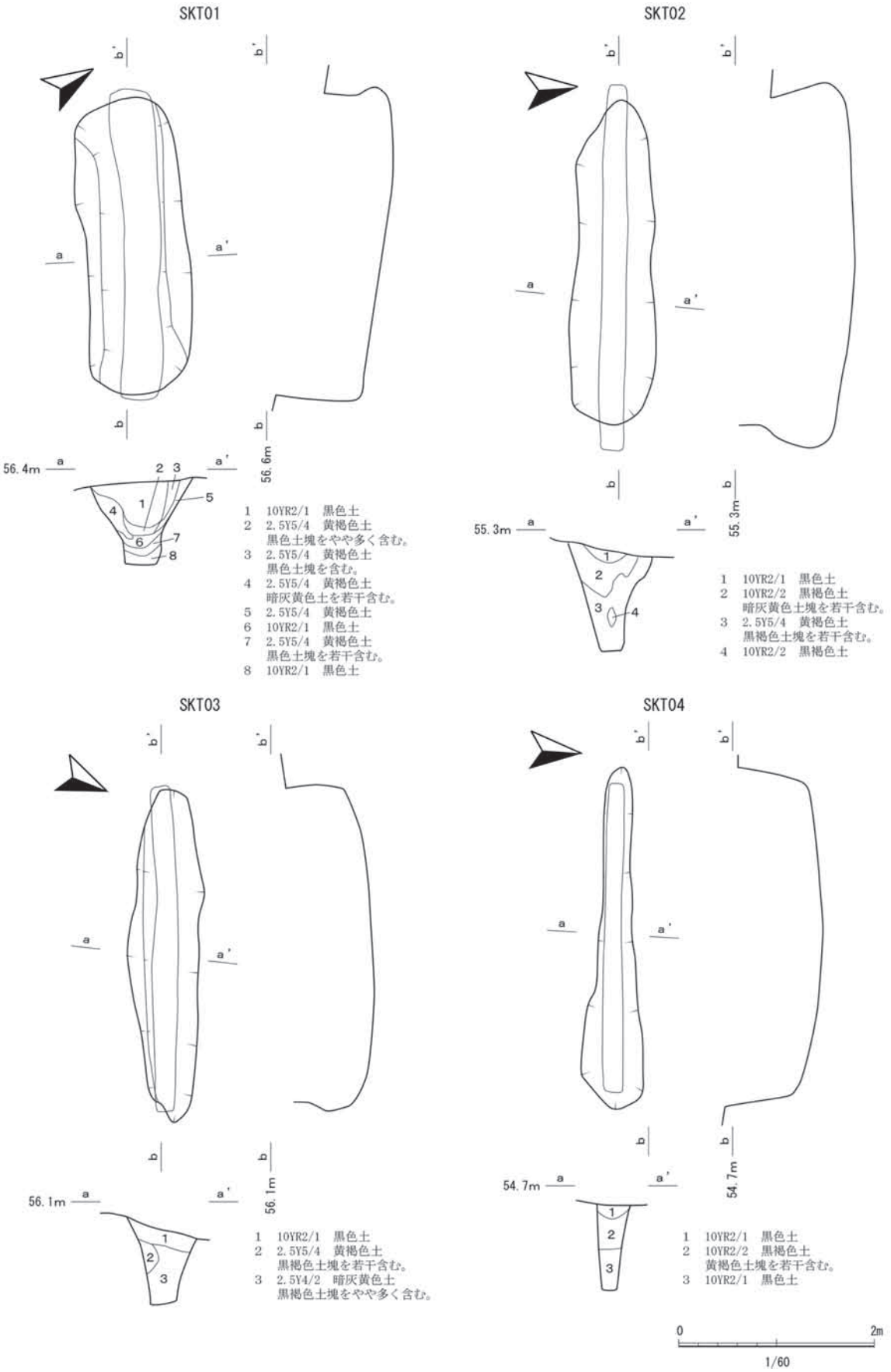


サンニヤⅢ遺跡　調査区全体図

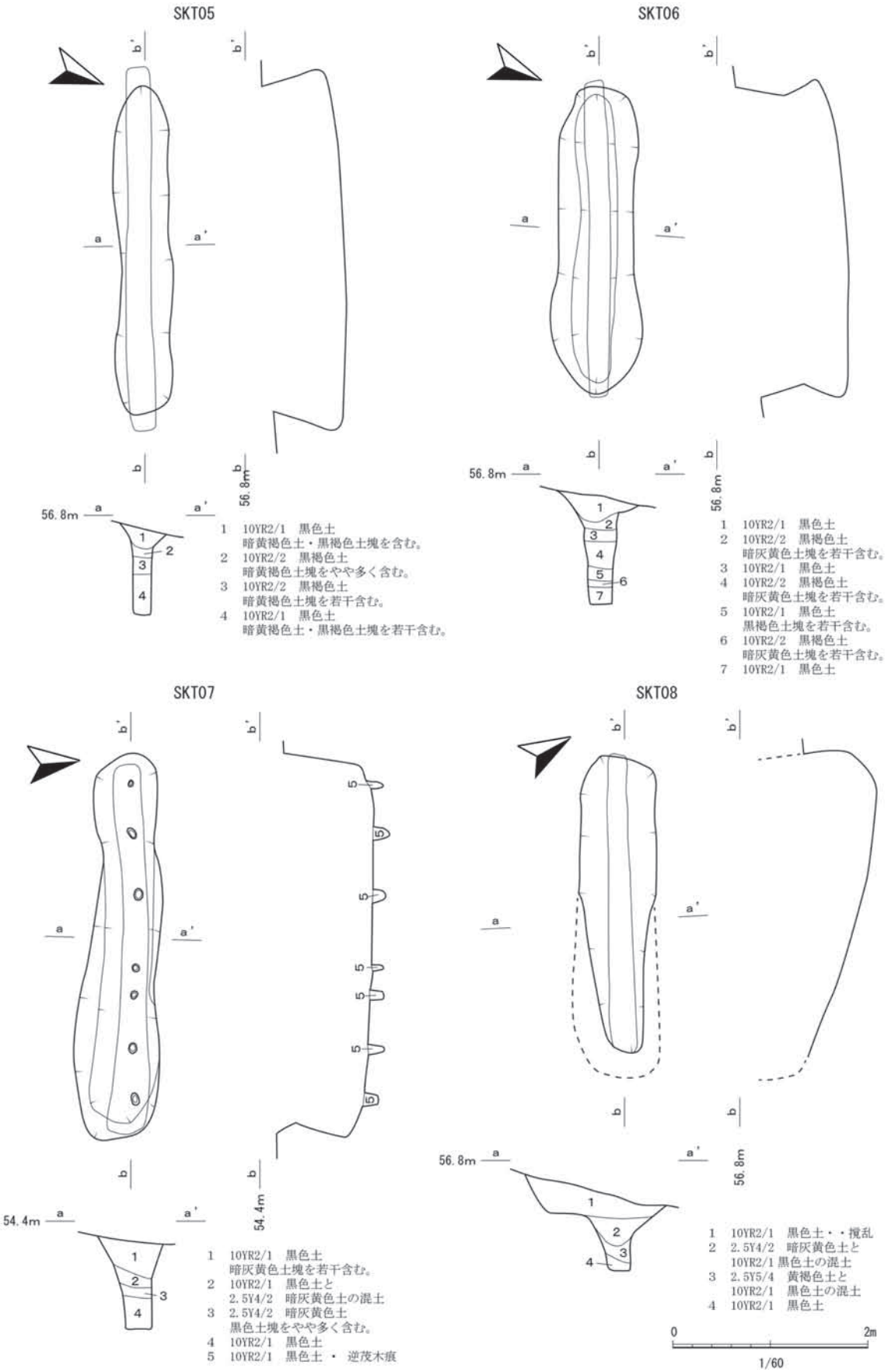
遺構名	平面形	横断面形	規模（上端）	規模（底部）	深さ	時期	備考
SKT01	溝状	Ｙ字形	3.05×1.1	3.2×0.45	0.85	縄文時代	
SKT02	溝状	Ｙ字形	3.3×0.8	3.75×0.25	1.2	縄文時代	
SKT03	溝状	Ｙ字形	3.45×0.75	3.35×0.25	0.85	縄文時代	
SKT04	溝状	Ｙ字形	3.5×0.65	3.2×0.2	1.0	縄文時代	
SKT05	溝状	Ｙ字形	3.35×0.55	3.75×0.25	0.8	縄文時代	
SKT06	溝状	Ｙ字形	3.1×0.9	3.25×0.25	1.05	縄文時代	
SKT07	溝状	Ｙ字形	4.0×0.9	3.8×0.4	0.9	縄文時代	逆茂木７基
SKT08	溝状	Ｙ字形	3.05×0.8	3.05×0.25	0.75	縄文時代	

※規模は、全長（長軸）×幅（短軸）で表記。　　規模（m）

サンニヤⅢ遺跡　陥し穴状土坑観察表



サンニヤⅢ遺跡　陥し穴状土坑実測図（SKT01～04）



サンニヤⅢ遺跡　陥し穴状土坑実測図（SKT05～08）

調査区完掘全景（南東から）

調査前風景（北西から）

調査風景（表土除去）

調査区完掘全景（南西から）

調査風景（遺構掘削）

SKT01　完掘状況

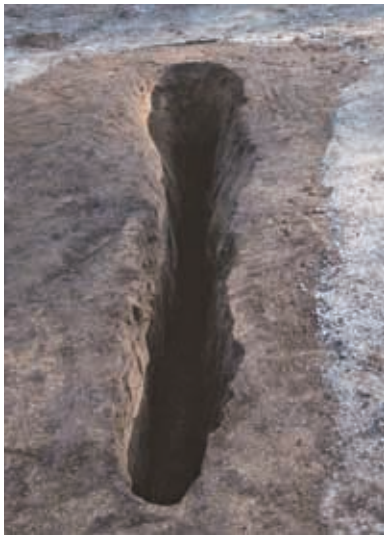
SKT02　完掘状況

SKT03　完掘状況

SKT01　断面

SKT02　断面

SKT03　断面



SKT04　完掘状況

SKT04　断面

SKT05　完掘状況

SKT06　完掘状況

SKT08　完掘状況

SKT05　断面

SKT06　断面

SKT08　断面

SKT07　完掘状況（東から）

SKT07　断面

SKT07　完掘状況（西から）

11　三陸沿岸道路（久慈北道路）

桑畑（くわはた）Ⅶ遺跡（IG90-1161：範囲拡大）

【所 在 地】　久慈市侍浜町桑畑第３地割45-2

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成28年７月４日（月）
　　～28日（木）

【調査面積】　1,500㎡

【調査結果】　調査地は、ＪＲ八戸線侍浜駅から北東へ約３㎞、標高約130～140ｍの緩やかな起伏を伴う海岸段丘の緩斜面地に位置し、現況は山林、畑地、原野となっている。今回の調査は、侍浜インターチェンジ（仮称）のランプ部分となっており、平成28年４月25～26日に先行して試掘調査を行った結果、縄文土器・石器等が出土した。工事工程上急を要するため、当課による発掘調査を実施することとなった。

桑畑Ⅶ遺跡　位置図

調査の結果、調査区北側の急斜面上部と畑作地として改変された南側では遺構は確認されなかったが、竪穴住居跡２棟、土坑２基、ピット３基、性格不明遺構１基を検出した。

基本層序は以下のとおりである。

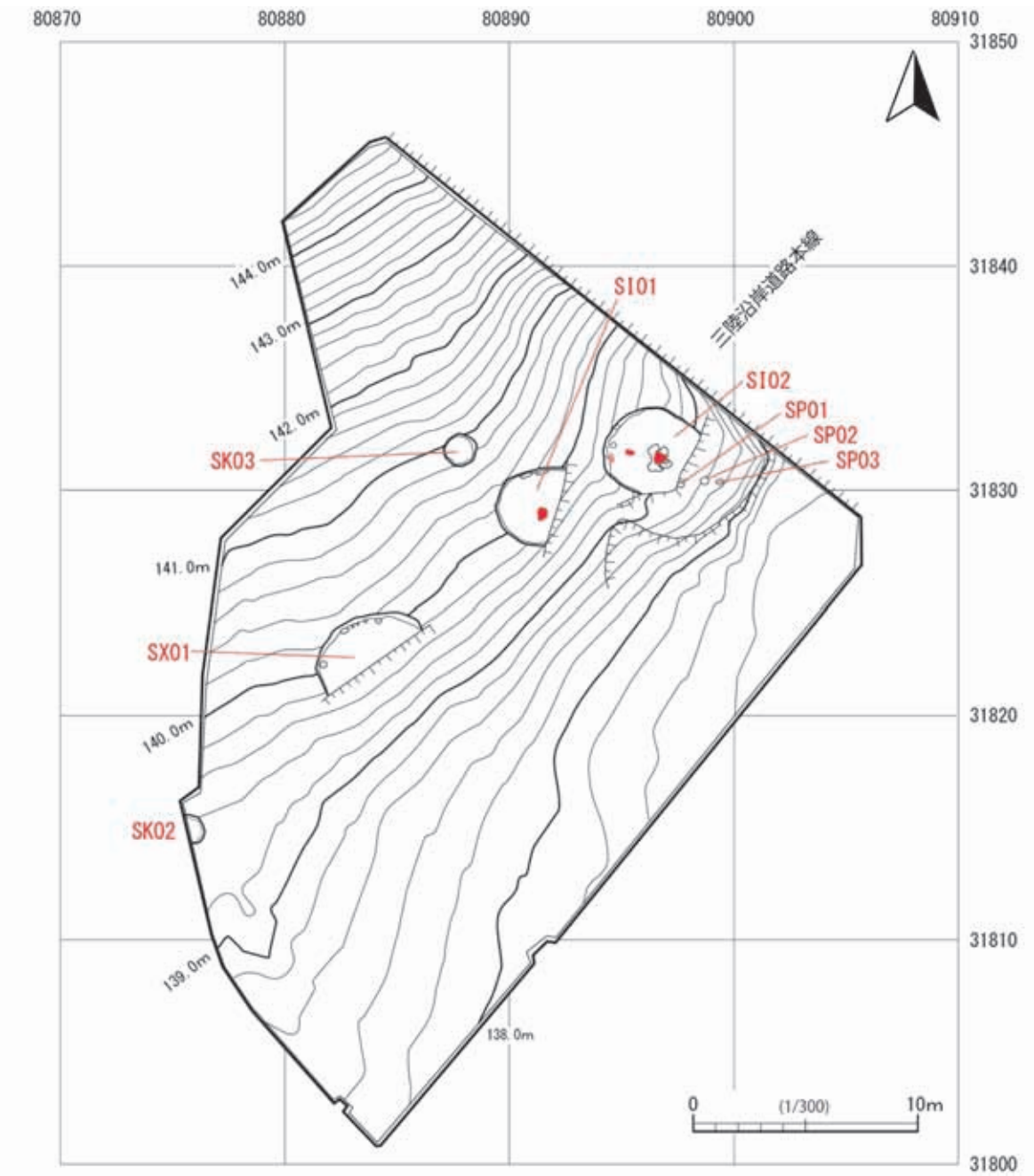
Ⅰ層　黒色土　　層厚10～20㎝（表土）

Ⅱ層　黒褐色土　　層厚10～60㎝（包含層）

Ⅲ層　黄褐色土　　層厚不明（地山・基盤層）

遺構はⅢ層（黄褐色土・基盤層）の上で検出した。

桑畑Ⅶ遺跡　調査位置図



桑畑Ⅶ遺跡　遺構配置図

【竪穴住居跡（略号：SI）】

竪穴住居跡は２棟（SI01・02）確認した。２棟ともに東側は耕作等によって失われている。住居跡はいずれも、北東に向かって延びる尾根の緩斜面に建築されている。

SI01

東側の約半分が失われているが、残存する西側は半円形またはU字形であることから、平面は楕円形に近い円形である可能性が高い。規模は南北約3.5mで、検出面からの深さは約0.25mである。床面を慎重に精査したが、貼床は確認できず床面は硬化していた。また主柱穴も確認できなかった。建物

の北側では、深さ約0.05mの全周しない壁溝と思われる遺構を検出し、中央部のやや南側に地床炉を確認した。

住居跡北側の覆土内に焼土塊が多く出土し、中には長さ0.5m程の炭化材も確認できることから、SI01は焼失した建物である可能性が高い。

出土遺物は、北壁側で縄文土器壺１点（出土遺物№１）が、床面に正置した状況で出土し、南側の炉近くで縄文土器壺１点（№２）が底面上に倒れ、土圧で押しつぶされたような状況で見つかった。これ以外の土器小片は覆土内から出土した。№１・２ともに壺であり、頸部以上を欠損している。両者とも僅かであるが上げ底であり、葉脈痕が確認できる。頸部～胴部には横回転の縄文を施した後、胴部下半部が縦方向に撫でられている。これらの特徴から縄文時代後期前葉の十腰内式と判断する。なお、№２の胴部（写真の胴部最大径のところよりやや下の黒色部分）にはアスファルトが塗布されており、土器補修の接着剤として塗布された可能性が高い。

SI02

遺構の東側が失われているが、残存する範囲はＵ字形であることから判断すると、平面はやや東西に長い楕円形（小判形）に近い円形であった可能性が高い。南北3.9m、東西は残存長で3.6m（4.3m程に復元できる）、検出面からの深さは約0.4mである。住居跡の中央部やや東側で、石材の多くが抜き取られていたため残存は良好ではないが、石囲炉（SL01）を確認し、１点のみが設置当初の状況で出土した。抜き取り痕や残存する１点の状況から判断して、１石ごとにピットを掘削し安定させるための土砂を裏込めした可能性が高い。炉石は花崗岩の角礫である。また､SL01の西側で焼土を確認した。範囲は狭いものの、赤化部分の厚さが約0.05mであることから地床炉である可能性が高い。さらにその西側にも被熱して赤化している部分を確認したが、表面のみであったことから、炉ではないものと判断した。

床面は硬化し、精査でP03を確認したが、深度が浅いため柱穴とは考えにくい。その他の部分でも主柱穴は確認できなかった。壁際には北西～西側にかけて壁溝が確認でき、深い部分で0.1m程度である。壁溝内でピット２基（P01・02）を確認したが２基のみであり、性格は不明である。

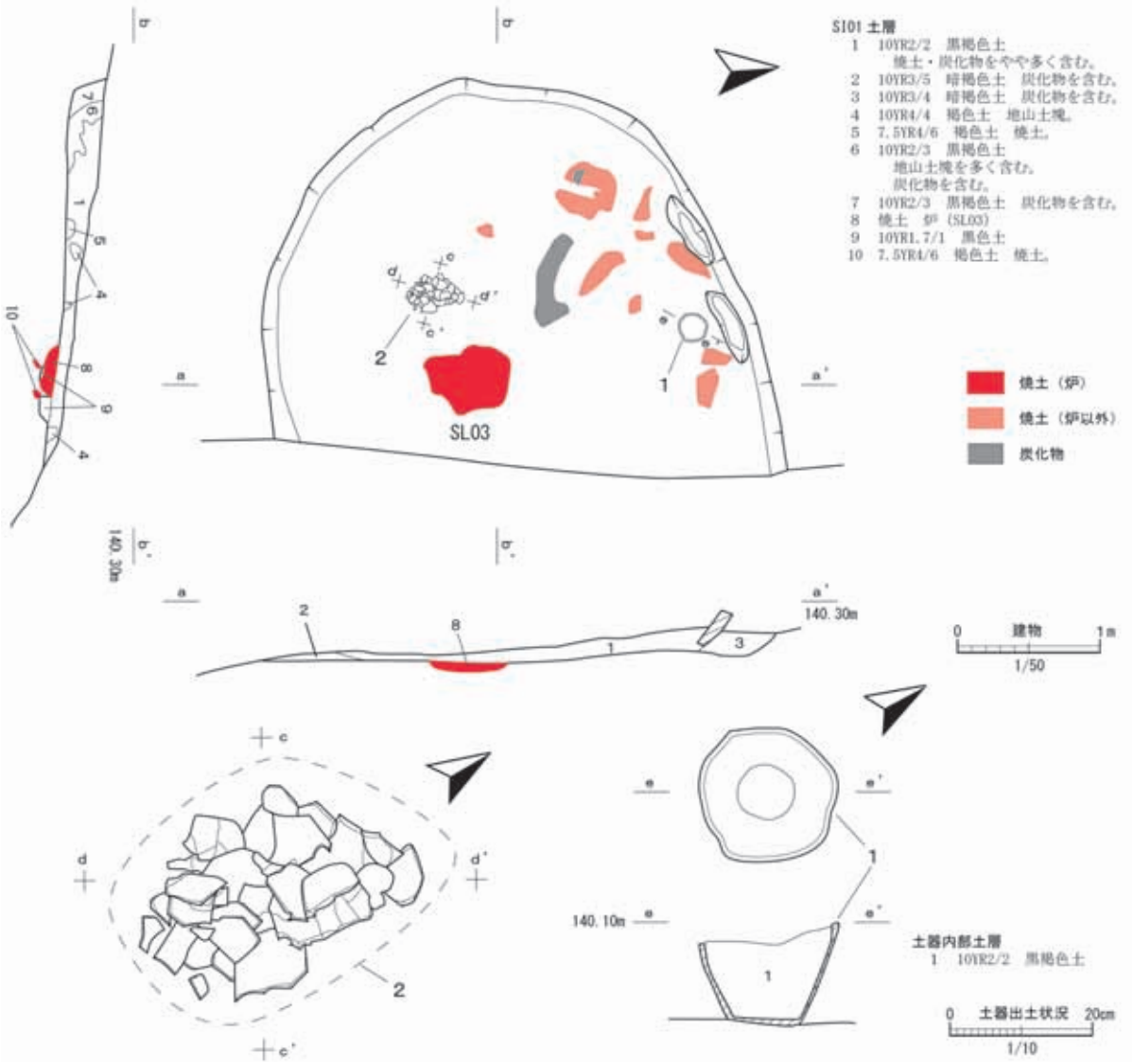
なお、SI02は覆土中（住居跡土層の４層）に焼土塊が多量に含まれており、炭化材も確認できたことから、焼失した可能性が高い。ただし、炉石は抜き取られた上に４層が堆積しており、石材が持ち出された後に焼失したものと想定される。

出土遺物

縄文土器深鉢（№３）の破片が、炉の南側から西側にかけて広範囲に分布している。大きな破片のまとまりは炉の南側で確認でき、炉の西側には小さな破片が分布していた。底部は床面に正置の状態で置かれていた土器が、落ちてきた土砂や柱材に押し潰され、その衝撃で飛び散った可能性が高いと推測する。

これ以外の土器（№４・５）、土製品（№６）、石器（№７～12）、石材剥片は覆土中からの出土である。

深鉢（№３）は、四突起の波状口縁である。底部は僅かな上げ底で、葉脈痕が確認できる。口縁直下、



桑畑Ⅶ遺跡　SI01遺構実測図

頸部、胴部中央に二条の沈線を巡らせ、２区画の文様帯としている。口縁～頸部（第１文様帯）は突起部分に対向する二重括弧を施し４区画する。頸部には縄文は施されていない。胴部上半（第２文様帯）には縦回転のＬＲ縄文を施した後、入組文を描き、文様の端点に円形刺突を行う。胴部下半はナデ調整が行われている。深鉢の口縁部片（№４）は、口唇部に刻みがあり、この部分に突起がある可能性が高いため、波状口縁の可能性が高い。横回転の無節Ｌ縄文を施し、文様の下端部分で原体を器面押し付け沈線としている。小型土器（№５）は、粘土紐輪積で成形された土器で、外面は無文である。底部は上げ底である。№３～５は器形や文様の特徴から、SI01同様に縄文時代後期前葉の十腰内式土器である。

土製品（№６）は、全長７cmのやや大型の鐸形土製品である。粘土紐輪積みで成形したあと、両面には縄文を施し外周に沿って円形刺突を施す。上部中央には吊り下げるための円形穿孔（鈕）が行われており、この鈕の周囲には円形刺突は行われていない。

石器は、削掻器（№７）、小型磨製石斧（№８）、磨製石斧（№９）、一部磨製打製石斧（№10～12）である。№８は全面を研磨し、№９は刃部と正面を中心に研磨している。№10～12は自然礫を荒割りした後で刃部の一部を研磨している。図化していないが、このほかに打製石斧の製作時の剥片と考えられる石材小片が出土しており、建物周辺で製作が行われていた可能性が高い。

【土坑（略号：SK）】

土坑は２基（SK02・03）検出した。個別の規模については、別記一覧表にまとめた。

SK02

調査区東側で確認した。東側は調査区外である。断面椀形で、平面はやや不整形な円形である可能性が高い。

SK03

フラスコ状土坑で、竪穴建物近くに位置することから貯蔵穴の可能性が高い。SK03からは、縄文土器が出土しており、２点（№13・14）を図化した。№13は、深鉢の口縁部～頸部の破片である。口唇部に円形刺突を施す、口縁直下に縄文原体を押し付けることにより二条の沈線を施し、その下位に二段の円形刺突を行う。頸部と口縁部の円形刺突は大きさが異なるため、別工具が使用されていることがわかる。№14は壺の口縁部～頸部の破片である。№13・14は文様の特徴から、SI01・02と同じく十腰内式土器と推測される。ただし№13の円形刺突を施す点は、岩手県北部沿岸にはあまり確認されないようであり、別地域（青森以北）から搬入された可能性も考えられる。

【性格不明遺構（略号：SX）】

SX01

竪穴住居跡SI01の南西側約5.5ｍの位置で確認した。遺構の南東側は耕作により失われ、大部分は重機による掘削のため底面まで破壊されていた。当初は攪乱と考えていたが、平面形状が円形に復元できることや、SI02同様壁際に小穴が確認できることから、竪穴住居跡の可能性が想定される。ただし、炉や遺物は確認できないことから断定はできない。竪穴住居跡とすれば円形平面の可能性が高く、規模は約5.1ｍに復元できる。

【ピット（略号：SP）】

SP01～03

SI02の南東で３基確認した。深さは0.1ｍ前後あり、想定される竪穴住居跡の範囲内にあることから、ピットとして登録した。いずれも浅く、底面が平坦ではないことから柱穴ではない可能性が考えられる。

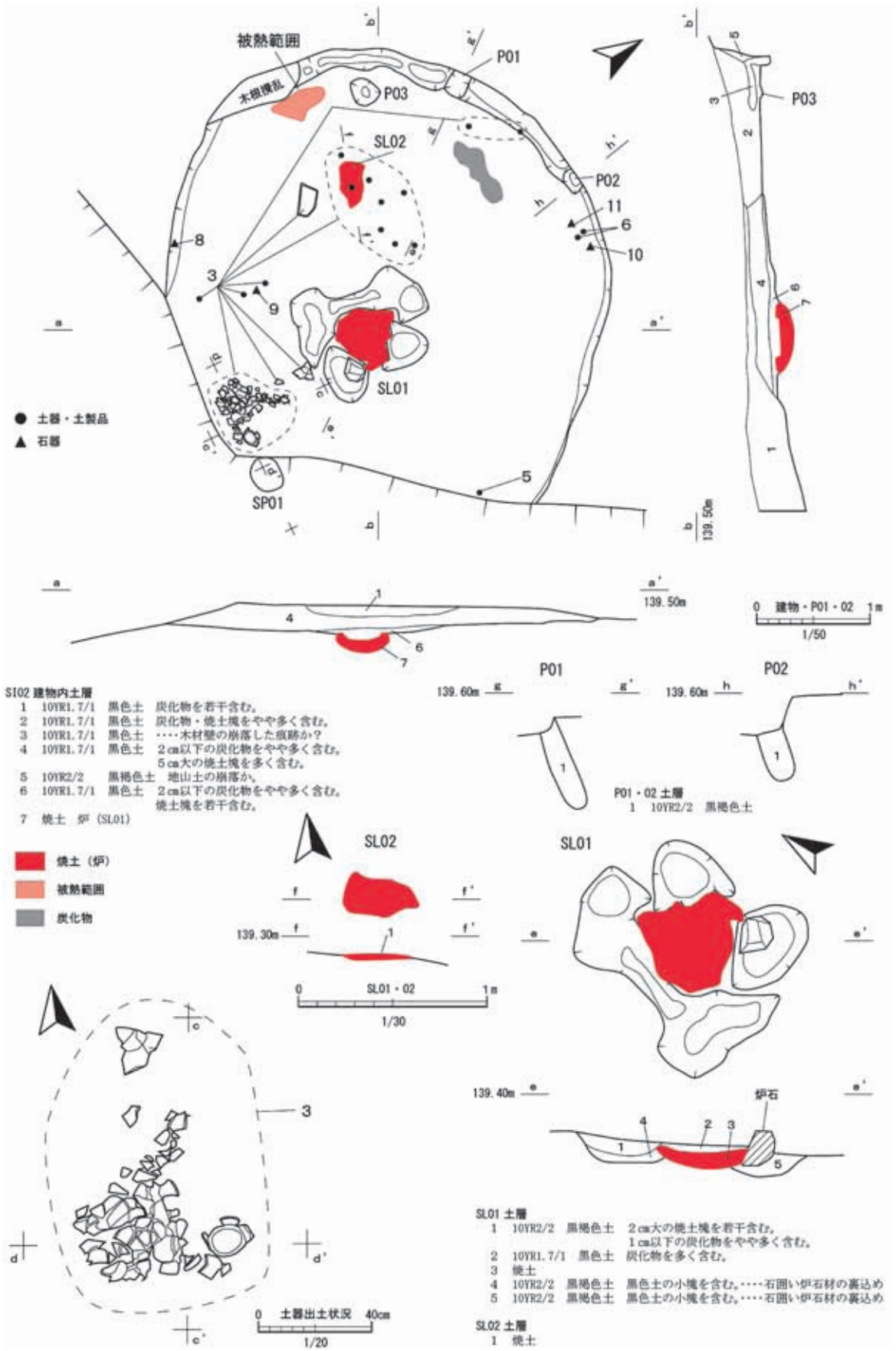
【遺構外出土土器】

SI01の西側の斜面上部から、遺構に伴わない縄文土器壺（№15）が出土した。この点から、調査区外である、北西側の尾根上部から流れ込んできた可能性が高い。壺は頸部より上と底部が欠損している。頸部付近には長楕円形の文様、胴の上部には入組文を施す。入組文の下位に二条の沈線を巡らせ、胴下部はナデ調整が行われている。外面全体に朱塗りが行われており、文様の特徴から十腰内式土器と推測される。

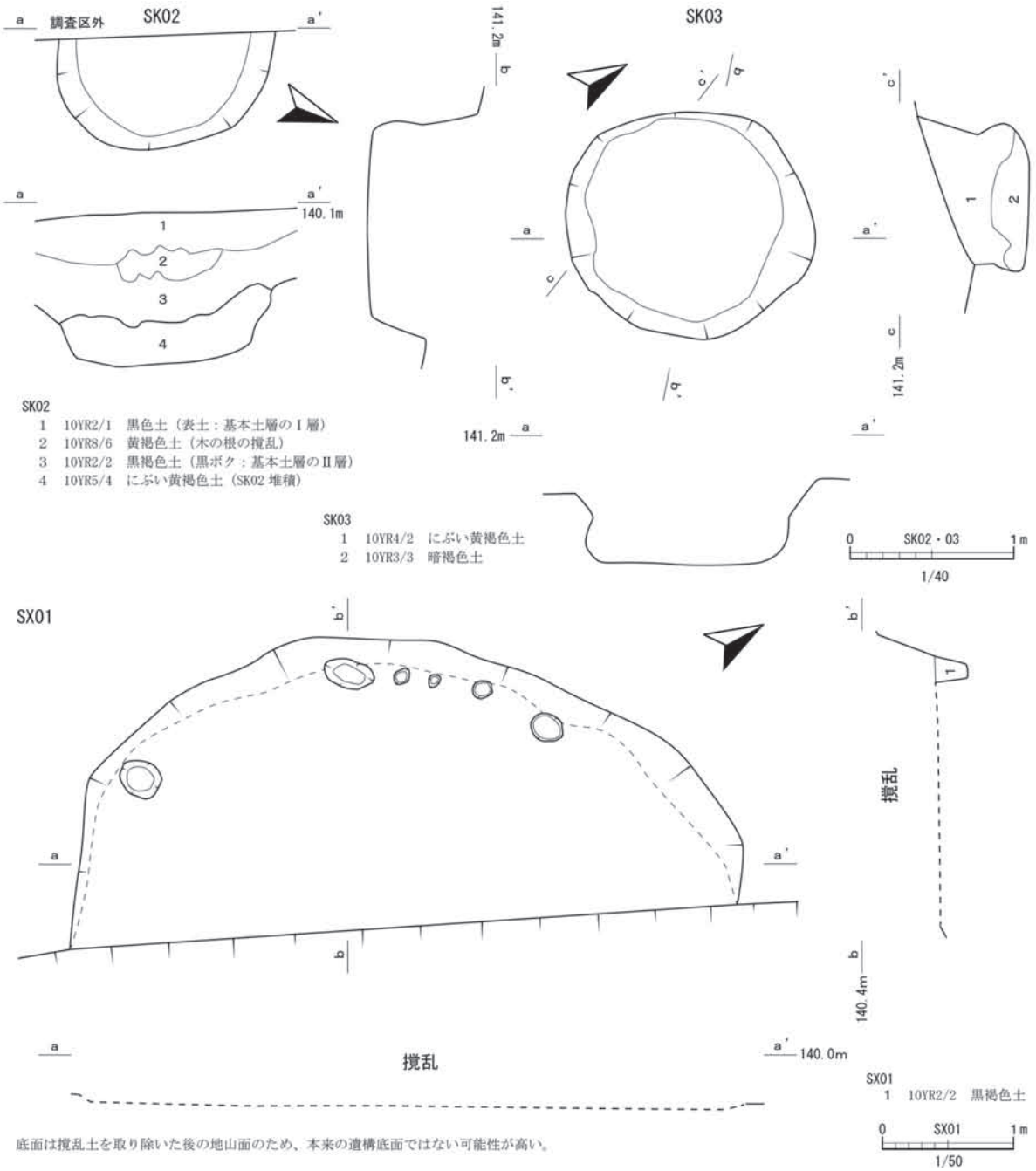
【まとめ】

調査の結果、桑畑Ⅶ遺跡は縄文時代後期前葉の十腰内式土器を中心とする時期の集落と考えられる。竪穴住居跡２棟は、直径４ｍ前後の楕円形に近い平面形であり、主柱穴を持たない可能性が高い。いずれも覆土に焼土塊や炭化物が多く含まれることから、焼失住居と思われる。また、SI01・02は同時期であるが、住居跡の屋根の大きさなどを考えると、同時並存するには近接しすぎるため、若干の時期差があるものと推測される。

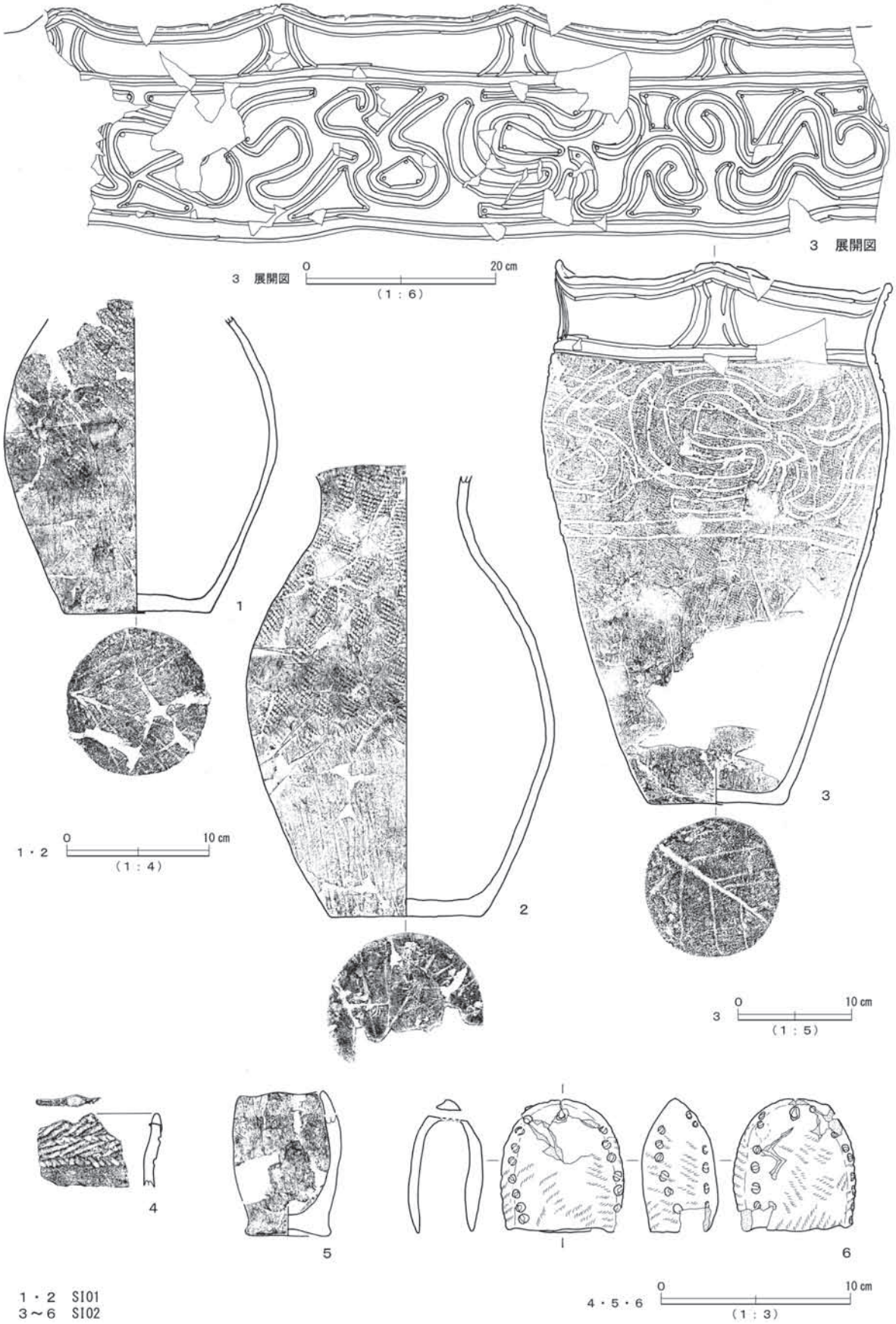
土器について、県埋文センター 八木勝枝氏、（公財）北海道埋蔵文化財センター 大泰司統氏（平成29年度県埋文センター派遣）のご教授を得た。明記して深謝します。（大谷・伴瀬・長屋敷）



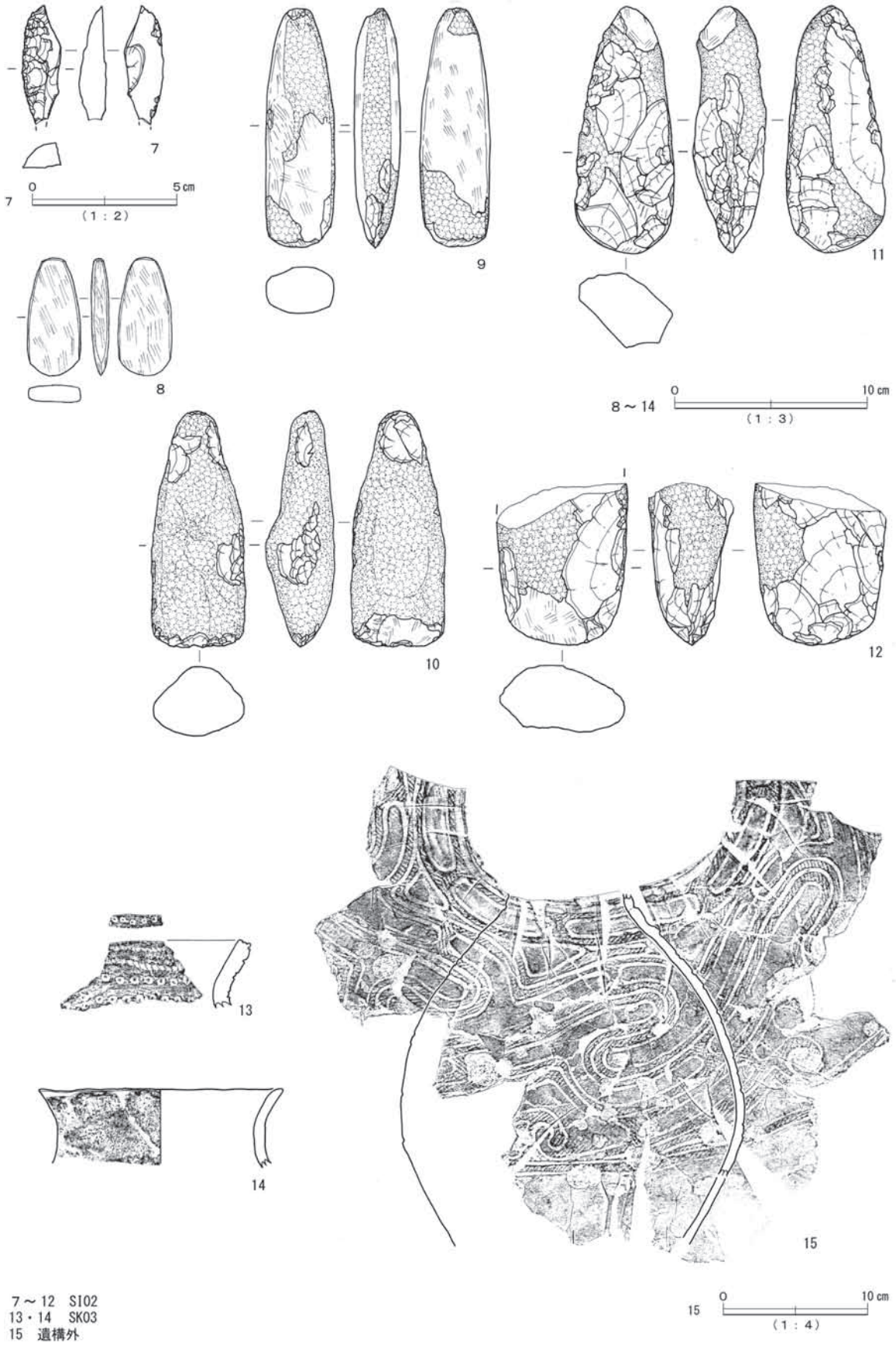
桑畑Ⅶ遺跡　SI02遺構実測図



桑畑Ⅶ遺跡　SK02・03及びSX01実測図



桑畑Ⅶ遺跡　出土遺物実測図・拓影１



桑畑Ⅶ遺跡　出土遺物実測図・拓影２

遺構名	平面規模（m）	深さ（m）	出土遺物	備考
SI01	3.5+	0.25	縄文土器・石器	地床炉。東側約半分が逸失。
SI02	3.6+	0.4	縄文土器・土製品・石器・石材剥片	石囲い炉。東側約半分が逸失。
SK02	1.34+	0.36	―	南側調査区外
SK03	1.52	0.42	縄文土器	貯蔵穴
SX01	5.1	0.4	―	上部は攪乱により破壊されている。竪穴建物か。
SP01	0.25	0.1	―	SI02との関係不明。
SP02	0.3	0.1	―	SI02との関係不明。
SP03	0.26	0.1	―	SI02との関係不明。

※規模は、上面。数値の後に「＋」を付加したものは、失われた部分や遺構が調査区外に続いていることを意味する。

桑畑Ⅶ遺跡　遺構観察表

番号	遺構名	層位	種別	器種	部位	口径	頸部径	胴部径	底部径	器高	特徴
1	SI01	床面直上	縄文土器	壺	胴部～底部	-	(13.0)	19.2	10.4	(20.8)	底部木葉痕・RL縄文
2	SI01	床面直上	縄文土器	壺	頸部～底部	-	10.3	21.8	10.8	(31.1)	底部木葉痕
3	SI02	床面直上	縄文土器	深鉢	口縁～底部	29.4	28.3	30.7	11.8	(47.8)	底部木葉痕
4	SI02	覆土	縄文土器	深鉢	口縁	―	―		3.8	―	竹管文
5	SI02	覆土	縄文土器	小型壺	口縁～底部	4.3	―	5.7	4.2	7.7	無文
6	SI02	覆土	土製品	鐸形土製品	ほぼ完形	6.5	―	―	4.0	7.0	上部穿孔・両面に竹管文
13	SK03	覆土	縄文土器	深鉢	口縁	―	―	―	3.5	―	
14	SK03	覆土	縄文土器	深鉢	口縁	12.6	10.8	―	―	(4.1)	
15	遺構外	―	縄文土器	壺	胴部	-	(8.5)	(23.9)	―	(45.5)	朱塗りの痕跡あり

※括弧付き数値は、残存値あるいは復元値であることを示す。　計測値（cm）
※深鉢の「頸部径」は屈曲部径、「胴部径」は最大径。
※６について、「口径」は幅を、「器高」は高さを、「底部径」は、奥行きを計測している。

桑畑Ⅶ遺跡　出土土器観察表

番号	遺構名	層位	種別	器種	材質	全長	幅	厚さ	重量	特徴
7	SI02	覆土	打製石器	削掻器	珪質頁岩	(4.1)	1.3	1.2	4.1	
8	SI02	覆土	磨製石器	小型石斧	凝灰岩	6.1	4.8	0.9	30.0	
9	SI02	覆土	磨製石器	石斧	凝灰岩	12.3	3.6	2.5	174.0	
10	SI02	覆土	一部磨製打製石器	石斧	凝灰岩	12.2	4.9	3.6	262.0	
11	SI02	覆土	一部磨製打製石器	石斧	凝灰岩	12.7	5.1	3.7	284.0	
12	SI02	覆土	一部磨製打製石器	石斧	凝灰岩	(8.3)	(6.8)	(4.5)	318.0	石斧転用材か

※括弧付きの数値は残存値であることを示す。　計測値（cm、ｇ）

桑畑Ⅶ遺跡　出土石器観察表

調査区完掘全景（北西から）

SI01・02完掘全景（東から）

SI01　遺物出土状況（南西から）

SI02　焼土・炭化物・遺物出土状況（西から）

SI01　土器（№2）出土状況

SI01　炉（SL03）検出状況

SI02　土器（№3）出土状況

SI02　炉（SL01）検出状況

SK03　完掘状況（南東から）

SX01　完掘状況（東から）

SI01-1
(1：3ca)

SI01-2
(1：3ca)

SI02-5
(1：2ca)

13
4
SI02-4・SK03-13
(1：3ca)

SK03-14
(1：3ca)

7
8
SI02-7・8
(1：2ca)

SI02-3
(1：5ca)

出土遺物写真１

出土遺物写真２

12　三陸沿岸道路（宮古田老道路）

向新田（むかいしんでん）XX遺跡

（KG74-2172：レベルバンク設置）

【所 在 地】　宮古市田老乙部野地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成28年６月27日（月）
　　～７月８日（金）

【調査面積】　220㎡

【調査結果】　調査地は、三陸鉄道北リアス線接待駅から南へ直線で約2.5km、小堀内川の右岸の標高150m前後の丘陵中腹に位置しており、全体的に北から南西方向に緩やかに傾斜している。

向新田XX遺跡 位置図

当該地は、平成27年度に実施した試掘調査においてピットを検出し、小片ながら縄文時代後期の土器片が出土した結果に基づき、宮古市教育委員会と協議のうえ、新規遺跡として登録されたものである。レベルバンクとは、道路添いに生じる深い窪地を埋め立てるもので、工事工程上急を要することから平成28年６月に発掘調査を実施した。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　暗茶褐色土　層厚15～20cm（腐植土）

Ⅱ層　黒褐色土　　層厚30～40cm

Ⅲ層　黄褐色土　　層厚40～90cm（遺構検出面）

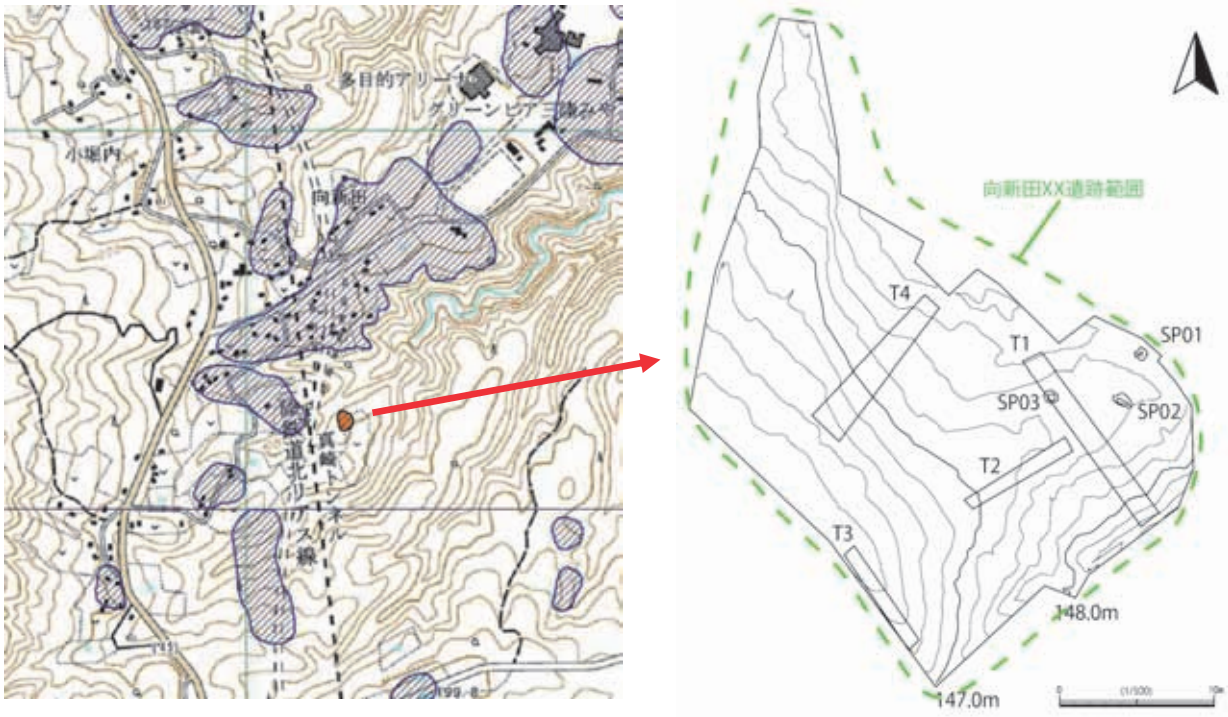
Ⅳ層　褐色土　　層厚30～50cm（十和田起源の火山灰ブロック含む）

Ⅴ層　赤褐色土　　層厚不明

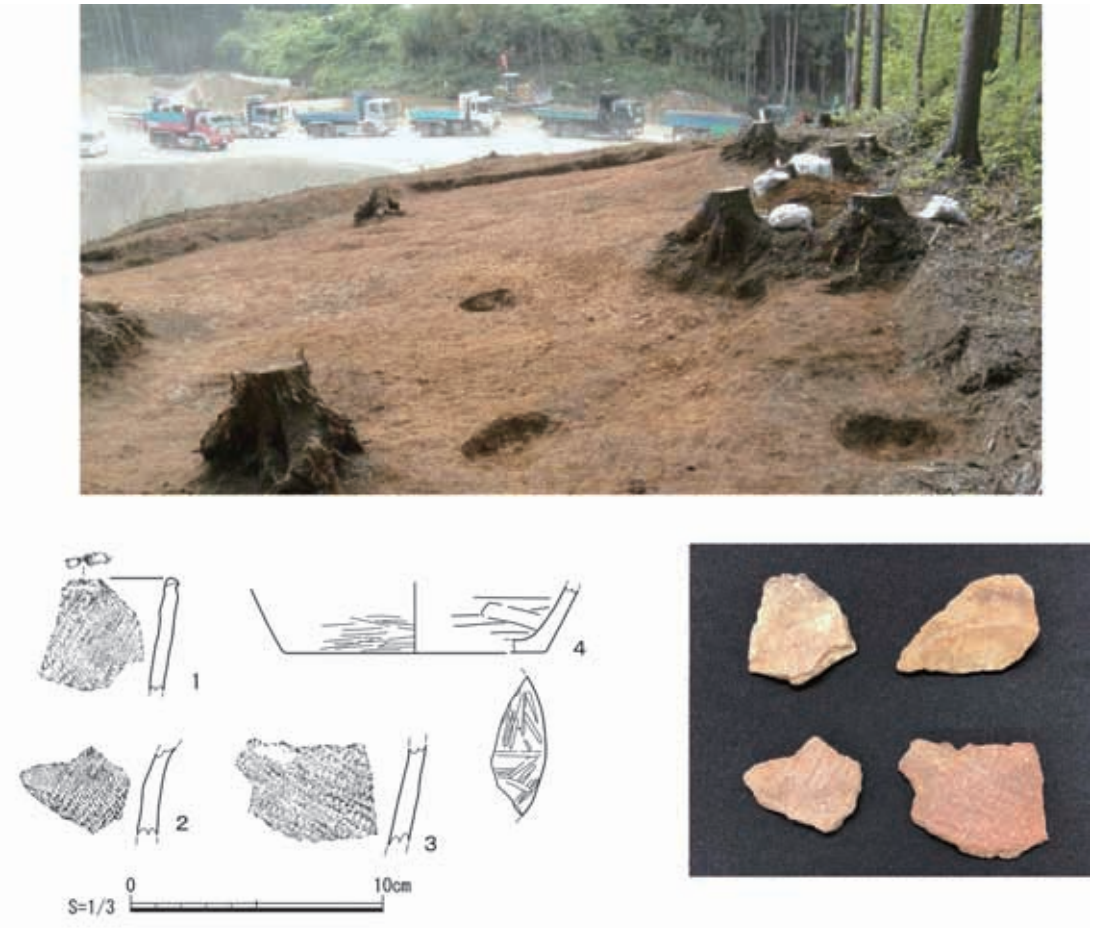
調査の結果、調査区南東寄りの埋没谷で、十和田火山起源と考えられる火山灰ブロックの二次堆積が見られるⅢ層上面において、直径約0.3～0.5m・深さ0.2m程度のやや不整形な円形ピットを３基検出した。出土遺物はなく性格・時期は不明である。

ピット周辺のⅢ層直上から、摩滅のない縄文時代後期（出土遺物№１～３）～晩期（№４）のものと推測される土器片が出土している。

当該調査区に隣接する東側の緩やかな尾根上付近に、当該期の遺構が存在する可能性が高く、遺構もその一部と考えられる。（小竹森・久保）



向新田XX遺跡　調査位置図（1/20,000）及び遺構配置図



完掘全景写真・実測図・出土遺物

13　宮古盛岡横断道路（宮古箱石道路）

腹帯（はらたい）Ⅳ遺跡（LG40-2030）

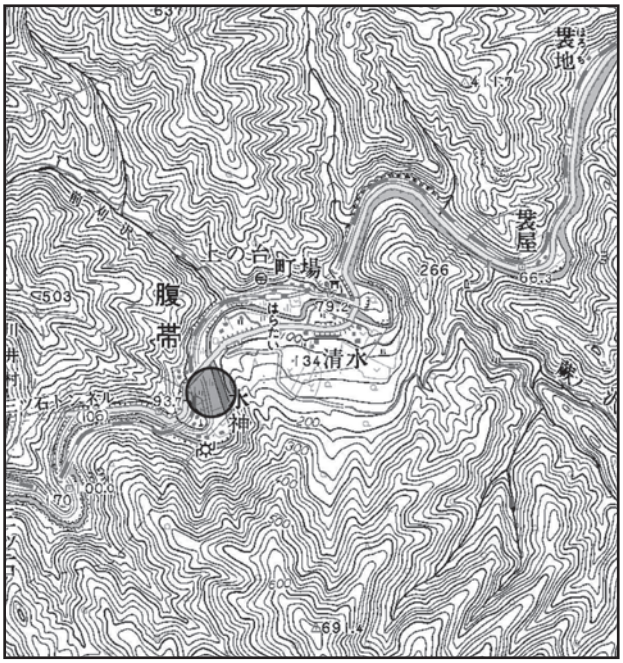
【所 在 地】　宮古市腹帯第３地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成28年10月24日（月）
　　～11月２日（水）

【調査面積】　240㎡

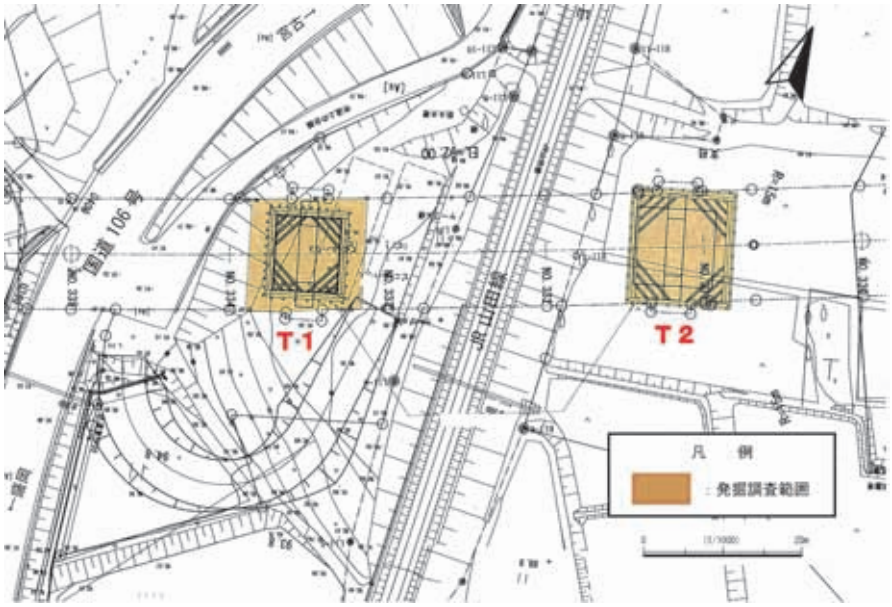
【調査結果】　調査地は、ＪＲ山田線腹帯駅から南西へ約0.7㎞に所在し、蛇行する閉伊川左岸に面した標高約88～95ｍを測る河岸段丘上に位置する。



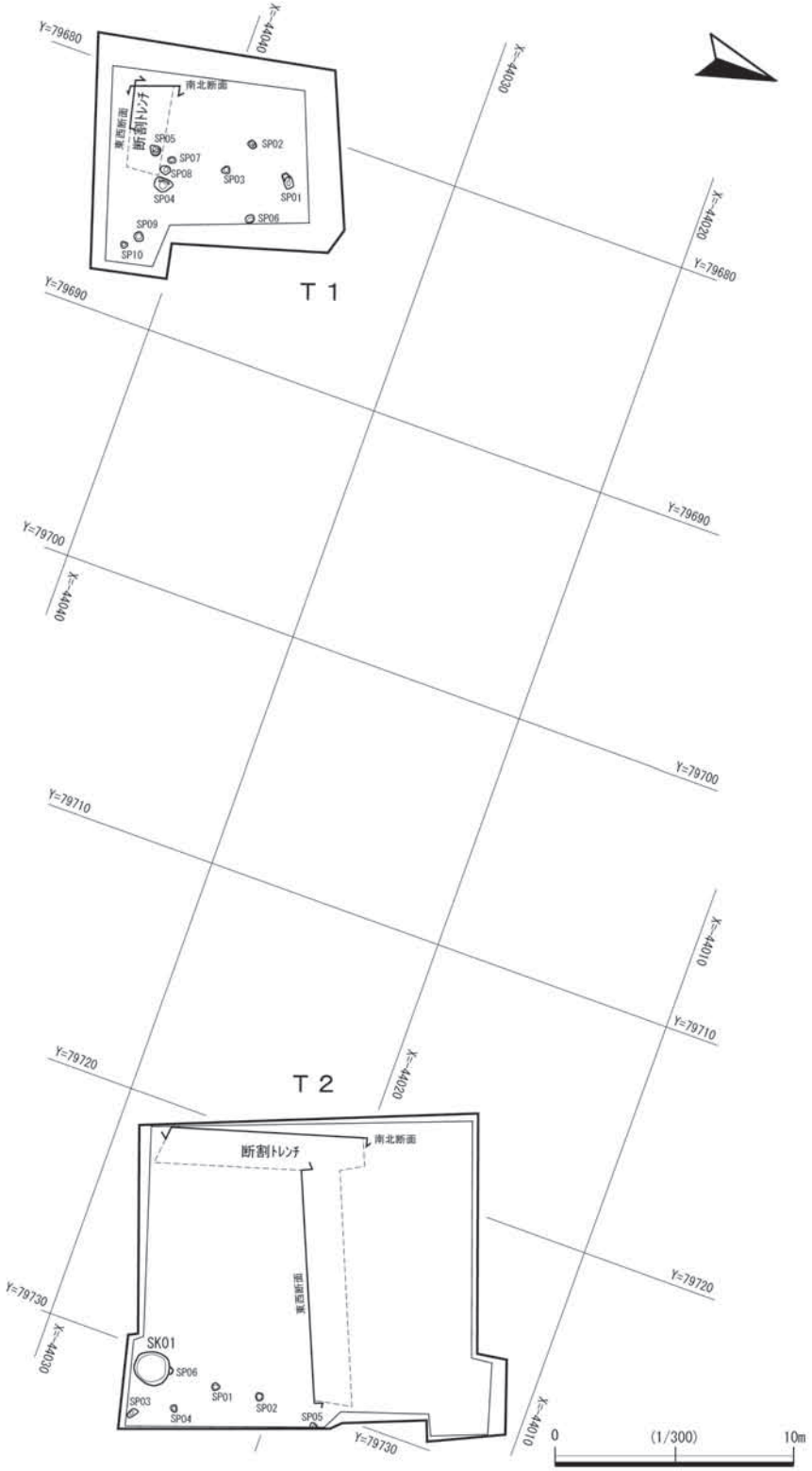
腹帯Ⅳ遺跡　位置図

当該遺跡は、平成27年度に今回調査対象地の東側隣接地で実施した試掘調査で新規に発見されたものであり、引き続き実施した発掘調査では、縄文時代中期末～後期の竪穴住居跡の一部や土坑を検出している。

今回の橋脚部分については、平成25年度に試掘調査を実施済みであったものの、橋脚部分を含めた広範囲を工事用ヤードとして利用する変更計画が提示された。このため、委託者と再協議のもと、平成28年６月22日に追加で実施した試掘調査により遺構を検出したことから、急遽当課による発掘調査を実施することとなった。



腹帯Ⅳ遺跡　調査位置図



腹帯Ⅳ遺跡　遺構配置図・断面図

発掘調査は２箇所の橋脚部分を主体とし、ＪＲ山田線を挟んで西側をＴ１、東側(閉伊川側)をＴ２とし、遺構名・番号はトレンチごとに01から付した。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層	表土・耕作土	層厚５～20㎝
Ⅱ層	黒ボク質土	層厚10～80㎝
Ⅲ層	灰色～黒色角礫・砂礫土	層厚30～270㎝以上（土石流・崩落土）
Ⅳ層	黒ボク・黄茶色混合土	層厚10～30㎝（遺構掘込み面）
Ⅴ層	明黄茶色土	層厚不明（地山層・遺構検出面）

山側に位置するＴ１では、遺構掘込み面であるⅣ層直上に、土石流のⅢ層が２ｍ以上堆積しているのに対して、Ｔ２では30㎝程度と極めて薄い状況であった。各層はＴ１からＴ２に向かって緩やかな勾配を持つものの、ともにⅣ層上面から遺構が掘り込まれている。ただし、遺構埋土との識別が不明瞭であったことから、Ⅴ層上面で精査し遺構を検出することとした。また各トレンチにおいて、遺構検出面以下の堆積状況を確認するための断割り調査を実施したところ、Ⅴ層直下に厚さ20㎝程度の十和田中掫火山灰層が認められ、下層はＴ１で角礫による土石流堆積層、Ｔ２では円礫からなる河川堆積層となる。

【Ｔ１】

検出遺構はピット（略号：SP）10基（T1-SP01～10）であり、遺物はT1-SP01の埋土直上から縄文土器の小片が１点出土したのみである。

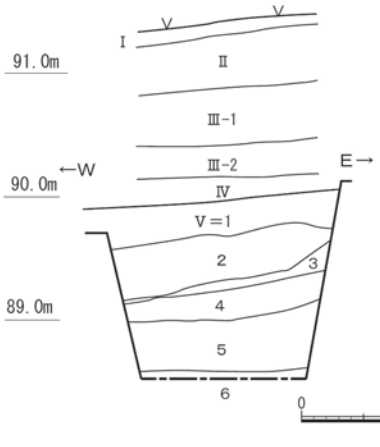
T1-SP01・02・04・05

後述する角礫を伴うピットと比較すると平面がやや不整形であり、0.3ｍ以上の深さを持つ。植物根の影響を受けているが、土層堆積状況から短期間に埋没したことがうかがえる。T1-SP01の埋土上面からは、縄文土器が１点（出土遺物№１）出土している。小片のため詳細は不明であるが、沈線文とその間を充填する刺突文が確認できる。

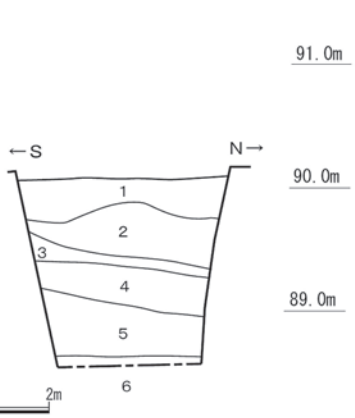
T1-SP03・06～10

直径0.2～0.4ｍを測る円形のピットであり、深さは0.1～0.2ｍ程度と浅いものの、ピット中央部には一辺が数㎝で１～10個程度の角礫群を伴う。角礫は土石流由来のチャート・泥岩などであり、摩耗等は認められない。T1-SP03・06～08で明らかなように、これらの小角礫群はピット底面直上ではなく、わずかに上位に分布する。中央に密集していることから自然混入の可能性は低く、柱根固めの痕跡である可能性が高い。これら６基のピットは、直径５～６ｍ程度の円周上に位置していることや、東側の平成27年度発掘調査区においても同様な遺構を検出していることから、竪穴住居跡の存在が推測される。

Ｔ１東西断割断面



Ｔ１南北断割断面

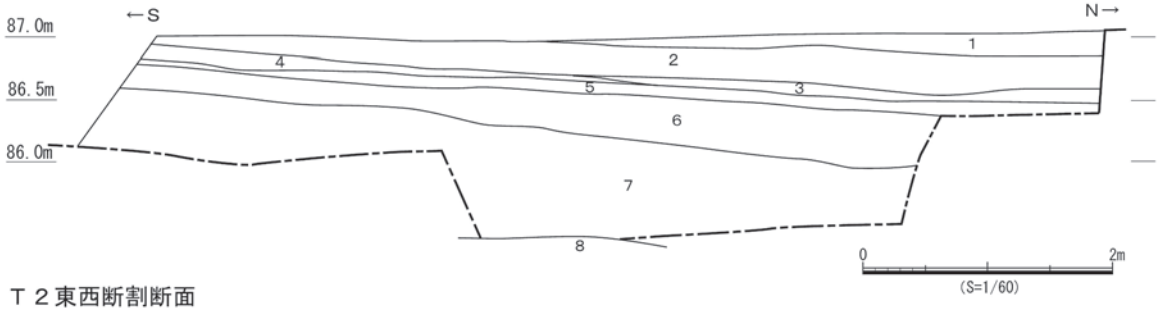


基本層序
- Ⅰ　表土層
- Ⅱ　黒ボク層
- Ⅲ-1　灰色角礫層
- Ⅲ-2　灰色角礫・黒ボク混合層
- Ⅳ　黒ボク・黄茶色土混合＝遺構掘り込み面
- Ⅴ　明黄茶色土＝調査時遺構検出面

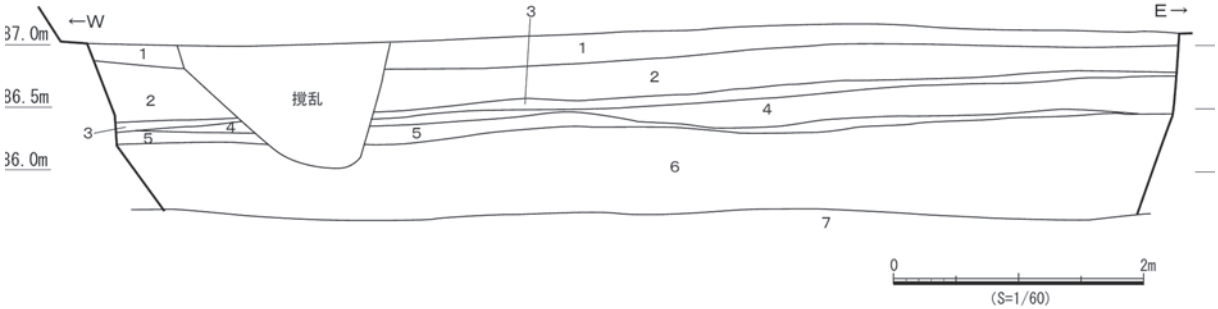
Ｔ１断割
- 1　10YR6/6　明黄褐色土＝遺構検出面
- 2　10YR4/4　褐色弱粘質土
- 3　10YR5/4　にぶい黄褐色土　やや締りあり＝十和田中掫火山灰
- 4　10YR3/2　黒褐色粘質土・角礫混合
- 5　10YR3/4　暗褐色砂礫
- 6　10YR3/2　黒褐色角礫

（4～6：土石流堆積）

Ｔ２南北断割断面



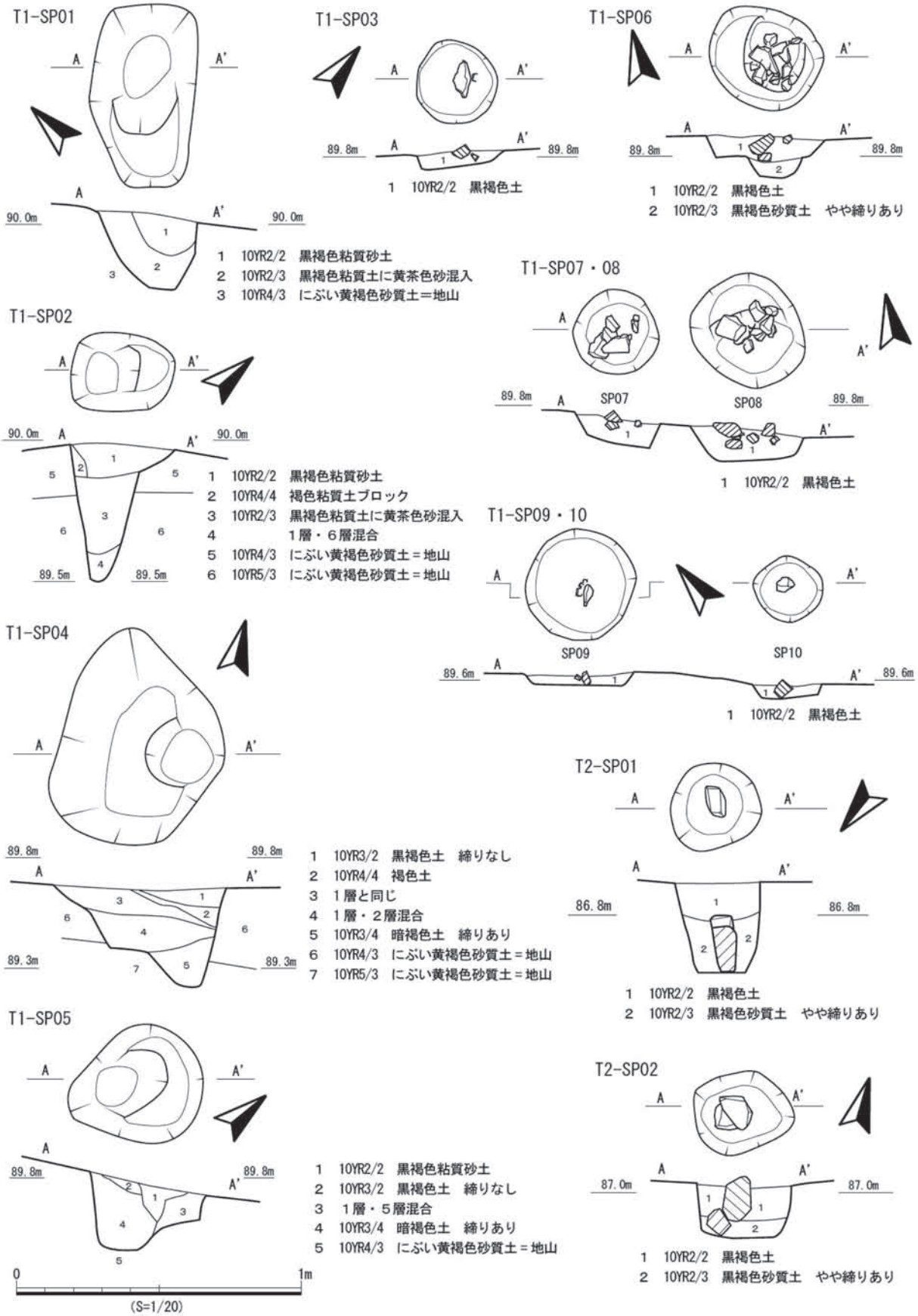
Ｔ２東西断割断面



- 1　10YR4/4　褐色土＝遺構検出面
- 2　10YR4/4　褐色弱粘質土
- 3　10YR5/4　にぶい黄褐色土　やや締りあり＝十和田中掫火山灰
- 4　10YR3/2　黒褐色粘質土・角礫混合＝土石流堆積
- 5　10YR3/2　黒褐色粘質砂土
- 6　10YR3/4　暗褐色粘質砂土
- 7　2.5Y5/2　暗灰褐色砂
- 8　６層・円礫混合

（6～8：河川堆積）

腹帯Ⅳ遺跡　T1・T2基本層序・断割トレンチ土層図



腹帯Ⅳ遺跡　T1・T2ピット平面・断面図

【Ｔ２】

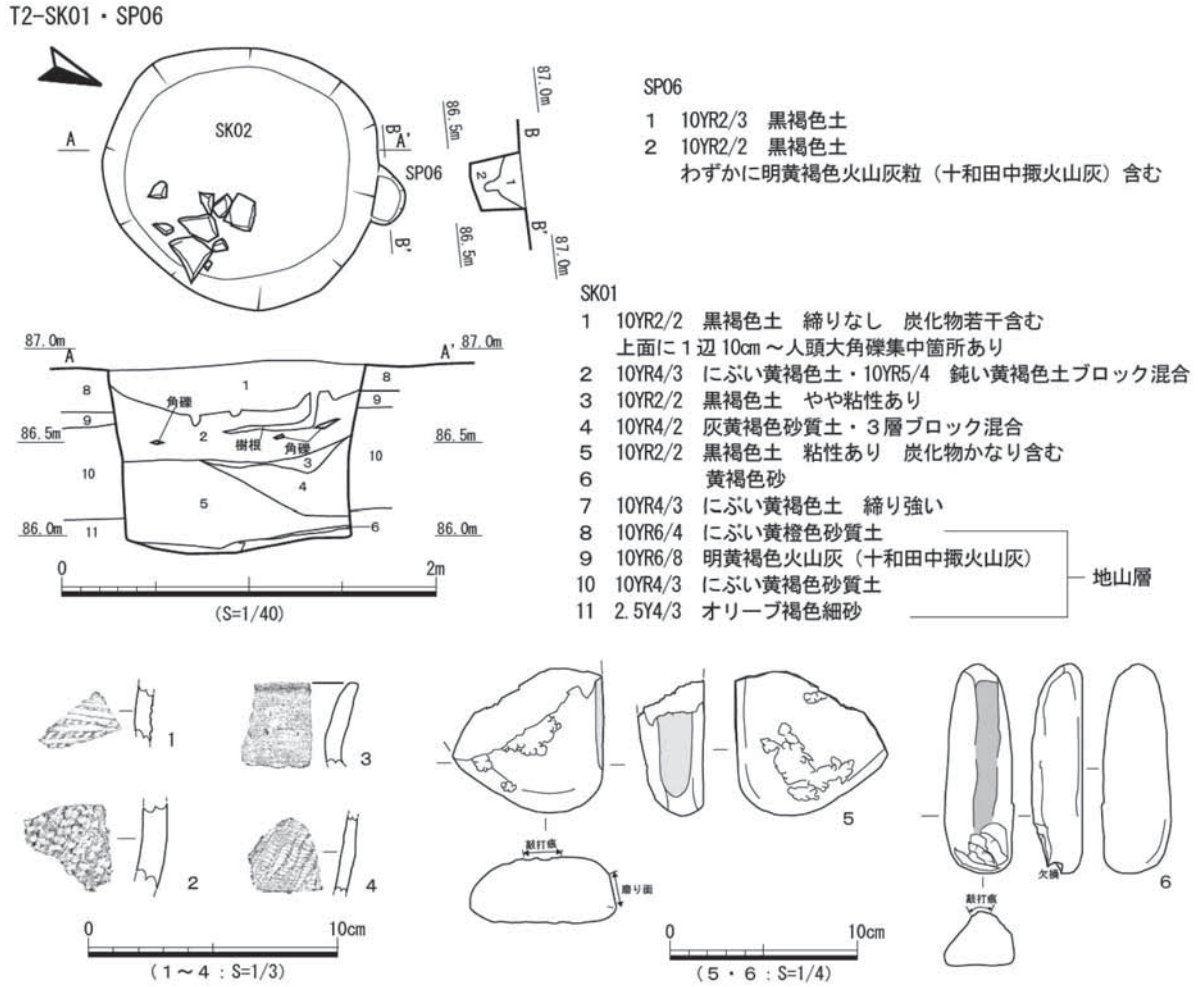
検出遺構は、円形土坑（略号：SK）１基（T2-SK01）とピット６基（T2-SP01～06）で、遺物は、T2-SK01の埋土内からわずかに縄文土器の小片・石器が出土したのみである。

T2-SP01・02

直径が0.3m程度を測り、卵形あるいは隅丸方形の平面形を呈し、中央部に一辺10～20cm程度の角礫が１～２個あるピットである。T2-SP01では、断面隅丸方形を呈し、長さ19cm・重さ2,070ｇの石棒状の花崗閃緑岩が底面から直立している。T2-SP02では、砂岩・低温変成岩の２個が中央からやや壁寄りで出土している。T1-SP03・06～10と比較すると石材が大きく、T2-SP01の石材は自然摩耗が認められることから、河川敷由来の柱の根固めであると考えられる。

T2-SP03～06

直径0.3m程度の円形・長楕円形を呈するピットであり、T2-05・06とT2-SP01・O2は、おおむね1.5m間隔でほぼ直線上に並んでいるように見える。このことから、根固め石を伴うT2-SP01・O2は、入り口施設を構成するピットとなる可能性が考えられたが、近接してT2-SP03･04存在することから、直線的配列は限られた調査区内での見かけ上のものであると推測される。



腹帯Ⅳ遺跡　T2-SK01・SP06平面・断面・遺物実測図

T2-SK01

トレンチ南東隅近くで検出した直径1.5m・深さ１ｍを測る円形土坑であり、T2-SP06を切り込んでいる。底面はほぼ平坦であり壁面はほぼ直立する。埋土は１・２層の上層と３～７層の下層に大別される。１層上面では20個近くの礫群状に集中している状況を検出したが、上層全体に円礫・角礫がかなり混在している。これらの礫群は、砂岩系・花崗岩系の円礫とチャート・泥岩などの角礫で構成されており、おおむね８：２の割合となる。また、円礫の大半には被熱痕や破断が認められる。さらに、破損石器が２点(№５・６)含まれている。下層埋土の５層には炭化物片がかなり含まれているものの、礫は小礫がわずかに含まれる程度である。底面は砂質土層に達していることから、底面直上には粘性の高いにぶい黄褐色土（埋土７）を貼り付けている。土坑自体の機能・性格については不明瞭ではあるが、各層位の堆積状況から自然埋没の可能性は低く、一時期に埋め戻されたものと考えられる。

上層･下層のいずれからも縄文土器の小片が出土しているが、図示したのは３点(№２～４)である。№２・４は地紋の縄文が明瞭に確認できる破片であり、無文の破片も見られる。№３は、わずかに外反する口縁部破片であり、内外面ともにナデ調整で平滑に仕上げている。

№５は三角形状の敲打磨石であり、1/3程度で破断している。№６は一部に研磨面を持つ棒状の敲石であり、先端部は破損している。

【まとめ】

調査面積が橋脚分の狭小な範囲に限られ、遺構や遺物も僅かであった。このため、遺跡の性格や具体的な時期は特定し難いものの、平成27年度発掘調査区と同じ地形面に所在し、同様な縄文土器片や石器が出土していることなどから、隣接地と時期が重なる一連の遺跡と想定される。(小竹森・久保)

調査地遠景（北から）

T1　遠景（西から）

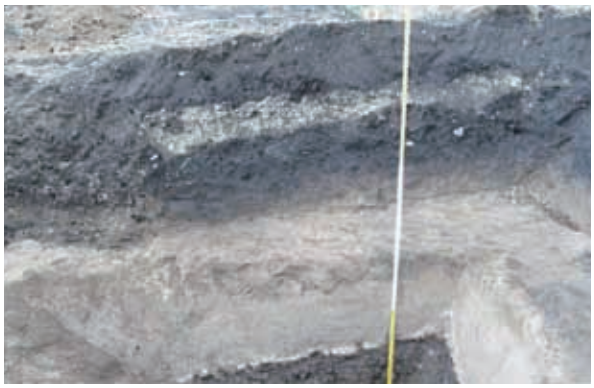
T1　完掘全景（西から）

T1-SP06　根固め石検出状況

T1-SP04・05・07・08　検出状況

T1-SP07・08　根固め石検出状況

T1-SP04・05・07・08　完掘全景



T1　南壁・断割り土層堆積状況

T2　完掘全景（西から）

調査風景

T2-SP01～06・SK01　完掘全景（南から）

T2-SP01～06・SK01　完掘全景（東から）

T2-SP01　根固め石検出状況

T2-SP02　根固め石検出状況

T2-SP01　完掘状況

T2-SP02　完掘状況

T2-SK01　埋土上層礫群検出状況

T2-SK01　断面

T2-SK01・SP06　完掘状況

T2　南北断割り土層堆積状況

出土遺物写真

平成28年度 派遣専門職員

【後列左から】１人おいて佐々木務・長屋敷淳史・大関真人・鳥居達人１人おいて久保賢治（岩手県職員）
【前列左から】小竹森直子（滋賀県派遣）・大谷宏治（静岡県派遣）・伴瀬宗一（埼玉県派遣）・須川翼・半澤武彦（岩手県職員）※敬称略

小竹森直子氏（滋賀県派遣職員・H27～28年度）

伴瀬宗一氏（埼玉県派遣職員）

大谷宏治氏（静岡県派遣職員）

分布・試掘・発掘・工事立会
市町村支援 調査一覧

1　分布調査一覧

一般国道45号要谷歩道整備事業（三陸国道事務所管内）

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1		可能性あり				陸前高田市気仙町要谷地内	平成28年12月8日	影響なし

2　試掘調査一覧

（1）三陸沿岸道路

（三陸国道事務所管内：青森県階上IC～山田IC・南三陸国道事務所管内：山田南IC～宮城県唐桑IC）

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	結果	所在地
1	平成28年4月19日	三陸沿岸道路（山田宮古道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	間木戸Ⅰ遺跡	影響なし	山田町
2	平成28年4月20日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	サンニヤⅠ遺跡	要発掘調査	洋野町
3	平成28年4月25日～26日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	桑畑Ⅶ遺跡および隣接地	要発掘調査	久慈市
4	平成28年5月17日～18日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	サンニヤⅠ遺跡	要発掘調査	洋野町
5	平成28年5月24日～25日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり15（→荒津内遺跡）	要発掘調査	洋野町
6	平成28年6月21日	三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	小白浜遺跡	影響なし	釜石市
7	平成28年6月21日	三陸沿岸道路（山田宮古道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	津軽石大森遺跡	影響なし	宮古市
8	平成28年6月27日～29日、8月1日～5日、平成29年2月27日～28日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり11（→サンニヤⅢ遺跡）	要発掘調査	洋野町
9	平成28年9月1日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり（函渠施工時の迂回路）	影響なし	洋野町
10	平成28年10月11日	三陸沿岸道路（唐桑高田道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	水上Ⅱ遺跡隣接地	影響なし	陸前高田市
11	平成28年10月20日	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	山口駒込Ⅰ遺跡	要発掘調査	宮古市
12	平成28年10月26日	三陸沿岸道路（久慈北道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	北野XⅡ遺跡	影響なし	久慈市
13	平成28年10月26日	三陸沿岸道路（久慈北道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	北野XⅢ遺跡および隣接地	影響なし	久慈市
14	平成28年11月28日～30日	三陸沿岸道路（田野畑道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり１・ICアクセス道路	影響なし	田野畑村
15	平成28年11月28日～30日	三陸沿岸道路（田野畑道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり２・ICアクセス道路（→和野新墾神社遺跡範囲拡大）	要発掘調査	田野畑村
16	平成28年11月28日～30日	三陸沿岸道路（田野畑道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり３・ICアクセス道路	影響なし	田野畑村
17	平成28年11月29日	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	山口駒込Ⅰ遺跡および隣接地	影響なし	宮古市
18	平成28年12月6日	三陸沿岸道路（久慈北道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	木戸場遺跡	要発掘調査	久慈市
19	平成28年12月14日～15日	三陸沿岸道路（尾肝要普代道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	オヤッキ沢遺跡および隣接地	影響なし	田野畑村
20	平成28年12月14日～15日	三陸沿岸道路（尾肝要普代道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり11	影響なし	田野畑村
21	平成29年1月17日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	鹿糠浜Ⅰ遺跡隣接地（5号工事用道路）	影響なし	洋野町
22	平成29年1月24日	三陸沿岸道路（田野畑道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	真木沢Ⅲ遺跡および隣接地	影響なし	田野畑村
23	平成29年2月7日	三陸沿岸道路（浪板工事用道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	松磯遺跡隣接地	影響なし	大槌町
24	平成29年2月21日～22日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	鹿糠浜Ⅰ遺跡隣接地（5号工事用道路）	影響なし	洋野町
25	平成29年2月27日～28日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	伝吉Ⅰ遺跡	影響なし	洋野町
26	平成29年2月27日～28日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	サンニヤⅢ遺跡	要発掘調査	洋野町
27	平成29年3月8日	三陸沿岸道路（山田宮古道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	津軽石大森遺跡	影響なし	宮古市
28	平成29年3月22日	三陸沿岸道路（久慈北道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	宇津目Ⅰ遺跡および隣接地	影響なし	久慈市

（２）宮古盛岡横断道路

（三陸国道事務所管内：宮古市藤原～箱石・岩手河川国道事務所管内：宮古市平津戸～盛岡市都南川目）

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	結果	所在地
29	平成28年4月15日	宮古盛岡横断道路（新区界トンネル工事）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり4の一部および隣接地	影響なし	宮古市
30	平成28年4月20日	宮古盛岡横断道路（宮古箱石道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	松山大地田沢遺跡および隣接地	影響なし	宮古市
31	平成28年6月22日	宮古盛岡横断道路（宮古箱石道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	腹帯Ⅳ遺跡および隣接地	要発掘調査	宮古市
32	平成28年11月8日	宮古盛岡横断道路（区界残土仮置場）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり（区界沈砂池）	影響なし	宮古市

（３）東北横断自動車道釜石秋田線（遠野道路）

（岩手河川国道事務所管内：遠野IC～遠野住田IC）

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	結果	所在地
33	平成28年6月13日～15日	東北横断自動車道釜石秋田線（遠野道路）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり30（→栃洞Ⅳ遺跡）	要発掘調査	遠野市

3　発掘調査一覧

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	調査面積	所在地
1	平成28年4月18日～5月25日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	南川尻遺跡	1,320	洋野町
2	平成28年6月6日～23日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	サンニヤⅠ遺跡	496	洋野町
3	平成28年6月27日～7月8日	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	向新田XX遺跡	220	宮古市
4	平成28年7月4日～28日	三陸沿岸道路（久慈北道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	桑畑Ⅶ遺跡	1,500	久慈市
5	平成28年10月24日～11月2日	宮古盛岡横断道路（宮古箱石道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	腹帯Ⅳ遺跡	240	宮古市
6	平成29年2月6日～24日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	サンニヤⅢ遺跡	885	洋野町

4　工事立会一覧

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名（所在地）	結果
1	平成28年10月31日	三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	荒川和山遺跡（釜石市）	影響なし
2	平成28年12月7日	三陸沿岸道路（久慈北道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	桑畑Ⅶ遺跡（久慈市）	影響なし

5　市町村支援

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	内容
1	平成28年8月１日～23日	被災者個人住宅移転	大船渡市	本丸館跡	発掘調査支援

※ 網掛けは本書掲載遺跡

報 告 書 抄 録

ふりがな	いわてけんないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	岩手県内遺跡発掘調査報告書
副書名	平成28年度復興関係
シリーズ名	岩手県文化財調査報告書
シリーズ番号	第152集
編集者名	岩手県教育委員会
編集機関	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課
所在地	〒020-8570　岩手県盛岡市内丸10－1　TEL 019－629－6180
発行年月日	平成30年3月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
南川尻遺跡	九戸郡洋野町種市第28地割	3507	IF48-1197	40度24分49秒	141度41分56秒	20160418～0525	1,320	記録保存調査
サンニヤⅠ遺跡	九戸郡洋野町種市第25地割33-1	3507	IF48-2128	40度24分44秒	141度41分59秒	20160606～0623	496	記録保存調査
サンニヤⅢ遺跡	九戸郡洋野町種市第25地割	3507	IF48-2250	40度24分28秒	141度42分09秒	20170206～0224	885	記録保存調査
桑畑Ⅶ遺跡	久慈市侍浜町桑畑第３地割45-2	3207	IG90-1161	40度16分59秒	141度47分04秒	20160704～0728	1,500	記録保存調査
向新田XX遺跡	宮古市田老乙部野	3202	KG74-2172	39度46分58秒	141度57分53秒	20160627～0708	220	記録保存調査
腹帯Ⅳ遺跡	宮古市腹帯第３地割	3202	LG40-2030	39度36分00秒	141度45分44秒	20160622・1024～1102	240	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南川尻遺跡	散布地	縄文	墓壙１・土坑５・陥し穴状土坑６	縄文土器・石器	
サンニヤⅠ遺跡	散布地	縄文	陥し穴状土坑７	縄文土器・石器	
サンニヤⅢ遺跡	散布地・狩場	縄文	陥し穴状土坑８	縄文土器・石器	
桑畑Ⅶ遺跡	散布地	縄文・古代	竪穴住居跡２・土坑２・ピット３・性格不明遺構１	縄文土器・土製品・石器	
向新田XX遺跡	散布地	縄文	ピット３	縄文土器	
腹帯Ⅳ遺跡	集落跡	縄文	土坑１・ピット16	縄文土器・石器	

岩手県文化財調査報告書 第152集

岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成28年度 復興関係）

印　刷　平成30年３月27日
発　行　平成30年３月27日

発　行　岩手県教育委員会
〒020－8570 岩手県盛岡市内丸10番1号
電 話（019）629－6180
編　集　岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課
印　刷　（株）興版社
〒020－0816 岩手県盛岡市中野1-4-14
電 話（019）624－3456

© 岩手県教育委員会　2018